

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人東京科学大学
理事長 大竹 尚登

東京科学大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒152-8550 東京都目黒区大岡山2丁目12-1
氏名	国立大学法人 東京科学大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東京科学大学病院

3 所在の場所

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
電話03-3813-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科						有
内科と組み合わせた診療科名等						
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科
診療実績						
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、リウマチ科については、合同内科において診療を行っている。						

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
乳腺外科、消化器外科については、合同外科において診療を行っている。 小児外科については、小児科において診療を行っている。							

1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	内科	2	外科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6	脳神経内科	7	歯科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	0	0	0	772	813

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	323	363.6	686.6
歯科医師	119	149.7	268.7
薬剤師	78	1.5	79.5
保健師	0	0	0
助産師	38	0	38
看護師	1052	20.9	1072.9
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	38	1.5	39.5
管理栄養士	12	0.5	12.5

職種	員数
看護補助者	51.6
理学療法士	38
作業療法士	11.7
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	38.9
栄養士	0
歯科技工士	26
診療放射線技師	74

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	107.1
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	8	
その他の技術員	45	
事務職員	343.3	
その他の職員	0	

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 (注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	82	眼科専門医	4
外科専門医	44	耳鼻咽喉科専門医	15
精神科専門医	15	放射線科専門医	7
小児科専門医	36	脳神経外科専門医	14
皮膚科専門医	2	整形外科専門医	36
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	16
産婦人科専門医	20	救急科専門医	11
		合計	309

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 (注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (藤井 靖久) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1日

R2.4.1から病院長就任前のR5.3.31までは医療安全担当の副病院長として医療安全管理委員会への出席や、レベル3b以上の事例及び死亡退院事例検証会の検証結果の報告を受ける等、院内の医療安全管理に携わり、R5.4.1～ 医療安全管理委員会委員長として関わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	638.4 人	36 人	674.4 人
1日当たり平均外来患者数	2,062.1 人	1346.8 人	3,408.9 人
1日当たり平均調剤数	外来:229.3 入院:1,045.1		剤
必要医師数	177		人
必要歯科医師数	5		人
必要薬剤師数	21		人
必要(准)看護師数	424		人

1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	14 床	心電計	有
集中治療室	302 m ²	SRC(一部S)	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
その他の救急蘇生装置			有	ペースメーカー	有	
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	210 m ²	病床数	17 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	41 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	622 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	検体検査自動分析装置一式、検体検査情報システム一式		
細菌検査室	104 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	同定・感受性分析装置一式、細菌検査情報システム一式		
病理検査室	544 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	病理標本作製システム一式		
病理解剖室	54 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	緩衝ホルマリン作成装置一式、病理解剖撮影システム一式		
研究室	1,059 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	高速液体クロマトグラフィー一式		
講義室	258 m ²	SRC(一部S)	室数	1 室	収容定員	173 人
図書室	65 m ²	SRC(一部S)	室数	2 室	蔵書数	2,300 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	83.67	%	逆紹介率	53.42	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		30,629		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		22,917		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,268		人
	D: 初診の患者の数		42,898		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
中島 勸	虎の門病院 医療安全部 部長	○	虎の門病院医療安全部長として、医療安全に対し豊富な経験と知識を有している。	無	1
児玉 安司	新星総合法律事務所 弁護士 国立がん研究センター 理事医師		医療安全の問題に取り組むなど、医学及び法学の立場から幅広い視野視点を有し、医療安全に関し精通している。	無	1
豊田 郁子	NPO法人 架け橋 理事長		患者・家族と医療をつなぐ NPO 法人 架け橋理事長として、患者・家族と医療従事者のより良い関係の促進やコミュニケーションに関する豊富な知見を有している。	無	2
岡田 就将	本学政策科学分野 教授 本学寄附講座 東京都地域医療政策学講座寄附講座教授		日本における保険医療政策に対し豊富な経験と知識を有している。	有	3

- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法: 本学及び本院のHPIに掲載。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 造血器腫瘍、難治性造血器疾患に対する同種造血幹細胞移植治療□			
医療技術名	CAR-T療法(キメラ抗原受容体発現T細胞療法、チサゲンレクルユーセル、イエスカルタ)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 患者自身のTリンパ球を用いて、腫瘍細胞の表面の抗原(CD19)を認識するキメラ抗原受容体を発現させ改変する技術。難治性急性リンパ性白血病またはびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する免疫療法の一つ。□			
医療技術名	治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬が無効の難治性病態であり、世界各国の最新知見に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性のSLE、皮膚筋炎/多発性筋炎、成人発症スチル病、血管炎症候群、全身性強皮症に対するミコフェノール酸モフェチルの使用	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、世界各国より発出されている本剤の有効性を示唆する学術報告に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の全身性エリテマトーデスに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、当該薬は有効性が世界で評価されているものの開発が困難な状況が確認されているため、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の関節リウマチに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬での治療困難な難治性病態であり、当該薬は世界的には公知の治療薬であるいっぽう本邦では開発要望に対して現時点では承認見込みが立っていないことから、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性、難治性の炎症性筋疾患(多発性筋炎、皮膚筋炎)に対するトファシチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効の難治性病態であり、世界各国の最新知見に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安動脈炎に対するインフリキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	57

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ベーチェット病に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性、難治性の炎症性筋疾患に対するアバタセプトの使用	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。□			
医療技術名	治療抵抗性の高安動脈炎に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性のIgG4関連疾患に対するミコフェノール酸モフェチルの使用	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	全身性毛細血管漏出症候群に対するヴェノグロブリンの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性の石灰沈着症に対するトファンチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	ステロイド及び免疫抑制剤に治療抵抗性の好酸球性多発血管炎性肉芽腫に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	エルドハイムチェスター病に対するペガシス(ペグインターフェロン アルファ 2a)の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	12

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	治療抵抗性の乳び胸水、乳び腹水に対するサンドスタチン注の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	A20ハプロ不全症に対するバリシチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性の関節リウマチ関連間質性肺炎に対するミコフェノール酸モフェチル	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性多発性筋炎・皮膚筋炎に対するウステキヌマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性再発性多発軟骨炎に対するゴリムマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	難治性再発性多発軟骨炎に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安動脈炎に対するトファチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の石灰沈着症に対するトファチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	CSII(インスリンポンプ療法)/SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 電動式携帯ポンプにより可変的かつ持続的に皮下にインスリンを注入する治療			
医療技術名	副腎静脈サンプリング	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 左右の副腎静脈より採血してアルドステロン濃度を測定することで、原発性アルドステロン症の責任病変を同定する検査(放射線科と共同で施行)			
医療技術名	難治性内分泌疾患に対する薬物療法	取扱患者数	462
当該医療技術の概要 先端巨大症、プロラクチン産生腫瘍、原発性副甲状腺機能亢進症、クッシング症候群、副腎不全、性腺機能低下などの難治性内分泌疾患に対する専門的な薬物治療			
医療技術名	次世代シーケンSPAパネルによる網羅的腎臓病診断と治療選択の実施	取扱患者数	98
当該医療技術の概要 腎性尿崩症、塩喪失性腎症、遺伝性高血圧症、多発嚢胞性腎疾患、先天性代謝性腎疾患など既知の遺伝性腎疾患責任遺伝子群を同時にスクリーニングするNGSパネルを運用し、これまでに累積1454件の遺伝子診断を行なった。多くの診断に貢献し、また遺伝子型に応じた治療選択法の礎として注目を得ている。			
医療技術名	Fabry病に対する酵素補充療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 α -galactosidase A酵素をコードする遺伝子の異常によって起こる先天性脂質代謝異常症であるFabry病では、酵素活性低下で分解できない糖脂質が全身組織に蓄積し、腎不全、心不全、脳梗塞など多臓器障害が起こる。治療として、酵素活性低下を補うための酵素補充療法があり、2週に一度静脈内投与を行う。			
医療技術名	エキシマレーザーを用いたリード抜去術	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 カテーテルの先端より照射される紫外域パルスエキシマレーザーにより、ペースメーカーや植え込み型除細動器などの癒着したリードの抜去到有効である。リードを含むデバイス感染例が増えており、大学病院を含む多くの医療機関からの紹介件数が増加している。			
医療技術名	心房細動に対するマーシャル静脈へのエタノール注入(化学的アブレーション)	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 通常のカテーテルアブレーションでは焼灼が困難な僧帽弁輪峡部へ修飾の有効な手段として、長期持続性心房細動、心房粗動症例に施行されている。			
医療技術名	超高出力短時間焼灼による肺静脈隔離術	取扱患者数	104
当該医療技術の概要 通常の高周波出力(25-30W程度)よりも高出力(90W)で4秒の通電で肺静脈隔離を行うことで、より安全に短時間で心房細動のカテーテルアブレーション治療を行うことができる			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	740

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	冠動脈レーザー血管形成術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端より照射される紫外域パルスエキシマレーザーにより冠動脈のアテロームプラーク、石灰等を蒸散させる治療方法。血栓性病変、ステント再狭窄に有効である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT/OFDI)	取扱患者数	139
当該医療技術の概要 近赤外線を用いて冠動脈内膜の詳細を観察する画像診断法。OCT/OFDIを使用することで、冠動脈インターベンション術後の合併症、再狭窄率を低減させている。			
医療技術名	高速回転式冠動脈アテレクトミー	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端よりダイヤモンドチップを埋め込んだバー(ドリル)を高速回転させることにより冠動脈の石灰を切削する治療方法。石灰の強い冠動脈プラークに威力を発揮する。			
医療技術名	方向性冠動脈粥腫切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端で冠動脈近位部のプラークを直接切削する治療法。			
医療技術名	アテローム切除アブレーション式血管形成術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端よりダイヤモンドチップを埋め込んだバー(ドリル)を高速回転させることにより冠動脈の石灰を切削する治療方法。石灰の強い冠動脈プラークに威力を発揮する。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 重症大動脈弁狭窄症に対して、大動脈弁置換術を経カテーテル的に行う手技。全死亡を改善が期待される。低侵襲であり、総大腿動脈からのアプローチで、高齢者に対して特に検討される治療法。			
医療技術名	経カテーテル的僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 左室駆出率の低下した慢性心不全患者に対して、最適薬物療法下でも重症の僧帽弁閉鎖不全症を認める場合に適応となる。QOLの改善や心不全再入院抑制効果が期待される。			
医療技術名	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)(指定難病79)の診断と治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)は、稀な遺伝性疾患であり、2022年度の特典医療費(指定難病)受給者証保持者数は全国で398例である。当診療科は日本動脈硬化学会が認定する動脈硬化専門医が診療に従事し、専門的医療を提供している。具体的には、遺伝子診断、及び国内でまだ投与実績の少ない、新規治療薬(遺伝子組換えヒトモノクローナル抗体、エビナクマブ)に関し、治験からの先駆的継続的な治療実績を有する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	195

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	MR enterocolonography (MREC)	取扱患者数	300
当該医療技術の概要 前処置および撮影方法の工夫により、一回の検査で小腸および大腸を同時に評価するMR検査。主な適応疾患はクローン病			
医療技術名	シングルバルーン胆道内視鏡 (SBERC)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 ダブルバルーン内視鏡により、通常の方法では到達が困難な術後などの症例に対し胆道鏡を行う。			
医療技術名	シングルバルーン内視鏡による外来小腸内視鏡検査	取扱患者数	212
当該医療技術の概要 入院せず外来で、経肛門的にシングルバルーン内視鏡を挿入し、低侵襲に小腸を検査する。			
医療技術名	内視鏡的小腸狭窄拡張術	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 深部小腸の狭窄に対し外科的手術を回避し低侵襲に内視鏡的に治療を行う。			
医療技術名	Nudix hydrolase 15 (NUDT15) 遺伝子codon139の遺伝子多型検査	取扱患者数	350
当該医療技術の概要 炎症性腸疾患の治療におけるチオプリン製剤の重篤な副作用の予測に有用なNUDT15 (Nudix Hydrolase 15) 遺伝子多型を検出することにより、チオプリン製剤による治療選択を補助し、最適な治療法の提供や医療費の適正化に貢献する。			
医療技術名	C型肝炎ウイルスの遺伝子解析による薬剤耐性変異検査	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 C型肝炎に対する抗ウイルス療法への耐性を規定するC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			
医療技術名	総合的な非侵襲的肝線維化・脂肪化診断に基づく個別化診療	取扱患者数	1,200
当該医療技術の概要 複数の非侵襲的肝線維化診断法・脂肪評価法を駆使した病態リスク評価に基づく個別化医療。			
医療技術名	画像支援システムを駆使した肝癌ラジオ波治療	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 合画像診断と造影超音波および画像ナビゲーションシステムを駆使した肝癌局所療法。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	2,281

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 同種骨髄、末梢血幹細胞、臍帯血を移植することにより、難治性白血病や、遺伝子異常に起因する先天性免疫不全症の根治治療をする。原発性免疫異常症に対する移植は、白血病に対する移植と異なり、様々な合併症があり難易度の高い移植である。また家族内ドナーからのHLA半合致移植も行っている。また、小児悪性軟部肉腫に対する大量化学療法・自家末梢血幹細胞採取も行っている。			
医療技術名	再発・難治急性リンパ性白血病に対するCAR-T「キムリア」療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本治療法は、遺伝子組換えレンチウイルスベクターを用いて、CD19を特異的に認識するキメラ抗原受容体(CAR)発現遺伝子を患者由来のT細胞に導入した再生医療等製品である。非常に予後不良であった再発難治B細胞型急性リンパ性白血病に対して、多くの症例において単回投与で長期寛解を維持できるなど、画期的な結果が得られている。CART細胞療法は、サイトカイン放出症候群や中枢神経合併症など、時にICU管理を必要とする治療合併症が知られており、副作用が発現した際に集中治療を含めた必要な対応をとることができるよう、院内多職種連携のもと本治療が行われている。			
医療技術名	重症原発性免疫不全症に対するTREC,KREC測定	取扱患者数	136
当該医療技術の概要 本検査法は、原発性免疫不全症の中でもT細胞、B細胞欠損症に対するスクリーニング検査として、その有効性は非常に高い。現在新生児スクリーニングに向けて、実用化が進められているが、他の免疫異常症に対する免疫能の簡便な検査として、保険適用を目指し開発中であり、免疫異常症患者等で検査を行った。			
医療技術名	マルチカラーフローサイトメーターを用いた原発性免疫異常症、造血細胞移植後などに対するリンパ球解析	取扱患者数	271
当該医療技術の概要 本検査法は、マルチカラーのフローサイトメーターを用いて、少量の血液で、非常に詳細なリンパ球分化について解析可能な方法であり、有効性は非常に高い。免疫異常症および造血細胞移植後の免疫系の再構築の評価のため、多数例の検討を行った。			
医療技術名	肺動脈性肺高血圧症に対する標的治療薬による治療	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 小児肺高血圧症の中でも、肺動脈性肺高血圧症はその大部分を占め予後不良であり難病指定されている。近年、肺高血圧症の新規標的治療薬の開発が進み予後は大幅に改善しているが、エボプロステノールの持続皮下注射の導入や管理、エコーやカテーテル検査による適切な評価と方針の決定などを行える施設は限られている。特に小児の重症肺高血圧症の専門治療を行える施設は非常に少ない。			
医療技術名	先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患の遺伝学的検査を含めた包括的な診断および治療	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患は、多くの細分化された病型があり、その治療法の選択は病型によっても異なる。さらに性分化疾患では正確な病態把握以外に、社会的性決定という特殊かつ高度な医療社会的判断を必要とする。当院では、これらに対し、遺伝学的手法を利用した包括的かつ正確な診断を行い、それに基づいた社会的性決定およびそれらに基づく治療の提供を行っている。			
医療技術名	重症先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注およびランレオチド(ソマトスタチンアナログ徐放性製剤)皮下注を中心とした、包括的治療体制の提供	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 オクトレオチド持続皮下注は重症先天性高インスリン血症に対する有効な治療である反面、その特殊性・高度専門性から治療体制が整備された施設は限定されている。当院では、早期遺伝学的診断および画像診に基づく病型診断や持続血糖モニタリングによる安全な管理を基盤として、インスリンポンプを用いたオクトレオチド持続皮下注治療に加え、新たにランレオチド間欠皮下注による治療提供体制を整備している。			
医療技術名	性分化疾患における社会的性決定を含めた多職種医療チームによる対応	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 性分化疾患における社会的性決定は、将来的な性自認予後や、泌尿生殖器の解剖学的、機能的見地を含め、多職種のスタッフによる総合的な見地からの議論と決定を必要とし、高度の専門的な医療技術を要する。本疾患は頻度は少ないが、毎年数名の対応をおこなっている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	8
取扱い患者数の合計(人)	442

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	小児リウマチ性疾患に対する、標的治療薬による治療	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 リウマチ性疾患および自己炎症性疾患は小児疾患の中でもまれであるが、難病指定されている疾患である。現在使用されている3種類の標的治療薬(抗IL-1抗体、抗IL-6製剤、抗TNF製剤)の静注薬あるいは皮下注製剤を病態に応じて、治療を行っている。従来の治療薬では改善が見込めなかった患者に対して適宜使用することによって、極めて高い寛解を図ることが可能となっている。			
医療技術名	難治性ネフローゼ症候群に対する分子標的薬療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 難治性ネフローゼ症候群は、通常の免疫抑制剤であるシクロスポリンやミゾリピンでは、寛解を維持できない疾患である。このように上記疾患に対して分子標的薬(リツキシマブ)は、近年有効であることが示されたものであるが、顕著なInfusion reactionを呈することや、投与後一定期間Bリンパ球が枯渇することに伴うカリニ肺炎や、発熱性好中球減少性や白質脳炎出現の危険性が伴うため、薬剤の特性を熟慮した医師が、十分な注意をしつつ投与する必要がある。当院では、年4-5例程度であるが、5年以上の期間、この薬剤投与の経験を有しており、安全に投与することが可能である。			
医療技術名	小児に対する急性血液浄化療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 急性血液浄化療法は、急性の機能不全、または慢性機能不全の急性増悪に陥った臓器に対する機能補助、もしくはサイトカインや抗体などの各種成分の除去を目的とした体外循環による治療である。小児ではその特性として、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく危険性が高いこと、そのために1ml単位の細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であること、から高い専門技術を必要とする。			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法は、血管拡張作用のある一酸化窒素ガスを直接肺に吸入することにより、肺血管抵抗を下げて、循環動態を改善させる治療法である。他の薬剤療法と比べ、体血圧には影響を与えず肺動脈のみを選択的に拡張させることが利点であり、比較的安全に施行可能であるが、血小板機能障害やメトヘモグロビン血症などの副作用に注意して行う必要がある。			
医療技術名	長時間ビデオ脳波同時記録	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 てんかん治療の進歩(外科治療など)に伴い、てんかん発作型の詳細な解析が重要性を増している。そのための最も標準的な方法はデジタル脳波計を用いて数時間～数日に及ぶ長時間ビデオ脳波同時記録を行うことであるが、小児においては記録・判読共に熟練を要し、施行可能な医療機関は限られている。			
医療技術名	自己免疫性神経疾患に対する血漿交換療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 抗NMDA受容体抗体脳炎、抗アクアポリン4抗体陽性視神経脊髄炎などでは、通常免疫調整療法に抵抗性の難治例や重症例において、血漿交換療法が有効な場合があるが、小児では治療選択に関して豊富な経験が必要である。また小児は、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であることから高い専門技術を必要とする。			
医療技術名	脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療薬「オナセムノゲン アベパルボベク」	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本治療法は、脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療薬であり、有効性は非常に高い。アデノ随伴ウイルス9型のベクター製品であり、カルタヘナ法を遵守した投与が必要となる。また投与後の長期的なフォローも重要である。当院は脊髄性筋萎縮症の診療経験を有しており、またカルタヘナ法に対応した投与体制が整っており、安全に投与することが可能である。			
医療技術名	クロザピンによる治療抵抗性統合失調症患者の治療	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 従来の抗精神病薬に抵抗する難治性症状のため不安定な状態が続く統合失調症患者に対し、クロザピンによる治療を行う。クロザピンは、治療効果が高い反面、無顆粒球症、心筋障害、耐糖能異常等の副作用を引き起こし重症化し易い問題があるため、所定の講習を得た登録医により、血液内科・循環器内科・糖尿病・内分泌・代謝内科・薬剤部の協力体制が確立している限定された施設でのみ実施が許可されている。□			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	158

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 薬物療法に抵抗する難治性のうつ病、双極性障害、統合失調症、口腔内セネストパチー、器質性精神疾患等を対象として、手術室において麻酔科による全身麻酔の管理のもとで、前頭部に電極を装着し、矩形波出力型のパルス浪通電装置を用い、脳への通電を行う。けいれんを生じさせず、副作用のリスクを低減した方法であり、修正型と呼ばれ、全身麻酔管理のできる施設と医師を要する高度な医療である。□			
医療技術名	免疫機序関与精神疾患に対する免疫学的治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 一部の統合失調症については、自己免疫性精神病が遷延している場合がある。その関与が疑われた患者に対して自己抗体の検出を行い、検出された症例に対して免疫学的な治療を行う。			
医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 日本では2018年に診療報酬改定があり、食道癌に対するロボット支援手術が保険収載された。食道癌手術ではロボットを使うことで術後の合併症率を減らす効果がある可能性が報告されており、発声や食物嚥下など術後QOLに関わる重要な機能を温存するのに役立つと期待される。消化管外科学分野全体でロボット支援下手術の導入と症例数増加を図っているところであり、当科も着実に症例数を増やしつつある。			
医療技術名	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（ロボット支援を含む）	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 食道がん根治術における上縦隔郭清を伴う治療では経胸腔操作が必要であったが、縦隔鏡手術では、胸部操作が必要なく、分離肺換気および肺虚脱の必要もないため従来の胸腔鏡手術よりもさらに低侵襲となると予想され、体への負担が軽減される有用な治療法である。			
医療技術名	喉頭温存・頸部食道切除術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 頸部食道癌、中でも咽頭浸潤を伴うものは、一般に喉頭温存が困難であり術後の失声を伴った咽頭・頸部食道切除術が選択されるのが一般的である。当科では喉頭回転法を併用するなど視野展開を工夫しながら可及的に喉頭・反回神経を温存して、QOLを保った頸部食道癌手術を心掛け、他院からも多くの紹介患者が来院している。			
医療技術名	下部食道切除後の胸腔内吻合・回結腸間置再建術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 食道胃接合部癌に対する下部食道切除後の消化管再建は、挙上性や縫合不全などの短期的な問題と、胃食道逆流および体重減少などの中長期的な問題がいずれも問題となる課題の多い手技である。これらを解決しうる再建方法はいまだ存在しないが、本術式はこれらの問題の一部を解決しうる再建方法である。			
医療技術名	表層拡大型食道早期癌に対する段階的内視鏡治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 食道表在癌のうち深達度のごく浅く粘膜に止まるもの多くは、内視鏡的粘膜下層剥離術を用いた一括切除により疾患のコントロールが期待できるが、切除範囲が広い場合は高度狭窄を来し患者のQOLの低下が生じる場合がある。当科では病変の一部を計画的に遺残させることで切除範囲を調整し、遺残部位にはアルゴンプラズマを用いた焼灼術を経時的に行い、狭窄予防を図りつつ、根治性を保つ治療を行っている。			
医療技術名	頸部食道浸潤T3下咽頭表在癌に対する経口的切除(ELPS+ESD)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 当科では1996年より食道癌に重複した頭頸部表在癌の内視鏡治療を開始し、現在300例500病変を超える治療経験を有している。頸部食道に浸潤した下咽頭表在癌はステージ3で一般的には経口的切除は困難で高度の技能を要するが頭頸部外科との協力で内視鏡治療と経口的切除をミックスして治療にあたり、喉頭温存可能な低侵襲治療を実現している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	63

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援胃切除	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダビンチ・Xi」と「ダビンチ・X」を用いた胃切除術を行っている。手術支援ロボットの特長である、自然な3D画像、多関節機能、手振れのない手術操作により、従来の腹腔鏡手術と比較し、より精細な手術を行うことが可能となっている。術式は幽門側胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援鼠径ヘルニア修復術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 ロボット支援ヘルニア修復術は、術後の疼痛軽減などに繋がるといわれているが、日本では保険適応外となっている。当院では高難度新規医療技術申請を行ない、ロボット支援下ヘルニア修復術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援直腸切除手術	取扱患者数	101
当該医療技術の概要 従来、開腹手術や腹腔鏡下手術で行ってきた直腸癌に対する前方切除術を手術支援ロボットを用いて行っている。ロボット支援下手術は、ロボットの特性や利点欠点を熟知した上で扱う必要がある、その特徴を最大限に活かすことによって、機能温存を保ちつつ確実な直腸癌根治術が可能となる。			
医療技術名	ロボット支援結腸悪性腫瘍切除術	取扱患者数	64
当該医療技術の概要 従来、開腹手術や腹腔鏡下手術で行ってきた結腸癌に対する結腸悪性腫瘍切除術を手術支援ロボットを用いて行っている。手術支援ロボットの特性を活かして、腸管切除と再建を行い、より低侵襲で安全性の高い手術を実施することが可能となっている。			
医療技術名	骨盤内臓器全摘術、ロボット支援骨盤内臓器全摘術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 他臓器浸潤を伴うような高度進行直腸癌患者や直腸癌術後骨盤内局所再発患者に対する根治手術として骨盤内臓器全摘術が適応になることがあるが、腸管切除のみではなく泌尿生殖器臓器の合併切除と再建(人工肛門および回腸導管)が必要であり、高難度の術式である。中でも再発患者に対する手術については前手術の影響があり難易度がさらに上がる。			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する低侵襲手術治療(腹腔鏡下またはロボット支援大腸全摘術)	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎(UC)の手術治療(大腸全摘)は、全身状態不良な患者が多く、時には緊急手術を要する場合があり、手術侵襲も高いことから高難度である。さらに腹腔鏡下またはロボット支援といった低侵襲大腸全摘術は手技の定型化が確立されておらず難易度が高い。一方で、低侵襲手術が完遂できた場合は、術後回復は速やかである。当科ではこの低侵襲手術を積極的に取り入れ、緊急下においても安全に施行し得ている。特に本術式では肛門管内における確実な直腸粘膜剥去および内肛門括約筋の温存が重要であるため、緻密な操作に有用なロボット支援手術が完遂できた場合は、過不足のない確実な切除が期待でき、さらに肛門機能・排尿障害・性機能障害などの後遺症リスクの低減が期待できる。そのためUC関連直腸癌症例、肥満症例、亜全摘後の残存直腸症例にロボットアプローチを適応としている。			
医療技術名	力覚フィードバック機能を有する新規手術支援機器(ロボット)を用いた大腸	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 現在、普及している多くの手術支援機器のデメリットの一つに、触覚の欠如がある。触覚を有するロボットを使用することにより、より安全で正確な大腸癌手術を行える可能性がある。当科では力覚フィードバックを有する新規ロボットを導入し、大腸癌手術における治療デバイスの選択肢の一つとして提供している。			
医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	248

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	遺伝性乳癌卵巣がん症候群の方に対する予防的乳房切除	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 遺伝科や婦人科と共同で診療にあたり、BRCA遺伝子変異が認められた方に行われる、高い倫理性が求められる手術である			
医療技術名	新生児腸管穿孔手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 低出生体重児で心疾患等の合併症も有する新生児の腸管穿孔・腹膜炎に対する高度の医療である。			
医療技術名	新生児腸回転異常症手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 新生児に対する、大量小腸切除を防ぐための高度医療である。			
医療技術名	鎖肛根治術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児の先天性疾患の代表例でもある鎖肛に対する根治術である。			
医療技術名	先天性横隔膜ヘルニア根治術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 各国の医療技術を反映するとも言われる高度の医療の代表的な手術の1つである。			
医療技術名	悪性褐色細胞腫全摘出(小児)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 副腎原発の小児悪性腫瘍に対する高度医療である。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に肝切除を行なう。			
医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に腓体尾部切除を行なう。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	50

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に膵頭十二指腸切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下膵体尾部切除術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に膵体尾部切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に膵頭十二指腸切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下肝部分切除術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に肝部分切除を行なう。			
医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 薬剤コントロール困難な難治性てんかん症例において、手術で迷走神経刺激装置を埋め込むことで発作を緩和する			
医療技術名	術中脳波、ナビゲーションシステム等マルチモダリティーによるてんかん焦点	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 てんかん症例において、手術中に脳波、PETガイド、MRIナビゲーションを使用することでより効果的で安全性の高い焦点切除術を遂行する			
医療技術名	頭頸部および頭蓋底の腫瘍に対する手術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 脳神経外科、頭頸部外科、形成外科、耳鼻咽喉科の医師がチームとして頭頸部、頭蓋底部、ないしはその両方にまたがる腫瘍症例の摘出術を遂行する			
医療技術名	Met-PETガイド悪性脳腫瘍摘出術	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 手術前に施行したアミノ酸代謝PETにおける結果(アミノ酸の悪性腫瘍細胞への取り込み)をもとに、適切な手術範囲の計画や手術中のガイド(摘出部位、摘出範囲)に役立てる			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	72

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	非造影MRIによるASL perfusion MRI	取扱患者数	500
当該医療技術の概要 脳虚血性疾患(頭蓋内動脈狭窄/閉塞症、頸動脈狭窄/閉塞症、もやもや病、など)において、造影剤を使用することなく非侵襲に脳循環動態を計測することができる			
医療技術名	治療困難な脳動脈瘤に対するFlow diverterステント留置術	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 通常のコイル塞栓術(ステント併用を含む)では治療困難な脳動脈瘤に対して、動脈瘤内にコイルを留置することなく下記のステントとは全くことなるflow diverterステントのみを留置して動脈瘤を閉塞する新たな治療法。術者と実施施設が限定された治療法のため他の脳神経外科施設から治療依頼がある。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する塞栓術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 稀少な疾患、かつ重篤化する可能性のある硬膜動静脈瘻に対し、脳血管造影検査による適切な診断を基に、適切な治療法を決定する。血管内治療が可能な症例については、カテーテルを用いて「コイル」や「液体塞栓物質」を用いて標的血管をつめる治療を行う。			
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする			
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術			
医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	74
当該医療技術の概要 脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。			
医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	130
当該医療技術の概要 脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎手術をおこなう技術。			
医療技術名	腫瘍脊椎骨全摘術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 脊椎に存在する腫瘍を一塊として摘出する手術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	767

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	術中CTナビゲーションを使用した脊椎手術	取扱患者数	38
当該医療技術の概要 脊椎手術中にCT撮影を行うことで、除圧やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。			
医療技術名	表面筋電図を用いた脊椎後弯症患者の痛みの客観的評価	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 脊椎後弯症患者の疲労性腰痛を表面筋電図の波形を用いて客観的に分析評価する技術			
医療技術名	人工骨と自己骨髄血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	136
当該医療技術の概要 脊椎固定術をハイドロキシアパタイト/コラーゲン人工骨および自己骨髄血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起こさな			
医療技術名	膝前十字靭帯再建術	取扱患者数	75
当該医療技術の概要 関節鏡視下に解剖学的に前十字靭帯を再建する。			
医療技術名	膝複合靭帯損傷	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 膝複合靭帯損傷に対し鏡視下に靭帯を再建する。			
医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術を両側同時に施行する。			
医療技術名	半月板逸脱に対する関節鏡視下手術	取扱患者数	180
当該医療技術の概要 関節鏡視下に骨棘切除、関節包解離の後逸脱した外側半月板をアンカーを用いて内方化する。また軟骨欠損に対する処置も併せて行う。			
医療技術名	初期変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術	取扱患者数	157
当該医療技術の概要 大腿骨・脛骨を骨切りし、変形した膝関節のアライメントを矯正する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	636

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	原発性無汗症に対するステロイドパルス療法	取扱患者数	134
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう難病であるが、それらの症例に対してステロイドパルス療法をしようすることによって良好な結果を得ている。			
医療技術名	原発性無汗症に対する発汗検査	取扱患者数	101
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう疾患で、指定難病であるが、それらの症例の診断に必須である発汗検査を行い、上記のステロイドパルス療法へ繋げている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する免疫療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 抗PD-1抗体や抗CTLA4抗体を使用した新規の免疫療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する分子標的療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 BRAF阻害剤・MEK阻害剤を使用した新規の分子標的療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	難治性痒疹患者のNB-UVB療法	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 難治性痒疹は通常の外用療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例に対して、narrow band UVBを照射するという治療を行っており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎のNB-UVB療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、narrow band UVBを照射するという治療を併用しており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	71
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、新規生物学的製剤を併用しており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対するJAK阻害薬投与	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、新規JAK阻害薬を併用しており、良好な結果を得ている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	358

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	自己免疫性水疱症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	57
当該医療技術の概要 自己免疫性水疱症(尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など)は、皮膚科で入院を要する疾患の代表的なものであり、指定難病である。当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換療法などを施行し、良好な効果を得ている。			
医療技術名	Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症は、致命的で後遺症を残す重症薬疹であり、指定難病である。当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換療法などを施行し、良好な効果を得ている。			
医療技術名	神経線維腫症1型に対する診療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 神経線維腫症1型は遺伝性疾患で、指定難病である。当科では、診断を皮膚科的診察で行い、適宜、合併症検索と腫瘍切除術を行っている。			
医療技術名	Fabry病に対する酵素補充療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 指定難病19ライソゾーム病の一種であり、2週間に1回の酵素補充療法を必要とする。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除	取扱患者数	61
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下前立腺全摘除である。現在では標準術式としてほぼ確立しており、本邦でも前立腺全摘除の80%以上が本術式で行われているとされているが、比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下膀胱全摘除である。手術侵襲を低減するべく、本邦でも普及が進んできている手術である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となる。手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎部分切除はその低侵襲性から標準術式となりつつあり、術中腎血流遮断時間の短縮や出血の低減、疼痛の軽減、入院期間の短縮などを可能としている。難易度は比較的高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対する外科治療において、高い有効性や安全性から腹腔鏡下仙骨腔固定術は世界的な標準治療として広く普及していた。腹腔鏡下仙骨腔固定術にとって高難度の操作性が欠点であったが、内視鏡手術用支援ロボットの導入により克服され、今後ますます普及すると考えられる。当院では泌尿器科・婦人科合同のロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術チームを結成し、より綿密な治療を提供できる体制を整えており、近隣の泌尿器科・婦人科より多くの紹介を受けている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	204

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎摘除	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎摘除である。従来行われてきた開腹あるいは腹腔鏡下腎摘除と比較し、さらなる低侵襲化と安全性の確保に寄与しうる術式である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎尿管全摘除	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎尿管全摘除である。従来行われてきた開腹あるいは腹腔鏡下腎摘除と比較し、さらなる低侵襲化と安全性の確保に寄与しうる術式である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたく先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。頭部装着型立体ディスプレイを用いたガスレス・シングルポート・ロボサージャン型手術を開発し、2011年途中より行っている。			
医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 筋層浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに根治可能であることが知られている。これより、適切な症例選択のもと、膀胱腫瘍の最大限の経尿道的切除後に化学放射線療法を施行する膀胱温存療法を施行している。また、当科で規定している基準を満たす転移のない筋層浸潤性膀胱癌患者に対し、膀胱腫瘍の最大限の経尿道的切除後に化学放射線療法、さらにミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清を組み合わせた膀胱温存療法を、倫理審査委員会の承認のもとに行っている。			
医療技術名	腎癌の無阻血低侵襲腎部分切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下や仮性動脈瘤発生などのリスクがある。術後の腎機能を良好に保ち合併症を回避するために、腎血流を遮断しない術式を開発し、施行している。			
医療技術名	前立腺癌の前立腺部分治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療法の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺を部分的に治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。本治療は倫理委員会の承認のもとに行われている。			
医療技術名	MRI/経直腸超音波画像弾性融合前立腺針生検法	取扱患者数	156
当該医療技術の概要 高齢化社会において増加している前立腺癌の患者の診断をより正確に行うべく、前立腺針生検の検査前にMRIを施行し、電磁追跡型装置であるUroNav(InVivo社)を用いてMRI画像を生検時の経直腸超音波画像にリアルタイムで弾性融合させることにより、より精度の高い前立腺針生検を行うことを可能としている。従来超音波では検出不能とされている癌もMRI所見を融合させることにより十分検出可能となる。			
医療技術名	重度尿失禁患者に対する人工尿道括約筋埋込/交換	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 男性の前立腺全摘術や経尿道的前立腺切除術に伴う尿道括約筋の損傷により、一定頻度で重度の尿失禁が引き起こされ、患者のQOLを著しく下げてしまう。従来治療抵抗性であったこれらの尿失禁に対して、人工尿道括約筋埋込術は現在根治的に尿失禁を改善できる保険適応のある唯一の方法とされる。当院は先進医療や保険に収載される前から本手術を行っており、日本でも有数の人工尿道括約筋埋込施設として全国から患者が集まってきている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	238

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 希少疾患である間質性膀胱炎は2015年より難病指定を受け(ハンナー潰瘍を伴うものに限る)、今後ようやく検査・治療が発展していくものと予想される。間質性膀胱炎に対する唯一の保険適応のある治療が膀胱水圧拡張であるが、当院では先進医療であった時期より積極的に本手術を行っており、現在もコンスタントに患者が集まってきている。			
医療技術名	下大静脈あるいは右心房までの浸潤を伴う腎癌に対する、根治的腎摘除および腫瘍塞栓摘除	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 腎癌においては、しばしば下大静脈、あるいは右心房にまで到達するような腫瘍塞栓を形成することがあり、治療としては、根治的腎摘除に加え、下大静脈あるいは右心房を切開し腫瘍塞栓を摘除する必要がある。本手術は、ときに体外循環を要するなど、術後管理も含め非常に高度な技術や知識を要求される。			
医療技術名	インプラント 緑内障手術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 緑内障手術。新しいインプラント装置であるEX-PRESSやiStent、プリザーフロー、アーメドバルブを眼球内に挿入し、安定かつ合併症の少ない安全な術後眼圧管理が可能になる			
医療技術名	多焦点眼内レンズを使用した白内障手術	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 通常の白内障手術の単焦点レンズに加え、多重焦点レンズを使用する白内障手術。老眼の解消になり、多様化する患者のニーズに答えている。			
医療技術名	前房水PCRでの診断治療	取扱患者数	37
当該医療技術の概要 これまで原因不明であるぶどう膜炎に対して有用であり、診断がつくことで治療方針の決定に役立っている。			
医療技術名	側頭骨頭蓋底腫瘍の手術加療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 外耳道癌は100万人に一人とも言われるきわめて稀な疾患であり、その手術加療は難易度が極めて高く、行える施設は3施設に限られる。当科では外耳道癌に対する外側側頭骨切除ならびに側頭骨垂全摘術に関し国内屈指の症例数をもつ。また、脳神経外科と共同で頸静脈孔腫瘍の手術も施行している。その他の側頭骨頭蓋底腫瘍の手術も多数行っている。また最近では、外視鏡ORBEYEの導入や、OarmとStealthStationを用いた最先端の術中CTナビゲーションによる手術リスクの低減も行っている。			
医療技術名	人工内耳埋込術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 内耳障害により両側聾となった症例に対し、人工内耳埋込による聴覚の再獲得が可能となる。当科では本手術と術後の人工内耳のマッピングを継続して施行している。また、残聴保存型人工内耳や人工中耳、BAHAなどの埋込術も施行している。			
医療技術名	めまいの手術治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 メニエール病や遅発性内リンパ水腫に対する内リンパ嚢開放術、良性発作性頭位めまい症に対する半規管遮断術などめまいに対する内耳手術を施行している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	131

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	4K内視鏡を用いた下経外耳道内視鏡下耳科手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 低侵襲の経耳の内視鏡下耳科手術に最新の4K内視鏡を導入し、低侵襲かつ安全な手術を行っている。現在では耳科手術の半分以上を占める。			
医療技術名	外視鏡を用いた耳科手術	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 手術用顕微鏡ではなく外視鏡を全ての耳科手術に導入している。これにより、術者や助手の疲労軽減だけでなく、周囲の医師や学生が術者と同じ視野を共有できる教育的なメリットもある。さらに3Dホログラムによる手術ナビゲーションの開発と実証も行っている。			
医療技術名	頭蓋底手術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 頭蓋内外にわたる領域の腫瘍性病変の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			
医療技術名	経口的咽頭悪性腫瘍切除手術(ELPS: Endoscopic Laryngo-Pharyngelastomy)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 咽頭表在癌に対する経口的切除術は、低侵襲治療として有用である。先進的な治療であり高度の医療技術が必要である。			
医療技術名	小児悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 小児悪性腫瘍の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			
医療技術名	頭頸部悪性腫瘍に対する化学放射線療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 頭頸部がん専門医認定施設で頭頸部がん専門医のみ施行可能な治療である。分子標的薬を点滴投与翌日に患部に対して近赤外線を照射する治療。□			
医療技術名	再発転移頭頸部癌に対する光免疫療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 内耳障害により両側聾となった症例に対し、人工内耳埋込による聴覚の再獲得が可能となる。当科では本手術と術後の人工内耳のマッピングを継続して施行している。また、残聴保存型人工内耳や人工中耳、BAHAなどの埋込術も施行している。			
医療技術名	着床前胚染色体異数性検査(PGT-A)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 生殖補助医療によって得られた胚の染色体数を、移植する前に網羅的に調べる検査。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	217

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	卵巣組織凍結	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 小児悪性疾患患者などを対象に、抗がん剤などの卵巣予備能を低下させる治療を行う前に卵巣を摘出して凍結保存し、妊孕性温存を図る技術。			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	247
当該医療技術の概要 限局性悪性腫瘍に対し照射野内の放射線強度を変調させながら照射する技術で、従来よりも照射標的の形状に一致した線量分布を得ることができる。			
医療技術名	定位放射線治療	取扱患者数	46
当該医療技術の概要 5cm以下の小さな腫瘍に対し、4D-CTを用いて呼吸状態などの体の生理的可動域を加味しながら、小さな照射標的に複数の狭小X線ビームを用いて短期間に大量の線量を照射する技術。			
医療技術名	小線源治療	取扱患者数	97
当該医療技術の概要 口腔癌および前立腺癌に対しては低線量率線源を用い、子宮や乳腺に対しては高線量率線源を用いて、患部に直接的に線源を挿入し、専用コンピュータを用いた線量評価を行いながら病変を直接照射する技術。			
医療技術名	ペプチド受容体放射性核種療法 (Peptide Receptor Radionuclide Therapy)	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対する治療。ソマトスタチン類似物質に放射性同位元素のルテチウム177を標識した医薬品(ルタテラ)を投与し、ソマトスタチン受容体に結合し、ルテチウム177から放出される放射線ががん細胞を直接攻撃する。			
医療技術名	脳表シデローシスに対する硬膜瘻孔閉塞術や鉄キレート剤デフェリプロン投与	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 脳表へモジデリン沈着症は種々の原因で中枢神経系の軟膜下層にへモジデリンが沈着し、小脳障害、聴神経障害、嗅覚障害、脊髄障害などの中枢神経障害を引き起こす難病である。当院では、整形外科で硬膜瘻孔閉塞術、耳鼻科で人工内耳移植術、脳神経内科で鉄キレート剤投与によるへモジデリン除去療法の臨床治験を行っている。それぞれ有益な結果が得られている。多施設共同研究を行っている。			
医療技術名	難治性多巣性運動ニューロパチーに対するリツキシマブ投与	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 多巣性運動ニューロパチーは慢性進行性の筋力低下、筋萎縮を主徴とする脱髄性末梢神経疾患である。当院では標準治療である免疫グロブリン療法が奏功しない症例に対するリツキシマブ投与を行い、良好な効果を得ている。			
医療技術名	SOD1-ALSの治療薬トフェルセンの投与	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本邦では未承認のSOD-1遺伝子変異を有する遺伝性筋萎縮性側索硬化症 (ALS)の治療薬であるトフェルセンの投与を行った。同薬は米国食品医薬品局(FDA)が2023年4月25日に迅速承認しており、本邦では製造販売承認申請である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	449

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット心臓手術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 2023年10月より手術ロボットda Vinciを用いた心臓弁形成手術を開始した。ロボットを用いることで従来よりも格段に小さな傷で精密な弁形成術が可能となる。今年度までは弁形成術のみが適応であった。2024年度からは弁置換にも拡大される予定で、患者数は今後も増加が期待される。また2024年からは症例によっては冠動脈バイパスのための内胸動脈採取もロボットを用いて行うようになった。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁留置術(Transcatheter Aortic Valve Implantation)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 2023年10月より循環器内科と合同で開始した。大動脈弁狭窄症に対して、従来手術と比べ格段に小さな傷で大動脈弁置換術を経カテーテル的に行うことが可能となった。			
医療技術名	植込型補助人工心臓 (BTT)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 従来の治療法では救命できない重症心不全に対して心臓移植までのつなぎとして使用される植込み型の補助人工心臓治療である。植込型補助人工心臓は以前に使われていた体外型補助人工心臓と比べ、脳血管合併症や感染症の頻度が低く、術後は外来通院をしながら自宅にて移植待機が可能となる。			
医療技術名	植込型補助人工心臓 (DT)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 心臓移植までのつなぎとして使用される植込み型の補助人工心臓治療(BTT)に対して、心臓移植を前提としない植込型補助人工心臓を指す。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤灌流	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤灌流、術後抗癌剤化学療法の集学的治療			
医療技術名	肺尖部胸壁浸潤肺癌に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 肺尖部胸壁浸潤肺癌(Pancoast肺癌)に対して術前化療放射線併用療法後に肺切除術			
医療技術名	局所進行肺癌 (cN2, T4)に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 IIIA/B期 非小細胞肺癌に対して術前化療放射線併用療法後に肺切除術			
医療技術名	局所進行肺癌に対する術前ケモ+ICI治療後の肺切除術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 IIIA/B 非小細胞肺癌に対して術前化学療法+免疫チェックポイント阻害剤治療のちの肺切除術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	82

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	びまん性肺疾患に対するMDD診断	取扱患者数	73
当該医療技術の概要 びまん性肺疾患は稀少疾患を多く含み、診断が困難なことが多い。国際ガイドラインや本邦のガイドラインでは呼吸器専門医、胸部専門の放射線科医、肺病理専門の病理医の3者が合議し診断することが推奨されている(MDD (multidisciplinary discussion) 診断)。日本呼吸器学会びまん性肺疾患学術部会ではMDD診断の普及を進めているが、3つの領域の専門医が揃っている施設は全国でも少ないのが現状である。当院では2020年にクライオバイオプシーを導入し以後2回/月の頻度でMDD診断を実施している。			
医療技術名	慢性過敏性肺炎疑い例に対する抗原回避試験	取扱患者数	47
当該医療技術の概要 過敏性肺炎は特発性肺線維症など複数のびまん性肺疾患と臨床経過、画像、病理所見とも酷似しており一般の呼吸器内科では診断が困難な疾患である。近年、国際的にも注目されている疾患であり2020年にはじめて国際ガイドラインが作成された。環境中の抗原が原因である過敏性肺炎では診断の要諦は環境と疾患との関連を明らかにすることであるが、当院では積極的に抗原回避試験(原因として疑わしい環境因子の除去や入院による改善の有無の評価)を実施し過敏性肺炎の鑑別を行っている。			
医療技術名	間質性肺炎合併肺癌に対する積極的な化学療法の実施	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 間質性肺炎ではしばしば肺癌の合併がみられる。特発性肺線維症では5～30%が肺癌を合併、相対リスクが7～14倍と報告されている。進行例の場合は化学療法の適応だが、薬剤投与が契機となり間質性肺炎の急性増悪を発症するリスクがあることから薬物療法の選択は限られ、一般の呼吸器内科では治療困難と判断する 경우가少なくない。当院では間質性肺炎の豊富な臨床経験を生かし、間質性肺炎合併肺癌に対し積極的に化学療法を実施している。			
医療技術名	マイクロサージャリー(皮弁、リンパ浮腫など)	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 手術用顕微鏡を用いて、微小血管吻合、神経吻合やリンパ管静脈吻合を行い、遊離組織移植、知覚再建やリンパ浮腫に対する治療を行っている。			
医療技術名	穿通枝皮弁、その他の自家組織による乳房再建	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 乳腺外科と協力して乳がん切除と乳房再建を実施している。各種の穿通枝皮弁などの自家組織では放射線科と協力しMDCTによる血管評価、3Dカメラを用いたシミュレーションを行っている。			
医療技術名	第二種再生医療を用いた培養脂肪幹細胞付加脂肪注入治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 外来にて局所麻酔で0.6g～1g程度の脂肪を採取。製造委託先に送られ、培養、冷凍保管。およそ6週後に2泊入院で幹細胞を用いた脂肪注入手術。培養した幹細胞と、手術当日に吸引した脂肪とを混合し、目的の部位に移植。移植回数は治療内容に応じて1回から3回。3ヶ月以上の間隔で行い、培養幹細胞は製造委託先に1年間冷凍保存。			
医療技術名	静脈奇形、嚢胞状リンパ管奇形に対する3%ポリドカノールのフォーム硬化療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 1泊2日の入院で行います。3%ポリドカノール:空気=1:3～1:5で混合したものを使用します。X線透視下、もしくはエコーを見ながら、病変に注入します。			
医療技術名	糖尿病性足潰瘍・虚血肢に対する集学的治療	取扱患者数	53
当該医療技術の概要 血管外科、放射線科、内科、血液浄化療法部、高気圧治療部と協力して血管内治療、バイパス治療、血管再生治療、遊離組織移植の技術を用いて、できるだけ組織を温存し歩行機能を考慮した治療を行なっている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	277

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	頭頸部頭蓋底再建手術	取扱患者数	72
当該医療技術の概要			
頭頸部外科、脳神経外科、食道外科と協力して、頭頸部・頭蓋底腫瘍切除後の再建手術を実施している。手術用顕微鏡を用いて微小血管吻合、神経吻合を行い遊離組織移植、顔面神経再建などの治療を行なっている。			
医療技術名	頭頸部頭蓋底再建手術術後顔貌変形に対する二次修正手術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要			
先頭頸部・頭蓋底再建などの手術後に生じた治療が困難な顔面の変形に対して、遊離皮弁移植などを行い修正手術を行な			
医療技術名	頭頸部領域の皮膚悪性腫瘍	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
皮膚科とも協力して、切除・再建が困難な頭頸部領域の皮膚悪性腫瘍に対する集学的治療を行なっている。			
医療技術名	顔面神経麻痺に対する集学的治療	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
顔面神経麻痺に対する動的・静的再建手術、薬剤を組み合わせた集学的治療を行なっている。			
医療技術名	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	取扱患者数	96
当該医療技術の概要			
先進医療Aとして、血液中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量することにより、造血幹細胞移植後の患者に合併するウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与した。			
医療技術名	ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断(PCR法)	取扱患者数	37
当該医療技術の概要			
先進医療Aとして、眼房水中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量し、眼ウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与			
医療技術名	血漿交換	取扱患者数	35
当該医療技術の概要			
病因物質を含む血漿を廃棄し、それと同量の新鮮凍結血漿もしくはアルブミン溶液を補充する、まさしく血漿を交換する治療法である。難病を中心とした難治性自己免疫性疾患(例:血栓性血小板減少性紫斑病、重症筋無力症、全身性エリマトーデス)などに対して施行することが多く、救命や病態寛解のため必要となる。			
医療技術名	血漿吸着	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
血漿を吸着カラムに通すことにより病因物質を除去する治療法である。当院では難病である家族性高コレステロール血症や巣状糸球体硬化症、閉塞性動脈硬化症などに対してLDL吸着を行い、加療を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	316

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	リンパ球/顆粒球吸着(白血球除去療法)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 難病である潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対して、病因の1つである活性化したリンパ球を吸着療法により除去することにより、病勢のコントロールを行っている。			
医療技術名	腹水濾過濃縮再静注	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 ほかの様々な治療法では治療困難な難治性腹水症の患者の腹水を取り出し、それを濾過及び濃縮し、患者に再静注する治療法であり、癌や肝硬変による大量腹水のコントロールを行っている			
医療技術名	膝関節靭帯再建、半月板縫合、骨切り術後選手に対する術前から競技復帰までのスポーツ理学療法	取扱患者数	119
当該医療技術の概要 膝関節靭帯損傷は代表的なスポーツ外傷であり、スポーツ活動の継続を希望する選手には靭帯の再建手術が治療の第一選択となる。スポーツ活動の再開、元の競技レベルへの復帰には、術後早期からの適切な診断と、専門的なりハビリテーションおよびコンディショニングが不可欠である。本学では、整形外科および運動器外科と連携しながら、術前からスポーツ復帰に至るまで科学的根拠に基づいて選手をサポートしている。選手の膝機能やスポーツパフォーマンスに関する診療データを蓄積・分析するシステムを構築し、常に情報をアップデートしながら選手に還元している。半月板損傷例や複合靭帯損傷例に加えて、大腿骨および脛骨の骨切り術後症例にも対応し、再損傷率を抑えながら、高い競技復帰率を誇っている。			
医療技術名	クラシックバレエダンサーを中心としたオーバーユース障害への対応	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 クラシックバレエを中心に、オーバーユース障害をきたす各種競技の運動・動作特性を理解した上で、適切な治療を提供している。運動器外科と連携し、あらゆるオーバーユース障害の診断・治療(スポーツ理学療法を含む)・再発予防に取り組んでいる。			
医療技術名	早期スポーツ復帰に向けた運動器外傷に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	75
当該医療技術の概要 75人のべ183回の治療実績を上げている。 捻挫、肉離れ、靭帯損傷等の軟部組織外傷や骨折等の急性期における高気圧酸素治療は、外傷の治癒促進となるエビデンスが我々の示したものを含め複数存在する。オリンピック選手/プロ選手やトップアスリート等、可及的早期にスポーツ競技復帰を望む選手やチームからの社会的要請は高い。本学では、スポーツ選手における軟部組織外傷急性期の診療体制を確立しており、高度医療の提供と位置づけている。			
医療技術名	難治性疾患である放射線照射後の晩期障害に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	70
当該医療技術の概要 70人のべ1583回の治療実績を上げている。 遅発性放射線障害である出血性膀胱炎、出血性腸炎、放射線性咽頭炎等は難治性である。出血がコントロールされない放射線性出血性膀胱炎では、定期的な輸血や膀胱摘出術などの処置を要することも多い。高気圧酸素治療は80%以上の有効性がある。全国的には本疾患に対する高気圧酸素治療を実施している施設は希少で、本学の治療は高度医療と位置づけられる。実際に、高気圧酸素治療目的での他院からの紹介が多くなっている。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種骨髄移植	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている。輸血・細胞治療センターでは骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	333

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは、臍帯血バンクから受け入れた臍帯血の保管管理、細胞の評価を実施している。			
医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血からのリンパ球採取と細胞の評価、凍結保存、細胞の製造所への送付と、遺伝子改変後の細胞製剤の受け入れおよび管理を実施している。			
医療技術名	ヒト間葉系幹細胞	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 血液内科・小児科・整形外科・消化器内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは製剤の保管管理および使用前の調製を担当している。			
医療技術名	クリオシール(自己生体組織接着剤)	取扱患者数	45
当該医療技術の概要 患者自己血から自己生体組織接着剤を調製し、術中止血に使用する。周産女性診療科、脳神経外科を中心に利用されている。			
医療技術名	PRP膝関節内注射	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターではPRP調整のための採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	PRP股関節内注射	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターではPRP調整のための採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	筋・腱・靭帯損傷・障害部へのPRP注射	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターではPRP調整のための採血、およびPRP調整を担当している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	101

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血からのリンパ球採取と細胞の評価、凍結保存、細胞の製造所への送付と、遺伝子改変後の細胞製剤の受け入れおよび管理を実施している。			
医療技術名	大動脈バルーンパンピング法 (IABP)	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 急性心筋梗塞後の心原性ショックや急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔や僧帽弁閉鎖不全、開心術後のポンプ機能不全が適応となる。胸部下降大動脈に留置したバルーンを、駆動装置を用いて心拍に同期させて収縮・拡張させる装置である。心臓の拡張期にバルーンを拡張することによって、大動脈圧拡張末期圧を上昇させ冠血流量を増加させる効果と、収縮期直前にバルーンを急速に収縮させ拡張末期圧を低下させ心拍出を容易にする効果を有する。□			
医療技術名	経皮的心肺補助装置 (PCPSあるいはVA-ECMO)	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に沿う血閉鎖回路による補助循環である。□			
医療技術名	VV-ECMO	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 遠心ポンプと膜型人工肺を用いた閉鎖回路の人工心肺装置をもちいて、呼吸補助を行う装置である。□			
医療技術名	持続腎代替療法 (CRRT)	取扱患者数	34
当該医療技術の概要 急性腎傷害を合併した循環動態が不安定な重症患者が適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、小型の濾過器を用い限外濾過により持続的に体液を脱水する。同時に透析液を流すことによって、拡散によっても物質を除去する血液浄化療法である。24時間以上持続して施行する。□			
医療技術名	Polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion (PMX): エンドトキシン吸着療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 グラム陰性菌感染によるエンドトキシンショックが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、エンドトキシンの吸着剤であるポリミキシンBを不溶性の繊維に固定したカラム(トレミキシン)に灌流させ、エンドトキシンを吸着除去した後、血液を体内に戻す血液浄化療法である			
医療技術名	左心補助人工心臓 (LVAS)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 治療抵抗性の急性重症心不全と末期的慢性重症心不全の場合に適応となる。左室から脱血し、血液ポンプを用いて上行大動脈に送血することにより、左室ポンプ機能をほぼ100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	IMPELLA	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 インペラ(IMPELLA)とは、左心室負荷を直接軽減する補助人工心臓の一つで、小型モーターを内蔵したポンプカテーテルを、経皮的に大動脈などから心臓の左心室に挿入する左室補助循環装置である、			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	101

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重症外傷に対する集学的治療	取扱患者数	318
当該医療技術の概要			
重傷外傷患者 (AIS3以上)は治療優先順位の決定と、さらに損傷部位別に有効な修復方法が求められる。当科では初期診療から、入院管理、患者によっては退院までの管理を、各症例ごとに適切な治療方法を選択し、(IVR、手術、また輸液輸血管理などを含む)集学的治療を行なっている。			
医療技術名	緊急腹部手術患者に対するOpen Abdominal Manangement	取扱患者数	14
当該医療技術の概要			
緊急開腹手術を受けた患者のうち、バイタルが不安定な症例、多発外傷で損傷部が明確でない症例、腸管虚血が今後進行するおそれのある症例、腹腔内圧上昇がみられる症例などについて当科ではopen(あえて閉腹せずに管理)な状態で管理している。全身管理と並行し腹腔内の状態を評価しつつ段階的に閉腹を行うことで、予後の向上に繋がっている。			
医療技術名	消化管出血患者に対する集学的治療	取扱患者数	70
当該医療技術の概要			
吐血や血便患者の多くはショック状態で搬送され、緊急での内視鏡、IVRなどが求められる。また並行して輸血、気道確保、など集学的管理も必要となる。当科では、初期対応、初期蘇生、緊急内視鏡を含め、その後のICU管理まで行っている。			
医療技術名	経皮的人工心肺(PCPS)を用いた院外心肺停止患者に対する心肺蘇生	取扱患者数	55
当該医療技術の概要			
通常の蘇生に反応しない院外心肺停止患者に対し、当院では積極的に人工心肺を使用し、蘇生の可能性を追求している。また蘇生後のICU管理も集学的に行い、社会復帰率も年々向上している。□			
医療技術名	院外心肺停止患者の蘇生後脳症に対する脳低温療法	取扱患者数	32
当該医療技術の概要			
院外心肺停止患者の蘇生後に体温を35度以下で24時間以上維持・管理するものを指す。神経学的な予後改善が期待され、国際的ガイドラインでも支持されている。当院では心肺蘇生に関する様々なレジストリーにも参加している施設でもあり、蘇生領域の最先端の知見を示すとともに、同時に院外心肺停止患者の社会復帰に成果を上げている。			
医療技術名	出生前遺伝学的検査	取扱患者数	187
当該医療技術の概要			
多くの倫理的・社会的課題がある出生前遺伝学的検査を、周産女性診療科と連携して実施している。本検査の実施には受検前の遺伝カウンセリングが必須で、検査のメリット・デメリットや、夫婦にとっての検査の意義などを確認している。			
医療技術名	着床前遺伝学的検査	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
多くの倫理的・社会的課題がある着床前遺伝学的検査を、リプロダクションセンターと連携して実施している。本検査実施には日本産科婦人科学会や本学臨床倫理委員会への申請とともに遺伝カウンセリングが必須で、検査のメリット・デメリットや、夫婦にとっての検査の意義などを確認している。			
医療技術名	遺伝性心疾患の遺伝子診断	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
先天性QT延長症候群、心筋症、家族性高コレステロール血症、マルファン症候群などの遺伝学的検査を実施している。本領域ではエキスパートパネルを開催し、判断困難な症例にも専門家として対応している。今後、さらに活用が広がっていく領域であると考えている。□			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	697

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	遺伝性がん症候群の遺伝子診断	取扱患者数	61
当該医療技術の概要 遺伝性乳がん・卵巣癌症候群、リンチ症候群、Von Hippel-Lindau病、Gorlin病など腫瘍関連症候群の遺伝子診断を実施している。			
医療技術名	遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリングおよび遺伝子診断(確定診断・発症前診断・保因者診断など)	取扱患者数	120
当該医療技術の概要 遺伝性疾患は遺伝情報の特性から一般診療とは異なる形での配慮が必要である。当科では各種遺伝性疾患に関して、院内臨床各科と連携し、患者だけでなく家族を含めて遺伝リスクの説明や遺伝情報の特徴を伝え、受検の選択だけでなく、実際の検査の出検、結果説明や受け止めなどをサポートしている。			
医療技術名	がんゲノム医療	取扱患者数	127
当該医療技術の概要 標準治療で進行した又は進行見込みの患者に対して、がん遺伝子パネル検査を実施し、検出された遺伝子変異に基づき個別化治療を行う。			
医療技術名	16S rRNAシーケンスによる細菌の同定	取扱患者数	48
当該医療技術の概要 細菌がもつ16S rRNA遺伝子をPCRにて増幅し、次世代シーケンサーにて解析することで細菌の存在と菌種を明らかにする。通常の培養検査では検出できない細菌を同定でき、適切な感染症治療につなげることができる。			
医療技術名	薬剤耐性機序の精密解析、遺伝子解析	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 薬剤耐性菌の感受性検査をより精密に行ったり、耐性遺伝子を解析したりすることによって耐性機序や効果の期待できる抗菌薬を詳細に明らかにする。これにより薬剤耐性菌に対して適切な抗菌薬選択を行う。			
医療技術名	先天性疾患を有する患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 むし歯科・歯周外科・義歯科・口腔外科・小児歯科などの他の歯系診療部門、さらには、医系診療部門の専門診療科との連携により、一般的な医療機関では困難な集学的治療を行っている。また、治療開始前には患者と家族に対してカウンセリングを行っている。			
医療技術名	顎変形症患者に対する外科的矯正治療	取扱患者数	125
当該医療技術の概要 口腔外科をはじめとした他の歯系診療部門、さらには、医系診療部門の専門診療科との連携により、一般的な医療機関では困難な顎矯正手術を併用した矯正歯科治療を提供している。定期的な口腔外科との合同カンファレンスを行い、チームアプローチによる綿密な連携並びに協力体制を確立している。			
医療技術名	唇顎口蓋裂患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	287
当該医療技術の概要 唇顎口蓋裂は先天的に上顎骨の欠損や変形ならびに劣成長を有し、それに付随して前歯の先天欠損を有する不正咬合である。それに対して、口腔外科や補綴科、言語治療部等との連携も必要な矯正歯科治療であり、専門性の高い治療である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	799

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	顎変形症患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	2,179
当該医療技術の概要 著しい上下顎間関係の不調和を有し、矯正歯科治療単独では対応困難な不正咬合に対して、(上)下顎の骨切り術を併用した矯正歯科治療である。咬合機能の回復のみならず、審美性の回復や呼吸機能の改善にも寄与する医療技術である。			
医療技術名	先天性部分無歯症患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	254
当該医療技術の概要 6歯以上の永久歯の先天性欠損を有し、矯正歯科治療単独では対応困難な不正咬合に対して、補綴治療やインプラント治療、歯周外科治療、審美歯科治療など多数診療科に亘る包括的アプローチが必要な矯正歯科治療である。そのため、多数診療科に亘り高度な医療技術を要する。			
医療技術名	前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全に起因する不正咬合患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 3歯以上の永久歯の萌出不全を有し、それに起因する不正咬合に対して、開窓牽引術を併用した矯正歯科治療である。萌出不全は片側に偏って発生することが多く、また牽引時は固定源を確保する必要があるが、矯正用アンカースクリューが若年患者の場合使用できないため、左右・前後の咬合平面管理が非常に難しく、治療期間も長期にわたるため、高度な医療技術を要する。			
医療技術名	歯科用光干渉断層計の開発	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 従来の画像診断機器では診断が困難な初期齲蝕や歯の亀裂、歯の摩耗等を、放射線を使わずに光で診断を行う			
医療技術名	エコーガイド下三叉神経ブロック	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 外科的矯正手術や埋伏歯抜歯などの口腔外科手術に際して、エコーガイド下で下顎神経または上顎神経のブロックを行うことにより、術期の安定した鎮痛を得ることができる。			
医療技術名	ACイオンフォレーシス	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 三叉神経ニューロパチー患者に適用する。交流電流を用いたイオン導入法で、直流電流とは異なり、長時間(当科では40-60分)作用させることが可能なため、TENSと同様の刺激療法としての効果も期待できる。			
医療技術名	歯科心身医療	取扱患者数	7,800
当該医療技術の概要 舌痛症、非定型歯痛、Phantombitessyndrome、口腔セネストパチー、味覚障害、口腔乾燥症、口臭症など、従来の歯科処置では症状改善が難しい患者に対する薬物療法等を行っている。			
医療技術名	new intraoral voice assist device called the voice retriever(喉頭摘出者に対する口腔内装置を用いた新たな人工喉頭)	取扱患者数	34
当該医療技術の概要 スピーカーを仕込んだマウスピースを上あごに装着し、音が鳴っている間に口を動かすだけで話せるようにする装置。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	10,394

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	口臭ガスクロマトグラフィーを用いた口臭診断	取扱患者数	618
当該医療技術の概要 高精細な口臭測定器であるガスクロマトグラフィーを用いて口臭の原因物質である揮発性硫黄化合物の濃度を測定し、認知閾値を基準に口臭を評価する。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	1
取扱い患者数の合計(人)	618

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	27	56	IgA腎症	53
2	筋萎縮性側索硬化症	54	57	多発性嚢胞腎	49
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	黄色靱帯骨化症	29
4	原発性側索硬化症	2	59	後縦靱帯骨化症	135
5	進行性核上性麻痺	13	60	広範脊柱管狭窄症	30
6	パーキンソン病	112	61	特発性大腿骨頭壊死症	100
7	大脳皮質基底核変性症	11	62	下垂体性ADH分泌異常症	12
8	ハンチントン病	2	63	下垂体性TSH分泌亢進症	2
9	神経有棘赤血球症	1	64	下垂体性PRL分泌亢進症	4
10	シャルコー・マリー・トウス病	2	65	クッシング病	6
11	重症筋無力症	122	66	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	20
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	148	67	下垂体前葉機能低下症	37
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	42	68	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
14	封入体筋炎	4	69	先天性副腎皮質酵素欠損症	25
15	多系統萎縮症	57	70	先天性副腎低形成症	1
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	200	71	アジソン病	2
17	ライソゾーム病	7	72	サルコイドーシス	142
18	副腎白質ジストロフィー	1	73	特発性間質性肺炎	142
19	ミトコンドリア病	12	74	肺動脈性肺高血圧症	14
20	もやもや病	244	75	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
21	プリオン病	2	76	リンパ管筋腫症	4
22	進行性多巣性白質脳症	2	77	網膜色素変性症	23
23	HTLV-1関連脊髄症	3	78	特発性門脈圧亢進症	1
24	特発性基底核石灰化症	2	79	原発性胆汁性胆管炎	32
25	全身性アミロイドーシス	33	80	原発性硬化性胆管炎	6
26	ウルリッヒ病	2	81	自己免疫性肝炎	15
27	神経線維腫症	13	82	クローン病	686
28	天疱瘡	25	83	潰瘍性大腸炎	1382
29	表皮水疱症	2	84	好酸球性消化管疾患	3
30	膿疱性乾癬(汎発型)	5	85	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
31	高安動脈炎	126	86	クリオピリン関連周期熱症候群	11
32	巨細胞性動脈炎	16	87	若年性特発性関節炎	32
33	結節性多発動脈炎	13	88	ブラウ症候群	1
34	顕微鏡的多発血管炎	42	89	先天性ミオパチー	6
35	多発血管炎性肉芽腫症	40	90	筋ジストロフィー	18
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	50	91	アイザックス症候群	1
37	悪性関節リウマチ	21	92	脳表ヘモジデリン沈着症	31
38	バージャー病	16	93	前頭側頭葉変性症	2
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	94	先天性無痛無汗症	1
40	全身性エリテマトーデス	442	95	アレキサンダー病	1
41	皮膚筋炎／多発性筋炎	257	96	片側巨脳症	1
42	全身性強皮症	138	97	限局性皮質異形成	1
43	混合性結合組織病	54	98	神経細胞移動異常症	1
44	シェーグレン症候群	123	99	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
45	成人スチル病	41	100	ウエスト症候群	1
46	再発性多発軟骨炎	11	101	大田原症候群	1
47	ベーチェット病	193	102	PCDH19関連症候群	1
48	特発性拡張型心筋症	33	103	結節性硬化症	6
49	肥大型心筋症	8	104	色素性乾皮症	1
50	再生不良性貧血	29	105	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	15
51	自己免疫性溶血性貧血	4	106	特発性後天性全身性無汗症	110
52	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4	107	マルファン症候群	7
53	特発性血小板減少性紫斑病	39	108	エーラス・ダンロス症候群	1
54	血栓性血小板減少性紫斑病	3	109	ウィルソン病	1
55	原発性免疫不全症候群	182	110	低ホスファターゼ症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	ウィリアムズ症候群	1	166		
112	歌舞伎症候群	1	167		
113	ウェルナー症候群	1	168		
114	修正大血管転位症	2	169		
115	単心室症	1	170		
116	ファロー四徴症	3	171		
117	アルポート症候群	3	172		
118	急速進行性糸球体腎炎	3	173		
119	一次性ネフローゼ症候群	62	174		
120	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	175		
121	紫斑病性腎炎	5	176		
122	先天性腎性尿崩症	1	177		
123	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	178		
124	オスラー病	1	179		
125	副甲状腺機能低下症	2	180		
126	偽性副甲状腺機能低下症	1	181		
127	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	182		
128	筋型糖原病	1	183		
129	脳髄黄色腫症	1	184		
130	脂肪萎縮症	2	185		
131	家族性地中海熱	14	186		
132	慢性再発性多発性骨髄炎	4	187		
133	強直性脊椎炎	42	188		
134	進行性骨化性線維異形成症	1	189		
135	骨形成不全症	2	190		
136	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3	191		
137	後天性赤芽球癆	4	192		
138	遺伝性鉄芽球性貧血	1	193		
139	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2	194		
140	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	195		
141	胆道閉鎖症	2	196		
142	IgG4関連疾患	28	197		
143	黄斑ジストロフィー	1	198		
144	遅発性内リンパ水腫	3	199		
145	好酸球性副鼻腔炎	24	200		
146	遺伝性自己炎症疾患	4	201		
147	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1	202		
148	特発性多中心性キャッスルマン病	12	203		
149			204		
150			205		
151			206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

疾患数	148
合計患者数(人)	6,507

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・患者サポート体制充実加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・重症患者初期支援充実加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1、精神病棟10:1)	・呼吸ケアチーム加算
・救急医療管理加算	・術後疼痛管理チーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算2
・診療録管理体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1(15:1)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(25:1)	・データ提出加算
・看護職員夜間配置加算	・入退院支援加算2(総合機能評価加算)
・療養環境加算	・認知症ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算1	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算2	・精神科急性期医師配置加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・排尿自立支援加算
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算	・救命救急入院料1
・小児緩和ケア診療加算	・救命救急入院料2
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・緩和ケア病棟入院料1
・感染対策向上加算1	・入院時食事療養/生活療養(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・外来排尿自立指導料
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料イ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ニ	・歯科治療時医療管理料
・外来緩和ケア管理料	・在宅患者歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・救急患者連携搬送料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・一般不妊治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・生殖補助医療管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料3	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・下肢創傷処置管理料	・染色体検査の注2に規定する基準
・院内トリアージ実施料	・骨髄微小残存病変量測定
・外来放射線照射診療料	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・連携充実加算	・先天性代謝異常症検査
・ニコチン依存症管理料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん治療連携計画策定料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・睡眠時歯科筋電図検査
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・画像診断管理加算1
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・画像診断管理加算4
・国際標準検査管理加算	・歯科画像診断管理加算1
・遺伝カウンセリング加算	・歯科画像診断管理加算2
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・遠隔画像診断
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・胎児心エコー法	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・ヘッドアップティルト試験	・CT撮影及びMRI撮影
・長期継続頭蓋内脳波検査	・冠動脈CT撮影加算
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・単線維筋電図	・外傷全身CT加算
・終夜睡眠ポリグラフィ(安全精度管理下で行うもの)	・心臓MRI撮影加算
・脳波検査判断料1	・乳房MRI撮影加算
・神経学的検査	・小児鎮静下MRI撮影加算
・補聴器適合検査	・頭部MRI撮影加算
・黄斑局所網膜電図	・全身MRI撮影加算
・全視野精密網膜電図	・肝エラストグラフィ加算
・コンタクトレンズ検査料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・外来化学療法加算1
・内服・点滴誘発試験	・無菌製剤処理料
・経頸静脈的肝生検	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・経気管支凍結生検法	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・口腔細菌定量検査	・がん患者リハビリテーション料
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・集団コミュニケーション療法料
・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・精密触覚機能検査	・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算

施設基準の種類	施設基準の種類
・通院・在宅精神療法の注11に規定する早期診療体制充実加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・救急患者精神科継続支援料	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)
・医療保護入院等診療料	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・硬膜外自家血注入	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・角結膜悪性腫瘍切除術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・人工腎臓	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・網膜再建術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・人工中耳植込術
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ストーマ合併症加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・手術用顕微鏡加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・口腔粘膜処置	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・歯科技工士連携加算2	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・光学印象	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・自家脂肪注入	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・骨格筋由来細胞シート心表面移植術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的下肢動脈形成術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下弁形成術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・胸腔鏡下弁置換術	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・生体部分肝移植術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下脾中央切除術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペース機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペース機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペース機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペース機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・補助人工心臓	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・人工尿道括約筋植込・置換術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・精巣内精子採取術	・歯科麻酔管理料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下仙骨腔固定術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・一回線量増加加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・定位放射線治療
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・体外式膜型人工肺管理料	・画像誘導密封小線源治療加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・輸血管理料Ⅰ	・口腔病理診断管理加算1
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・コーディネート体制充実加算	・歯科矯正診断料
・自己生体組織接着剤作成術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・禁煙治療補助システム指導管理加算
・同種クリオプレシピテート作製術	・療養生活環境整備指導加算
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・歯周組織再生誘導手術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・手術時歯根面レーザー応用加算	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・看護職員処遇改善評価料68
・歯根端切除手術の注3	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・口腔粘膜血管腫凝固術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)

施設基準の種類	施設基準の種類
・入院ベースアップ評価料92	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
入院後に肺炎を発症するリスクの高い患者のスクリーニングと新規口腔機能管理法の開発	倉沢 泰浩	口腔外科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵神経内分泌腫瘍のバイオマーカーの開発	菅原 俊喬	肝胆膵外科	541,253	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病変局所のIL-23産生マクロファージを標的とした炎症性筋疾患の新規治療開発	梅澤 夏佳	膠原病・リウマチ内科学分野	45,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎におけるIL-17、好中球の慢性化を含めた経時的な役割の検討	石塚 聖洋	肺免疫治療学講座	1,501,035	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Intraoperative real-time non-invasive cerebral blood flow analysis by Laser Speckle Contrast Imaging	清水 一秀	脳神経機能外科学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脊髄小脳変性症における平衡覚認知能の定量解析	竹田 貴策	耳鼻咽喉科	1,042,667	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肺線維症責任遺伝子同定と疾患由来iPS細胞分化肺細胞による細胞死と線維化の関連性	瀬戸口 靖弘	統合呼吸器病学分野	1,625,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病治療とコンパニオン診断における定量的根拠の解明	三條 伸夫	脳神経病態学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光子圧を応用した治療阻害因子を越えた位置での根管治療を可能とする新規治療法の開発	渡邊 聡	歯髄生物学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
横隔膜エコーを用いた横隔膜機能不全評価の標準値・計測方法の確立と教育コースの開発	山田 徹	総合診療医学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
本邦における重症筋無力症合併妊娠の臨床予後検討およびデータベース構築	羅 ことい	周産・女性診療科	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日本の学童における近視の実態調査	五十嵐 多恵	眼科学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がんにおけるmiR-3140の抗がん核酸薬治療応用性の検討	外内 えり奈	口腔外科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病は骨格筋合成・収縮を阻害するかー歯周病誘発ラットでの運動介入研究	林 海里	咬合機能健康科学分野	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
臨床研修歯科医を対象とした歯科医療安全教育プログラムの開発	木村 康之	歯科心身医学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
異所性骨化における線溶系酵素の役割の解明と新規骨形成薬の開発	吉井 俊貴	整形外科学分野	3,510,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
固体核磁気共鳴法による、フッ化物含有生体活性ガラスの歯質欠損修復機能の解析	平石 典子	う蝕制御学分野	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
制御領域の変異同定と非コードRNA転写・スーパーエンハンサー活性化機構の解明	磯田 健志	発生発達病態学分野	4,290,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
IKZF転写因子の生理的構造差異による機能分担と変異による転写調節変調機構の解明	森尾 友宏	発生発達病態学分野	4,420,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
ヒトiPS細胞由来複合型自己組織化腸管組織を用いた難治性腸炎モデルの確立	水谷 知裕	消化器病態学	4,940,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸内環境における生命金属の役割	大島 茂	若手研究者支援センター(消化器内科)	4,940,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PKA関連疾患の病態解明と治療薬開発	安藤 史顕	腎臓内科学分野	5,070,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリア関連小胞体膜を介した褐色脂肪細胞の即時的熱産生亢進機構の解明	池田 賢司	分子内分泌代謝学分野	4,550,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疾患解明アプローチによる筋・骨組織の機能回復を目指した腱組織再生の分子基盤解析	依田 哲也	顎顔面外科学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳卒中回復期における口腔機能管理システムの構築	松尾 浩一郎	地域・福祉口腔機能管理学分野	195,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
刑事責任能力鑑定における精神障害が犯行に与えた影響の機序の描出と読解に関する研究	岡田 幸之	精神行動医科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
表在型食道扁平上皮がん浸潤様式の総合的評価法の確立と分子基盤の探究	大橋 健一	人体病理学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CRISPR libraryを用いた網羅的細胞間相互作用解析モデルの開発	倉田 盛人	包括病理学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腫瘍細胞の細胞外脂質依存性を利用した新規がん治療モデルの確立	山本 浩平	人体病理学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
大腸癌治療薬の基礎解析データからの血中循環バイオマーカー同定と生物学的意義の解析	末永 光邦	臨床腫瘍学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
プルキンエ細胞特異的遺伝子発現に着目したSCA31モデルマウスの病態解析	石川 欽也	長寿・健康人生推進センター	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
てんかん発作発生に寄与する患者個別の時間生物学的・心理的指標の探索	宮島 美穂	精神行動医科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨痛の客観的評価のための画像研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DNA損傷修復異常が糖代謝に与える影響とインスリン抵抗性糖尿病発症機序の解明	高澤 啓	発生発達病態学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CD4-CD8 α β -TCR α β +T細胞のアナジー誘導性抗原提示能の解析	根本 泰宏	消化器病態学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝癌ゲノム情報と癌微小環境の空間的多様性の機械学習による臨床予測モデルの構築	北畑 富貴子	検査部	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝癌オルガノイドを用いた肝癌微小環境中免疫学的プロファイルに関わる病態解明	村川 美也子	消化器内科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患における小腸難消化機構の解明	竹中 健人	消化器連携医療学講座	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化増悪因子の探索	須佐 絃一郎	腎臓内科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウロモジュリンの生理的制御メカニズムと病態生理学的機序の解明	森 崇寧	血液浄化療法部	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好中球異常を伴う自己炎症性疾患の病態解明と治療法開発	尾崎 富美子	発生発達病態学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成人免疫異常症の診断と病態理解のための基礎的研究	木村 直樹	膠原病・リウマチ内科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
副腎皮質ステロイドを補完する新規炎症制御薬の開発	細矢 匡	膠原病・リウマチ内科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵臓癌における化合物スクリーニングによる新規抗がん剤併用療法の開発と臨床応用	田邊 稔	肝胆膵外科学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵臓癌における悪性形質メカニズムに関連するRRM1の機能解析と治療薬への応用	小野 宏晃	肝胆膵外科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウイルス感染症による血液凝固メカニズムを踏まえたECMO内血栓予防技術の開発	藤原 立樹	心臓血管外科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
経時的遺伝子発現解析を用いた敗血症慢性重症経過の病態解明と予測モデル構築	内御堂 亮	生体集中管理学分野	1,261,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
半月板の形成、恒常性及び損傷後修復におけるBMPの生理機能の解析	辻 邦和	整形外科学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症心身障害児(者)の続発性骨粗鬆症の病態を解明し、治療方法を作成する。	酒井 朋子	リハビリテーション部	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
変形性膝関節症のレントゲン検査の意義をMRI3D解析で明らかにする	関矢 一郎	再生医療研究センター(整形外科)	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
更年期症状に対するピリドキサミンの効果についての閉経モデル動物を用いた基礎的研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超高齢化社会における転倒リスク評価のための重力認知機能パラメータ開発	堤 剛	耳鼻咽喉科学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シングルセル解析による内リンパ嚢の発生メカニズムの解明	本田 圭司	耳鼻咽喉科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
再発転移頭頸部癌に対する近赤外光線免疫療法症例におけるバイオマーカー探索研究	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マウスリンパ節付随免疫皮弁モデルを利用した新しいがん免疫療法の開発	羽賀 義剛	形成・再建外科学分野	585,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
外陰圧リンパ浮腫モデルでの脂肪増生の検討 -スキャフォールド移植の新たな可能性-	森 弘樹	形成・再建外科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
HSP40ファミリーと変異p53間の相互作用を標的とした新規癌治療法の開発	戒田 篤志	歯科放射線診断・治療学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
硬組織誘導能と炎症制御能を具備する新規直接覆髄材の開発とその臨床応用への展望	川島 伸之	歯髄生物学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NiTiファイル形成システムを構築するために手の動きをシミュレートする	海老原 新	歯髄生物学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
残存歯質保護を考慮した次世代高強度メタルフリー支台築造の検討	駒田 亘	咬合機能健康科学分野	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔機能低下症とフレイルの縦断調査: 口腔機能におけるフレイルリスク因子の解明	濱 洋平	義歯科(専)高齢者歯科外来	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
上顎インプラントオーバーデンチャーは2本のインプラントで機能するか?	岩城 麻衣子	口腔デジタルプロセス学分野	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
人工知能を活用した部分床義歯設計システムの開発研究	笛木 賢治	咬合機能健康科学分野	637,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢者における食前ガム咀嚼は血糖値上昇を抑制するか?	駒ヶ嶺 友梨子	高齢者歯科学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎変形症の術後の長期経過患者における睡眠時無呼吸症の発症リスクと顎骨移動の関係	友松 伸允	顎顔面外科学分野	1,365,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
幼若永久歯再植後の新規治療法を探索する: NF κ Bデコイ核酸導入の効果	石田 雄之	咬合機能矯正学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咬合刺激低下歯の歯周組織に与えるペリオスチンスプライズバリエーションの機能的差異	臼見 莉沙	矯正歯科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病院ビッグデータを用いた歯科疾患の決定要因の解析	梅森 幸	総合診療歯科学分野	416,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小脳内部モデルが関与する認知機能の解明に関する研究	本多 武尊	長寿・健康人生推進センター	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高位脛骨骨切り術前後の患者のランニング中の膝内反モーメントを抑える運動療法の開発	大見 武弘	スポーツ医学診療センター	702,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
睥神経内分泌癌の起源の解明	木脇 祐子	包括病理学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
背部の外部振動による乳房MR elastographyの撮像法確立と有用性検証	山鹿 絵美	放射線診断科	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
モヤモヤ病、大動脈狭窄など全身性に血管狭窄をきたす新規疾患の病態解明	鹿島田 彩子	臨床医学教育開発学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患の病態における好塩基球、間質マクロファージの役割	柴田 翔	統合呼吸器病学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マスト細胞と発汗の相互作用の研究	飯田 忠恒	皮膚科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチにおける高密度環境がもたらす線維芽細胞への影響の解析とその治療応用	山本 晃央	生涯免疫難病学講座	180,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
膝神経内分泌腫瘍の予後予測のためのイメージングバイオマーカーの開発	上田 浩樹	肝胆膵外科学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シングルセル解析による外傷後肺障害の病態解明	千田 篤	救命救急センター	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NiTiファイルの応力発生への形成動作の影響:自動計測システムを用いた規格化解析	木村 俊介	むし歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
入院・入所高齢者の「食のQOL」とオーラルフレイルの関連	鈴木 啓之	義歯科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自己乏血小板血漿による骨形成機序の解明と歯槽骨増生法の確立	寺内 正彦	顎顔面外科学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
H19長鎖非コードRNAの作動原理に基づく核酸医薬による神経障害性疼痛治療	伊藤 孝哉	歯科麻酔科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯科矯正用アンカースクリュー植立に伴う骨損傷が周囲軟組織の免疫応答に与える影響	上園 将慶	矯正歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳および全身の運動機能を支える臼歯・前歯の役割ーファンクショナルMRIによる検討	吉澤 英之	矯正歯科	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
AIエンジンを使用した学習者表情分析による講義満足度の検証	赤石 雄	臨床医学教育開発学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
グルコース輸送体の生物学的機序を活用した血液脳関門通過型抗体の開発	平田 浩聖	脳神経病態学分野	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自己組織化に依存しない多細胞人工発癌オルガノイドモデルの開発と細胞連関解析	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
国際比較によるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの受診格差抑制効果の検証	相田 潤	健康推進歯学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
革新的な標的臓器特異的核酸医薬品の開発	永田 哲也	核酸・ペプチド創薬治療研究センター(脳神経内科)	8,320,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
難治性消化管疾患に対する統合オルガノイド医療の創成	岡本 隆一	消化器病態学分野	12,350,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ARスマートグラスを用いた双方向性同期型遠隔歯科臨床技能教育システムの開発	新田 浩	総合診療歯科学分野	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
血液脳関門通過型核酸医薬としてのヘテロ核酸搭載グルコースミセルの開発	桑原 宏哉	脳神経病態学分野	3,770,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞を介した慢性腎臓病によるサルコペニア・腎性老化の全容解明	萬代 新太郎	血液浄化療法部	5,850,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
グリオーシス回避を可能とする2本鎖核酸医薬の開発	吉岡 耕太郎	脳神経病態学分野	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病態を再現するヒト肝臓オルガノイドの創成と肝星細胞脱活性化をめざした細胞種間解析	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	5,590,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
皮膚筋炎特異的自己免疫反応を基盤とする疾患モデル動物の確立と病態解析	沖山 奈緒子	皮膚科学分野	5,850,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
加齢や過栄養摂取が白色脂肪組織の細胞連関に及ぼす影響の解明	山田 哲也	分子内分泌代謝学分野	6,240,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経・血管の視点から解き明かす筋骨格系の恒常性維持機構と筋骨格系疾患の新たな病態	佐藤 信吾	緩和ケア科	5,360,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞エクソソームによる創傷治癒・抗炎症作用メカニズムの解析	岩田 隆紀	歯周病学分野	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
RAN翻訳を抑制するRGq核酸の開発研究	石黒 太郎	脳神経内科	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規自己抗体が形成する進行性・難治性精神疾患のシナプス病態の解明	塩飽 裕紀	精神行動医科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳画像における精神疾患の特徴量抽出を可能にする汎用性の高い深層学習モデルの構築	杉原 玄一	精神行動医科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
[F-18]FAZA PETによる大型血管炎の低酸素イメージング、診断体系の確立	土屋 純一	放射線診断科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好中球減少とB細胞欠損に共通する発症機構の解明に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
患者由来大腸オルガノイド移植法を用いたdysplasia-PDOXモデルの開発	福田 将義	光学医療診療部	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞傷害性リンパ球を応用した炎症性腸疾患新規治療法の開発	長堀 正和	臨床試験管理センター	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウイルス制御下の肝病態制御機構に関与する新規標的分子の探索	中川 美奈	統合教育機構(消化器内科)	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心房細動アブレーションによる洞調律化が認知機能に与える効果の解明	宮崎 晋介	先進不整脈学講座	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞を介した、心房細動が合併症を生じる機構の解明と次世代先制医療への応用	笹野 哲郎	循環制御内科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
がん関連血栓症における好中球細胞外トラップの役割の解明	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間質性肺炎急性増悪の病態解明:GM-CSFによるペリサイト、マクロファージの制御	立石 知也	呼吸・睡眠制御学講座	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
サルコイドーシスの肺病変線維化と遺伝子素因	古澤 春彦	統合呼吸器病学分野	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
造血幹細胞移植後のトキソプラズマ症診断におけるPCR法の有用性の検討と臨床応用	森 毅彦	血液内科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞内浸透抗体-CpG-ODN複合体を用いた難治性B細胞リンパ腫治療の可能性	長尾 俊景	血液内科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
関節リウマチの滑膜細胞サブセット由来細胞外小胞の網羅的解析と診断・治療への応用	齋藤 鉄也	膠原病・リウマチ内科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルドステロン産生腺腫におけるWNTシグナルの新規制御因子に着目した病態解析	村上 正憲	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経内分泌腫瘍におけるマルチアナライトバイオマーカーの創設と疾患管理	工藤 篤	医療安全管理部	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
力覚提示機能を有する次世代手術ロボットを用いた心臓手術の力学的基礎データの検討	長岡 英気	心臓血管外科	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児患者の全身麻酔時の脳波変化とmicrovesiclesの役割についての検討	遠山 悟史	心肺統御麻酔学分野	598,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管虚血再灌流障害後の炎症収束脂質メディエーターへの迷走神経刺激の影響の解明	森下 幸治	救急災害医学分野	585,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心電図解析によるてんかん患者の発作予後予測に関する検討	森 周介	救急災害医学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
側頭葉てんかん低代謝域の電気生理学解析による新たなてんかんネットワーク概念の確立	前原 健寿	脳神経機能外科学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3D MRIを用いた変形性膝関節症の診断—関節鏡、単純X線、超音波検査との比較	大関 信武	再生医療研究センター(整形外科)	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規骨形成薬の局所注入による骨形成促進治療の開発とメカニズムの検討	吉井 俊貴	整形外科学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞の可逆性、可塑性の分子機序の解析	古賀 英之	運動器外科学分野	585,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3次元MRI半月板定量化による住民コホートにおける変形性膝関節症の自然経過の解明	片野 尚子	再生医療研究センター(輸血・細胞治療センター)	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
手根管症候群の病態解明と予防法策定を目指した解剖学的、分子生物学的解析	藤田 浩二	運動器機能形態学講座(整形外科)	1,495,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規RASシグナル阻害剤の頭頸部癌治療応答基盤解明	加納 嘉人	臨床腫瘍学分野	1,365,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内耳血液迷路関門の透過性制御に基づく薬剤性難聴の予防手段の樹立	西尾 綾子	耳鼻咽喉科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自家移植組織の“質”に迫る First Step ~汗腺の術後機能回復に着目して	田中 頭太郎	生体組織再建外科学分野	585,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低酸素特異的転写調節因子HIF1 α が誘導する歯髄組織特異的硬組織誘導のメカニズム	興地 隆史	歯髄生物学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲細菌叢を規定する危険因子を探る:疾患の発症予測モデル構築に向けて	下岸 将博	口腔インプラント科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
睡眠時無呼吸症の口腔内装置療法の治療効果予測と検証—予測モデルと内視鏡での判定—	秀島 雅之	義歯科(専)快眠歯科(いびき・無呼吸)外来	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
革新的数理科学的解析によるモノリシックジルコニア接着ブリッジ設計と臨床術式の確立	猪越 正直	高齢者歯科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
若年胃ろう患者に対する摂食嚥下訓練の有効性および胃ろう食が腸内細菌叢に及ぼす影響	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯科心身症の疾患横断的な診断・治療法の開発とサブタイプの同定	豊福 明	歯科心身医学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
周術期脳虚血モデルでの原因遺伝子の解析とデクスメトミジンの脳保護作用機序	前田 茂	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
多孔性テラーメードゲル材料を用いた柔軟な舌筋の再生	原田 浩之	顎口腔腫瘍外科学分野	1,105,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顔面骨折治療支援に向けた骨構造FE解析とCAD形態解析による多面的評価の研究	中禮 宏	義歯科	572,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯の異常に多様性をもたらす分子機構の解明へ向けた組織特異的横断的オミクス解析	小川 卓也	顎顔面矯正学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面領域におけるエピジェネティックな見地からみた上皮間葉ネットワークの解明	東堀 紀尚	顎顔面矯正学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超音波画像診断装置を用いた舌運動-頬舌圧同時記録法による口腔機能の定量的解析	辻 美千子	顎顔面矯正学分野	221,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咀嚼機能低下がマイオカインを介し顎顔面領域と全身に与える病態メカニズムの解明	加藤 千帆	矯正歯科	832,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
嚥下障害患者に用いるとろみ調整食品の栄養吸収代謝に関わる基礎的検討	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
接種理論を用いた診療参加型臨床実習における医行為の推進のための戦略の開発	岡田 英理子	臨床医学教育開発学分野	1,495,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
選択的自己多血小板血漿の筋内投与による筋損傷修復機序の解明	宮武 和正	運動器外科学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
化合物スクリーニングによる小児肝芽腫に対する新規治療候補薬の機能解析	水野 裕貴	国際医療部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性T細胞の検出	野上 彩子	臨床検査医学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
個別化医療を目指した小児全身性エリテマトーデスの免疫学的再分類	伊良部 仁	小児科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
蛍光色素変換を用いた腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞traffickingの解析	森川 亮	消化器内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高周波アブレーション時の焼灼巣とSteam-popのリアルタイム予測AIの開発	滝川 正晃	先進不整脈学講座	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高密度マッピングによる多形性心室頻拍のリエンタリー回路の解明と治療への応用	西村 卓郎	循環器内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
間質性肺炎で誘導されるドライバ遺伝子異常に非依存的腫瘍促進的ゲノム異常の同定	本多 隆行	呼吸器内科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
抗菌物質であるリゾチーム・キトサン糖複合体の慢性緑膿菌気道感染への効果の解明	島田 翔	呼吸器内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性筋疾患における免疫疲弊分子及びエフェクター分子に着目した免疫表現型の解析	佐々木 広和	膠原病・リウマチ内科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
進行膵癌の根治可能症例を見極める:オルガノイドを用いた遺伝子解析	浅野 大輔	肝胆膵外科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児急性脳症マウスモデルの確立と低体温・平温療法の効果の比較検討	野坂 宜之	生体集中管理学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝蓋下脂肪体線維化に対するヒアルロン酸シート移植治療の効果と作用機序の検討	中川 裕介	軟骨再生学講座	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
下肢スポーツ整形外科領域におけるT1 VIBE MRIによる骨評価の有用性の検討	片倉 麻衣	運動器外科学分野	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規骨形成促進薬・高分子化合物複合体の開発と前臨床的動物モデルによる効果の実証	江川 聡	整形外科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新しい椎間板変性治療	松倉 遊	整形外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝蓋下脂肪体の線維化の抑制を主な作用機序とする新規変形性関節症治療薬の開発	雨宮 正樹	スポーツ医学診療センター	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
核酸・蛋白情報とイムノグラムを併用した軟部肉腫浸潤性の病態解明	船内 雄生	整形外科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
adipogenesisの視点から女性化乳房の機序を解明する研究	植村 法子	形成・再建外科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
摂食行動関連分子群および神経回路の観点からストレス応答に対する行動変化を解明する	遠井 政行	口腔健康管理科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌の抗PD-1抗体治療効果を予測する、免疫応答を多角的に捉えた新規評価系樹立	西井 直人	口腔外科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光エネルギーを応用したES細胞による新たな歯周組織再生療法の確立	新見 ひろみ	口腔健康管理科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自動根管形成・応力解析装置を用いた、NiTiファイルによる根管形成の規格化解析	牧 圭一郎	むし歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CAD/CAM冠脱離防止の為に切削抵抗測定に基づいた切削加工プロセスの開発	松村 茉由子	義歯科(専)歯科アレルギー外来	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
405nm波長光および光触媒を利用した双方向からの義歯清掃方法の開発	高草木 謙介	義歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
閉塞性睡眠時無呼吸における、分離型口腔内装置の有効性に関するランダム化比較試験	石山 裕之	義歯科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
「光」を用いた骨代謝制御による薬剤関連顎骨壊死の新規予防・治療戦略	大杉 勇人	歯周病科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
唾液腺の発生期に副交感神経が筋上皮細胞の分化に及ぼす作用の検討	真藤 裕基	小児歯科(専)障害者歯科外来	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
舌痛症の病態とその治療薬としての立効散の効果の検討	井村 紘子	歯科麻酔科(専)歯科ペインクリニック	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Ra-224線源からのα線が口腔がん細胞へ及ぼす致死効果の解明と至適刺入法の確立	野島 瞳	歯科放射線科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
可撤保隙装置製作におけるフルデジタル化ならびに機能形態付与の新たなシステム構築	小樋 香織	小児歯科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢者の口腔保健格差是正に向けた公的扶助制度の役割の検討	木野 志保	健康推進歯学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疑似ランダム化比較試験による口腔の全身影響の解明と医療経済評価指標の開発	松山 祐輔	健康推進歯学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
EWS自動アラートによる新たなRapid response systemの構築	野口 綾子	集中治療部	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腱板断裂患者の異常肩甲骨上腕リズム検知のための深度センサを利用した形態学的運動解析	井原 拓哉	運動器機能形態学講座	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
癌免疫療法におけるPD-1-PD-L1/2経路の細胞群間格差の解析	沖山 奈緒子	皮膚科学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎オルガノイドを用いたForward Geneticによる腎線維化制御機構の探索	蘇原 映誠	腎臓内科学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
パーソナル化機能性蛋白産生オルガノイドの腸上皮移植による単回完結型補充療法の開発	岡本 隆一	消化器病態学分野	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳への糖輸送機構を解明し、高分子医薬品を脳へ送達させる基盤技術を実用化する研究	西田 陽一郎	脳神経病態学分野	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症患者の急性肝傷害におけるmicrovesiclesの臨床的意義	若林 健二	生体集中管理学分野	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脱分化型脂肪肉腫におけるテロメア維持機構・腫瘍進展機構の解明と予後予測への応用	國枝 純子	病理部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
網羅的遺伝子解析による原発性眼球内リンパ腫の新規バイオマーカー探索	吉藤 康太	血液内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CRISPR libraryを用いた卵巣子宮内膜症におけるフェロトシス誘導因子の同定	田口 登和子	包括病理学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患の腸上皮障害・再生反復モデルを用いた再生制御機構の解析	藤井 悟	消化器病態学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
尿細管オルガノイドによるsemi-personalized病態モデルの構築	森 雄太郎	腎臓内科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
先天性免疫異常症未診断例の全エクソーム解析による新規原因遺伝子同定と発症機構解明	高田 紗奈美	発生発達病態学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性肝疾患におけるPersonalized肝発癌予測リスクモデルの開発	金子 俊	消化器連携医療学講座	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
尿路結石における潜在的腎機能障害の画像的解析とデルタラジオミクスによる特徴量抽出	早稲田 悠馬	保険医療管理部	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頸動脈狭窄症の発症・進行に対するタンパクのシトルリン化が与える影響に関する研究	青山 二郎	血管内治療学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
S.mutansのmembrane vesiclesを対象とした感染性心内膜炎の予防法の開発	岩淵 佑介	小児歯科(専)障害者歯科外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯胚発生におけるHippo-YAP/TAZシグナル伝達経路関連遺伝子の機能解析	仁木 佑紀	矯正歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
von Willebrand factor D and EGF domain の歯の発生段階における役割解明	岩田 ころろ	小児歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるリキッドバイオプシーを用いた経時的ゲノム解析の臨床的有用性の検討	野地 理夏	口腔外科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
抗酸化剤が2型糖尿病ラットのインプラントオッセオインテグレーションにもたらす効果	齋藤 夏実	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
リゾリン脂質の三叉神経領域における神経障害性疼痛への関与の解明	栗栖 諒子	歯科麻酔科(専)歯科ペインクリニック	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
転写制御因子Mkxの歯科矯正学的な歯の移動における機能の解明	宮崎 貴行	矯正歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
幹細胞自己複製メカニズム解明による新規癌治療法の開発	並木 剛	皮膚科学分野	400,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
プルキンエ細胞と登上線維のタイムラプス観察によるシナプス刈り込み機構の解明	越膳 真弓	心肺統御麻酔学分野	345,470	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DRPLAに対する核酸医薬を用いた遺伝子治療確立のための国際共同研究	中山 東城	脳神経病態学分野	442,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疾患/臓器/領域レベルでのアナジー誘導性抗原提示細胞;DNT細胞研究の拡大	根本 泰宏	消化器病態学分野	7,020,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自閉症転写因子RFXの網羅的な制御遺伝子探索による新規病態経路の解明	中山 東城	脳神経病態学分野	3,250,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸オルガノイドによる大腸組織再生の最適化	油井 史郎	再生医療研究センター(消化器内科)	6,110,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
機能的粘膜バリア機構破綻による慢性腸炎発症過程の解析	永石 宇司	消化管先端治療学講座	6,890,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来肝星細胞を基軸とした肝星細胞活性化制御機構の解明	三好 正人	消化器病態学分野	5,460,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
ミトコンドリアの心筋細胞外放出制御システムを標的とした心不全発症機序の解明	前嶋 康浩	循環制御内科学分野	7,280,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
色素幹細胞の自己複製メカニズム制御機構および悪性黒色腫発症機序の解明	並木 剛	皮膚科学分野	9,100,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自然免疫および血管内皮障害に着目したSLE・APSの新規治療法の開発	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学分野	5,200,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心臓外科手術における術後トロンビン生成能低下に関する評価システム確立と機序の解明	内田 篤治郎	心肺統御麻酔学分野	8,060,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
COVID-19における細胞外小胞の臨床的意義と現場実装に向けた新規検出技術の基盤確立	若林 健二	生体集中管理学分野	8,710,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内向性口腔がん攻略のための統合的アプローチ	三浦 雅彦	歯科放射線診断・治療学分野	6,240,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ジェロサイエンスに基づく新規矯正歯科治療の基盤構築-Senolyticsの口腔科学への展開	森山 啓司	顎顔面矯正学分野	7,410,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠期閉塞性睡眠時無呼吸症: 世代を超えた成長発育の破綻・変容と包摂医療への展開	小野 卓史	咬合機能矯正学分野	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外環境制御による細胞運命決定にかかる細胞内シグナル作動機構の解明	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学分野	8,190,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
複数大型コホートとNDBや病院データを活用した、口腔の状態と全身の健康の因果推論	相田 潤	健康推進歯学分野	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
看護管理情報とPatient/Nurse Outcomeに関するエビデンス創出のためのPlatform開発	森脇 睦子	クオリティ・マネジメント・センター	7,150,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
運動によってもたらされる口腔細菌叢の変化と全身への影響	竹内 康雄	生涯口腔保健衛生学分野	4,550,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
発達障害における注意動態と社会行動の変容に関するメカニズム	藤野 純也	精神行動医科学分野	3,510,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒト脳の予測機構とその変容の理解	高橋 英彦	精神行動医科学分野	22,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
中皮腫におけるHuR細胞質発現による薬剤耐性獲得メカニズムの解明	桐村 進	病理部	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CRISPR screeningデータベースを用いた、BRCA変異乳癌の新たな合成致死因子同定	大西 威一郎	病理部	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性筋疾患における病態増悪マクロファージサブセットの同定と新規治療開発	梅澤 夏佳	膠原病・リウマチ内科学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ゲーム依存と発達障害の併存とその神経メカニズム	藤野 純也	精神行動医科学分野	1,495,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低活動型せん妄に対する生理学的指標を用いた早期検出手法の開発	竹内 崇	精神行動医科学分野	1,235,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
放射線治療は高齢がん患者に優しい治療なのか？優しくできる治療なのか？	吉村 亮一	腫瘍放射線治療学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
体細胞分化転換機構から解明する性の多様性と性分化疾患の病態	鹿島田 健一	発生発達病態学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
蛋白アレイを用いた若年性特発性関節炎の特異的自己抗体の探索	清水 正樹	小児科	3,250,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クローン病小腸病変における区域依存的幹細胞特性の解析と再生医療への応用	大塚 和朗	光学医療診療部	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管局所的JAKシグナル阻害によるIBD新規治療法開発	藤井 俊光	消化器連携医療学講座	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クローン病小腸狭窄病変に対する内視鏡治療後予後改善を目指した治療法の開発	日比谷 秀爾	光学医療診療部	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
背景粘膜から見た潰瘍性大腸炎関連大腸癌のリスク解析	清水 寛路	消化器内科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
異常RNA顆粒による心臓病態形成メカニズムの検討	井原 健介	循環制御内科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光ファイバによる圧力検知機構を有し先端駆動操作が可能な心筋生検ロボット鉗子の開発	梅本 朋幸	循環器内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎発症における活性化B細胞の分子機構およびその臨床的意義の解明	岡本 師	長寿・健康人生推進センター	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シングルセル解析を用いた間葉系幹細胞エクソソームによる膝β細胞再生機構の解明	小宮 力	分子内分泌代謝学分野	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
4DCTから作成された3D心臓モデルを用いた僧帽弁形成術を標準化するための基盤研究	藤田 知之	心臓血管外科学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病のバイオマーカーを応用した周術期神経認知障害の発症予測と機序解明	仙頭 佳起	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
MRIを用いたもやもや病のGlymphatic system機能と血液脳関門透過性変化の解明	原 祥子	脳神経外科	1,625,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脂質代謝をターゲットとした悪性脳腫瘍の治療抵抗性機序の解明とその克服	田村 郁	医療連携支援センター	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
SEEG頭蓋内脳波記録によるSUDEPメカニズムの解明	稲次 基希	脳神経機能外科学分野	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
末梢神経障害性疼痛モデルにおける後根神経節マクロファージを標的とした新規治療	平井 高志	整形外科学分野	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
大動物を用いた膝屈筋腱による半月板再建の関節内成熟過程の解明	中村 智祐	運動器外科学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
空間的/質的/経時的評価を可能とするbiomarker樹立:全身DWIのdelta-radiomics解析	吉田 宗一郎	腎泌尿器外科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
淡明細胞型腎細胞癌における浸潤性増殖能獲得のプロセスと腫瘍免疫学的背景の解明	田中 一	腎泌尿器外科学分野	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
酸素ナノバブル水は再建手術の時間を止めるか～耐低酸素能と皮弁阻血時間に着目して～	上野 麻由	再建形成外科	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
空間的オミクス解析で紐解く骨粗鬆症における歯周組織の創傷治癒メカニズム	前川 祥吾	歯周病学分野	2,275,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯牙硬組織内の光伝搬解析と歯髄血流測定による非侵襲歯髄診断システムの開発	柿野 聡子	小児歯科学・障害者歯科学分野	2,015,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
覚醒時ブラキシズムの超短時間検査方法の確立と診断基準の決定	西山 暁	総合診療歯科学	2,275,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
金属ナノ粒子担持チタニアナノシートを用いた抗菌性ジルコニア歯科補綴装置の開発	野崎 浩佑	生体補綴歯科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部悪性腫瘍による下顎骨浸潤および神経周囲進展の非侵襲的画像評価法の確立	栗林 亜実	歯科放射線科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
原発性骨内癌の病態解明による新規診断技術・革新的治療法開発の基盤構築研究	黒嶋 雄志	顎口腔腫瘍外科学分野	1,066,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔内設置型ワイヤレス受信コイル導入によるデンタルMRIの確立	渡邊 裕	歯科放射線診断・治療学分野	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がん患者の再発リスク層別化にむけたFDG-PET/CTのテクスチャ解析の応用	中村 伸	歯科放射線診断・治療学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
乳幼児睡眠時無呼吸症における軟骨代謝障害の疾患感受性遺伝子の同定	細道 純	咬合機能矯正学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
エキソソームsiRNAを応用した頭蓋骨縫合部早期癒合症に対する新規治療法開発基盤	小林 起穂	矯正歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顔面非対称患者における嚥下時舌運動の解析:MRI動画法を用いた検討	井上 貴裕	矯正歯科	2,093,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
回復期リハビリテーション病院入院患者に対する歯科口腔管理のエビデンス構築	吉見 佳那子	摂食嚥下リハビリテーション学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児領域遺伝子解析研究推進に資する適正なdata sharingポリシー策定のための基盤調査	甲畑 宏子	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
外傷急性期治療としてのアイシングの影響と、高圧・高酸素併用治療の有効性の検討	柳下 和慶	教養教育部門(スポーツ医学診療センター)	975,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
がん幹細胞を標的とした近赤外光線免疫療法プラットフォームの確立	岡田 隆平	頭頸部外科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
定位頭蓋内脳波(sEEG)を用いた複雑な記憶の脳内機構解明-リップル波に注目して	高木 俊輔	精神行動医科学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
早期舌癌への定位放射線治療実現を目的とした吸引固定型スパーサー開発	長野 拓也	腫瘍放射線治療学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
Dual-energy CTを用いた頸動脈プラークの脆弱性の定量評価	平井 作京	血管内治療学分野	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
患者由来細胞を用いた腸上皮傷害・再生反復刺激モデルによる炎症性腸疾患の病態解析	藤井 悟	消化器病態学分野	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性肝疾患の長期予後改善に資する精緻サーベイランス系の開発	金子 俊	消化器連携医療学講座	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
原発性眼球内リンパ腫の中樞神経浸潤の機序の解明	吉藤 康太	血液内科	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
複数の抗原を認識し拡張性を高めたキメラ抗原受容体(CAR)-T細胞療法の開発	青山 慧	臨床腫瘍学分野	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
転移巣系統樹解析による膵癌オリゴ転移の判別	渡邊 秀一	肝胆膵外科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症外傷後多臓器障害と腸内細菌叢の腸間膜リンパ液を介した関係の解明	中堤 啓太	救命救急センター	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
敗血症DICにおける神経血管支配を標的とした新規治療標的の検討	末金 彰	救命救急センター	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頭部外傷患者に対するAIを用いたPrecision Medicineの構築	阿部 大数	脳神経外科	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
軟部組織損傷におけるアイシング及び高圧・高酸素併用治療の効果の検討	星野 傑	スポーツ医学診療センター	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
人工股関節のための最新非侵襲スマートフォン型手術ナビゲーションの開発と検証	高田 亮平	軟骨再生学講座	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
産後うつへのアロプレグナロンの役割解明-周産期メンタルヘルスの向上を目指して	廣瀬 明日香	周産・女性診療科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3D動態解析とシングルセル解析を用いた歯髄マクロファージ機能の解明	田澤 建人	むし歯科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
メトホルミンが糖尿病ラットのインプラントオッセオインテグレーションにもたらす効果	齋藤 夏実	歯周病科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性腎症における糸球体硬化に歯周病が与える影響およびそのメカニズムの解析	三上 理沙子	歯周病科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病モデルラットの歯周組織の治癒にメトホルミンが与える影響	城戸 大輔	歯科総合診療科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
空間オミクス解析による咬合性外傷原因因子の解明	土谷 洋輔	歯周病科	3,120,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
補綴治療に伴う食事指導は高齢者の腸内細菌叢のバランス改善に寄与するか	稲用 友佳	咬合機能健康科学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
深層学習による画像認識プログラムを応用した支台歯形状評価の自動化	土田 優美	口腔デジタルプロセス学分野	3,876,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
口腔内多発がんにおける口腔内細菌叢のメタゲノム解析	及川 悠	口腔外科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ctDNAを用いたメチル化解析によるOSCCの早期診断法の確立	清水 六花	口腔外科	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外圧環境を融合した新規リプログラミング法の開発	杉本 明日菜	小児歯科	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
デジタルアナトミー技術に立脚した歯根膜メカトランスダクション機構の解明	小笠原 毅	矯正歯科	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
子ども食堂を拠点とした健口体験プログラムの効果検証	日高 玲奈	地域・福祉口腔機能管理学分野	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
固形臓器移植後患者に対する抗菌薬適正使用に向けた戦略の構築	岡本 耕	統合臨床感染症学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症外傷に対する早期昇圧剤併用の効果: 多施設ランダム化試験パイロットスタディ	高山 渉	救急災害医学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
医療施設における持続的な災害対策体制構築に向けた研究	宮前 繁	災害テロ対策室	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アンチセンス核酸医薬の挑戦的脳デリバリー技術の創生	吉岡 耕太郎	脳神経病態学分野	15,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Craniosynostosisにおける骨縫合部の間葉系幹細胞の老化	森山 啓司	顎顔面矯正学分野	2,535,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
生体内脳神経アセンブロイド培養の確立	味岡 逸樹	脳統合機能研究センター	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
社会実装に向けたRGB-DカメラとAIを活用した生理的な新規顎運動評価方法の考案	田中 裕香	義歯科(専)快眠歯科(いびき・無呼吸)外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ナノサイズリン酸カルシウム化合物を用いた骨形成薬の創出	高橋 拓也	整形外科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
早期胃癌のリンパ節転移を予測するDNAメチル化バイオマーカーモデルの開発	奥野 圭祐	消化管外科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
筋層浸潤性膀胱癌の蛋白発現パターンに基づく新たな分子生物学的分類と治療戦略の確立	藤原 基裕	腎泌尿器外科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PKAシグナル活性化によるLRBA欠損症に対する新規治療法の開発	原 悠	血液浄化療法部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病における非古典的βカテニンリン酸化による遺伝子発現制御の解明	菊池 寛昭	茨城県腎臓疾患地域医療学講座	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
冠動脈疾患患者に対する歯周病治療が冠動脈プラーク性状や臨床転帰に与える影響	杉山 知代	循環制御内科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯の形成に与えるペリオスチンスプライズバリエーションの機能的差異	石原 聖子	咬合機能矯正学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
ポリロタキサンを基盤とした足場による2型糖尿病ラットへの歯周組織再生療法の開発	秤屋 雅弘	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
リドカイン担持メソポーラスシリカナノ粒子による新規周術期鎮静法の開発	高橋 賢	歯科麻酔科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
嚥下障害患者の健康に寄与する新しいとろみ調整食品開発のための研究	長澤 祐季	摂食嚥下リハビリテーション科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の新規予防戦略-「光」を活用した骨代謝制御の応用-	下平 剛	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨芽細胞由来エクソソームを用いた骨膜側からの骨再生	横田 香織	口腔インプラント科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫における腫瘍間質相互作用の機序解明と治療標的の同定	末吉 国誉	呼吸器外科学分野	900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨形成を促進するRANKL逆シグナルスイッチの最適化から新規骨形成促進薬開発へ	青木 和広	口腔基礎工学分野	2,860,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋における代謝異常・サルコペニア肥満と歯周炎の関わり-健康長寿を目指して-	片桐 さやか	歯周病学分野	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がんに対するα線源による新規小線源治療:その放射線生物学的基盤の解明	三浦 雅彦	歯科放射線診断・治療学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
幹細胞自己複製メカニズム解明による新規癌治療法の開発	並木 剛	皮膚科学分野	700,000	補	厚生労働省
移行期JIAを中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤等の適正使用に資する研究	森 雅亮	生涯免疫難病学講座	4,285,000	補	厚生労働省
学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	4,524,000	補	厚生労働省
テレワーカーの健康課題発生リスクや労働生産性に関連する生活・運動・睡眠習慣および身体機能の検証とそれに基づく指針作成のための研究	廣幡 健二	リハビリテーション医学分野	1,401,000	補	厚生労働省
がん相談支援の質の確保及び持続可能な体制の構築に資する研究	内村 祐之	医療情報部	1,000,000	補	国立がん研究センター
原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学分野	4,539,000	委	国立大学法人東海国立大学機構
胃がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	徳永 正則	消化管外科学分野	800,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学分野	10,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
「高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたヘマフィノブートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験」(PEMA-CORE study)	笹野 哲郎	循環制御内科学分野	1,039,500	委	国立がん研究センター
ゲーム障害の病態に関する神経画像的研究	高橋 英彦	精神行動医科学分野	1,000,000	委	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
多施設共同研究の質的向上に必要な生物統計手法に関する研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	200,000	委 国立大学法人九州大学
自家腸上皮オルガノイドを用いた潰瘍性大腸炎に対する粘膜再生治療の開発	岡本 隆一	消化器病態学分野	16,500,000	委 国立大学法人東海国立大学機構
再発・難治性大細胞型B細胞リンパ腫に対するLisocabtagene maraleucel治療の多施設共同観察研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学分野	1,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
An observational study to develop pathological screening method for predicting genetic alteration in prostate cancer (APPP study)	平川 晃弘	臨床統計学分野	440,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
次世代血液脳関門通過性ヘテロ核酸の開発による脳神経細胞種特異的分子標的治療とブレインイメージング	横田 隆徳	脳神経病態学分野	144,742,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明	高橋 英彦	精神行動医科学分野	33,540,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
トランスフェリン介在性中枢神経送達を利用した髄腔内投与型オーバーハングヘテロ2本鎖核酸の研究開発	吉岡 耕太郎	脳神経病態学分野	15,600,000	委 国立大学法人筑波大学
RNA標的創薬技術開発/核酸医薬品実用化のための製造及び分析基盤技術開発(革新的次世代核酸医薬-2)	横田 隆徳	脳神経病態学分野	139,100,000	委 国立大学法人北海道大学
リン酸化合物カルシウム塩と足場材料を用いた骨誘導能を有する新しい移植材料の開発	吉井 俊貴	整形外科学分野	1,620,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
アンチセンス核酸医薬を用いたRasGRP4阻害による多発性筋炎/皮膚筋炎の新規治療	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学分野	2,727,273	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
精神疾患の神経自己免疫病態の包括的解明と治療法の開発	塩飽 裕紀	精神行動医科学分野	12,740,000	委 国立大学法人筑波大学
iPS細胞を用いた自己組織化による複合型機能性ヒト腸管グラフト製造法の開発	水谷 知裕	消化器病態学分野	32,500,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
炎症性腸疾患の新規治療法開発およびそれに用いるための医薬組成物	永石 宇司	消化管先端治療学講座	1,800,000	委 国立大学法人東京大学
腫瘍の不均一性およびゲノム3次元構造の視点から見た乳児急性リンパ性白血病の理解と治療法に関する研究開発	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	13,000,000	委 国立大学法人東京大学
毛細血管拡張性運動失調症に対する遺伝子治療法の開発	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	1,824,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
早期舌癌への定位放射線治療実現を目的とした吸引固定型スピーサー開発	長野 拓也	腫瘍放射線治療学分野	1,824,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
遺伝性免疫異常症に対する新規遺伝子修正治療の研究開発	森尾 友宏	発生発達病態学分野	133,816,800	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
働く女性における月経困難症・月経前症候群・更年期障害の二次予防・三次予防のための指針策定に関する研究開発	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	24,302,200	委 国立大学法人東京大学
精神疾患の神経自己免疫病態の包括的解明と治療法の開発	塩飽 裕紀	精神行動医科学分野	56,656,000	委 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
免疫担当細胞eQTL データを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学分野	390,000	委 国立大学法人東京大学
核酸医薬への応用を目指した非環状型人工核酸の開発	横田 隆徳	脳神経病態学分野	2,600,000	委 国立大学法人秋田大学
幹細胞を中心とした皮膚レジリエンスの加齢性変容と臓器間フレイル関連機構の解明	沖山 奈緒子	皮膚科学分野	2,600,000	委 国立大学法人筑波大学
働く女性の健康に関する非薬物的介入のシステムティックレビューと職域における女性の健康増進に向けたガイドライン作成	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	150,000	委 国立大学法人京都大学
自己複製するT/NK前駆細胞を用いた神経芽腫に対するCAR-NK細胞療法の開発	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	200,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態機序解析による特発性間質性肺炎の層別化と創薬システムの開発	宮崎 泰成	統合呼吸器病学分野	3,900,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
患者レジストリを利活用した脊柱靭帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	吉井 俊貴	整形外科学分野	12,610,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
TDP-43タンパク質を標的とした筋萎縮性側索硬化症の核酸医薬開発	横田 隆徳	脳神経病態学分野	24,700,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
遺伝性腎線維化症ネフロン癆の病態解明と新規治療法開発	蘇原 映誠	腎臓内科学分野	13,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化修飾遺伝子の探索	須佐 紘一郎	腎臓内科学分野	9,100,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的オルガノイド技術を用いた肝線維化・発がん機構の解明と肝星細胞活性化制御をめざした治療法の創成	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	32,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
新規培養系を利用した肝星細胞の初期活性化機構の解明と抗線維化療法の標的分子の探索	三好 正人	消化器病態学分野	8,450,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する第三者由来複数ウイルス特異的T細胞療法の開発と研究	森尾 友宏	発生発達病態学分野	76,700,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
脊髄小脳失調症31型に対する核酸医薬開発	横田 隆徳	脳神経病態学分野	330,118,328	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ゲーム障害における視聴覚刺激による嗜癖行動悪化のメカニズム:アルコール依存症との比較を通じた検証	藤野 純也	精神行動医科学分野	10,530,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
関節リウマチ滑膜線維芽細胞・マクロファージ炎症性サブセットを標的とした新規治療戦略の開発	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学分野	10,400,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
難治性クローン病に対する自家腸上皮オルガノイド移植の研究開発	岡本 隆一	消化器病態学分野	52,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクスポソーム研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学分野	12,480,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
先天性腎性尿崩症と分類不能型免疫不全症に共通するLRBA依存性膜輸送機構の解明	安藤 史顕	腎臓内科学分野	6,500,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
うつ・不安症状を伴う更年期障害患者に対するピロリキサミンの臨床開発	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	7,462,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
21水酸化酵素欠損症の新たな小児期先制医療を目指した患者レジストリ構築、治療マーカーおよび簡便な遺伝学的検査法の確立	鹿島田 健一	発生発達病態学分野	12,220,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
国内マスタープロトコル試験の実施に関する規制的、統計的、実務的課題の検討とその適正利用のためのガイドライン作成	平川 晃弘	臨床統計学分野	9,100,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的オルガノイド技術を用いた肝線維化・発がん機構の解明と肝星細胞活性化制御をめざした治療法の創成	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	70,200,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化修飾遺伝子の探索	須佐 紘一郎	腎臓内科学分野	17,446,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
希少難病に対するN-of-1+核酸医薬創薬研究	横田 隆徳	脳神経病態学分野	77,350,000	委 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
再生医療等安全性確保法に従い実施される再生医療等臨床研究および再生医療等製品等の開発を目指す医師主導治験等を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの実現	森尾 友宏	発生発達病態学分野	15,080,000	委 愛知県がんセンター
心拍変動解析によるてんかん発作予知AIシステムの研究開発	宮島 美穂	精神行動医科学分野	6,500,000	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
Stage I/II舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学分野	780,000	委 国立大学法人大阪大学
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学分野	5,200,000	委 国立大学法人鹿児島大学
「乳児急性リンパ性白血病の新規治療戦略確立をめざす国際共同第Ⅲ相試験に向けた多施設共同第Ⅱ相臨床試験」開発研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	260,000	委 山梨大学
独自開発・革新性能の増殖制御型アデノウイルスの骨腫瘍(希少・難治性がん)承認への第Ⅱ相医師主導治験	平川 晃弘	臨床統計学分野	1,300,000	委 国立大学法人大阪大学
次世代シーケンス技術を基盤としたC型肝炎ウイルス排除後における肝癌出現機序・病態変化の解明とバイオマーカーの開発	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	910,000	委 国立大学法人東京大学
インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,040,000	委 国立大学法人群馬大学
東京大学大学院における生物統計家育成のための卒業教育まで含めた一貫した教育プログラムの研究開発	平川 晃弘	臨床統計学分野	500,000	委 国立大学法人北海道大学
女性ホルモンの影響による疾病の予防・治療に資するライフコース研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	390,000	委 公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院
B型肝炎培養細胞、抗ウイルス応答細胞モデルを用いた創薬シーズ化合物の大規模探索	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	5,200,000	委 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
希少疾患先天性無歯症患者の欠損歯を再生する新規抗体医薬品の開発	並木 剛	皮膚科学分野	1,235,000	委 埼玉県立小児医療センター
球脊髄性筋萎縮症に対する適正治療エビデンス創出のためのリアルワールドデータベース整備	平川 晃弘	臨床統計学分野	1,950,000	委 国立大学法人東京大学

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
小児から成人をシームレスに対象とした B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	280,800	委 国立大学法人東京大学
性差をみとめる運動器疾患の病態の解明とそれに基づく診断・治療・予防戦略の開発	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	1,950,000	委 国立大学法人京都大学
原発性眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤による医師主導による第Ⅱ相二重盲検比較試験	高瀬 博	眼科学分野	7,150	委 静岡県立静岡がんセンター
インドネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実装研究	前原 健寿	脳神経機能外科学分野	315,900	委 神奈川県がんセンター
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験	徳永 正則	消化管外科学分野	780,000	委 国立大学法人長崎大学
膵がん早期発見・精密治療方針決定を実現する新規放射性抗体医薬を用いた超音波内視鏡ガイド投与による革新的PET画像診断の第Ⅰ相医師主導治験	立石 宇貴秀	画像診断・核医学分野	520,000	委 国立大学法人東京大学
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	鴨居 功樹	眼科学分野	650,000	委 国立大学法人広島大学
ゲノム情報を基盤としたHTLV-1感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究	鴨居 功樹	眼科学分野	1,300,000	委 国立大学法人長崎大学
原発性免疫不全症の診断率向上に向けたCD45陽性細胞を用いたマルチオミックス解析の開発	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	780,000	委 国立大学法人広島大学
プリオン病国際医師主導治験獲得のためのプリオン病早期診断基準の作成と非侵襲性診断法の開発	三條 伸夫	脳神経病態学分野	1,300,000	委 国立大学法人北海道大学
包括的アプローチに基づく小児 COVID-19 関連多系統炎症性症候群の病態解析と臨床像の解明	森尾 友宏	発生発達病態学分野	2,600,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
肝線維化の非侵襲的評価のための糖鎖バイオマーカーの探索と検査系実用化に関する研究□	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,300,000	委 静岡県立大学
原発性免疫異常症患者を対象としたシロリムスの有効性及び安全性を検討する医師主導治験	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	39,390,000	委 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
異常タンパク質の脳内伝播を標的とする中枢神経変性疾患の非侵襲的な核酸ナノ医薬品の開発	桑原 宏哉	脳神経病態学分野	152,080	委 国立大学法人京都大学
新興・再興感染症流行に即応した医薬品開発に係る臨床研究を実施するための体制整備の基盤技術構築に関する研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	3,900,000	委 群馬県立がんセンター
小児血液悪性疾患及び非腫瘍性疾患に対するトレオスルフェン併用移植前処置の医師主導治験のプロトコール作成	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	52,000	委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
薬物療法により臨床的完全奏効が得られた HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有効性に関する単群検証的試験	石場 俊之	総合外科学分野	650,000	委 国立大学法人徳島大学
高安動脈炎における血管合併症バイオマーカーの開発に向けたエビデンス創出研究□	前嶋 康浩	循環制御内科学分野	1,560,000	委 国立大学法人東京大学
異常タンパク質の脳内伝播を標的とする中枢神経変性疾患の非侵襲的な核酸ナノ医薬品の開発	桑原 宏哉	脳神経病態学分野	7,647,920	委 国立大学法人東京大学

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
髄液リポミクス解析による慢性の痛みの解明および医療への展開	平井 高志	整形外科学分野	1,300,000	委 国立大学法人東京大学
早期関節リウマチの滑膜と末梢血情報による予後予測モデルの構築	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学分野	130,000	委 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
粘膜免疫を誘導可能なmRNAワクチンの開発	岡本 師	肺免疫治療学講座	1,300,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
アレルギー関連パスウェイの遺伝子解析を通じた重症アレルギー疾患の病態解明	森尾 友宏	発生発達病態学分野	1,300,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
DDS内在型2本鎖核酸医薬技術の創生	吉岡 耕太郎	脳神経病態学分野	7,800,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
上皮細胞サーキュレーションによる疾患制御イノベーション	水谷 知裕	消化器病態学分野	11,414,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
幻覚スペクトラムの操作と可視化	高橋 英彦	精神行動医科学分野	52,338,000	委 国立がん研究センター
①末梢臓器情報を中枢に伝達する分子機序解明とその制御法の開発 ②糖尿病未病・超早期状態におけるデータセットの構築と解析	山田 哲也	分子内分泌代謝学分野	104,000,000	委 国立長寿医療研究センター
試料集積の方法検討、トランスレーショナル実施案検討	三浦 雅彦	口腔放射線腫瘍学分野	100,000	委 国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者に対する老年医学・老年栄養学的介入および老年医学の発展に関する研究	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	500,000	委 厚生労働省
フレイル高齢者に対する老年医学・老年栄養学的介入および老年医学の発展に関する研究	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	500,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
歯科情報の利活用推進事業(歯科診療情報による身元確認のためのデータベースに関する検証等)に係る検証事業等一式	金澤 学	口腔デジタルプロセス学分野	7,150,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
継続的な行動変容を促す食育的オーラルフレイル予防Dxプロジェクト	松尾 浩一郎	地域・福祉口腔機能管理学分野	24,264,500	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
MRデバイスを用いた歯科インプラント外科手術のデータベース構築と遠隔手術支援に関する基盤構築研究	金澤 学	口腔デジタルプロセス学分野	4,992,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
歯ぎしりの咬合圧・咬筋筋活動測定フィードバックによる新しい治療システム開発	大森 浩子	矯正歯科	26,000,000	委 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
口腔内細菌叢破綻による生涯の代謝異常の病態解明	片桐 さやか	歯周病外来	6,578,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
TNF α 阻害薬使用中のリウマチ疾患患者における弱毒性ワクチン接種	清水 正樹	小児科	50,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
間質性肺炎により促進される肺発がん機構の免疫ゲノム学的理解と治療戦略の提案	本多 隆行	呼吸器内科	1,300,000	委 国立研究開発法人産業技術総合研究所
「大学病院臨床試験アライアンス」における模擬DCTの実施及び、単一IRB審議体制整備とCRB品質向上のための「アライアンス臨床研究コンシェルジュ」の開発	長堀 正和	臨床試験管理センター	8,568,120	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
ドナー肺のex vivo長時間機能温灌流法	長岡 英気	心臓血管外科	910,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
運動失調症の治療法開発を見据えた病型別前向き自然歴・バイオマーカーの確立	石川 欽也	長寿・健康人生推進センター	650,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
循環細胞外小胞の制御によるサルコペニア・慢性腎臓病の克服	萬代 新太郎	血液浄化療法部	13,000,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
Cross-Domain Motion GANを用いた変形性膝関節症向けリハビリテーションAIに関する研究	藤田 浩二	オープンイノベーションセンター(整形外科)	25,999,941	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
時相調整による腸上皮細胞の運命転換機構の解明と応用	油井 史郎	再生医療研究センター(消化器内科)	7,800,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
ゲノム医療・研究推進社会に向けた試料・情報の利活用とPPI施策に関する研究開発	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	29,900,000	委 国立大学法人東北大学
医学研究の開発における質の高い倫理審査を支える専門職の養成、ネットワーク構築、および研究者支援体制の開発	江花 有亮	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	29,900,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク・ネットワーク構築とバイオバンク利活用促進に関する研究開発	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	14,820,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
MS目標2の包括データベース構築、数理解析および連携研究に伴う倫理的、法的、社会的課題への対応	吉田 雅幸	生命倫理研究センター(遺伝子診療科)	1,950,000	委 国立大学法人東海国立大学機構
変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験	関矢 一郎	再生医療研究センター(整形外科)	81,900,000	委 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院
脳性まひモデル動物慢性期に対する歯髄幹細胞投与による治療効果の作用機序の検討	森丘 千夏子	茨城県小児・周産期地域医療学講座	1,495,000	委 静岡市
血栓吸引カテーテルを用いた機械的血栓回収療法の効果と安全性に関する多施設共同登録研究 Mechanical thrombectomy using large aspiration catheter for acute ischemic stroke (REACT AIS Registry)	壽美田 一貴	血管内治療学分野	22,000	委 公益財団法人交通事故総合分析センター
AI及びリモートテクノロジーを用いた心房細動の早期発見により清水区を脳梗塞の少ないまちにする地域医療共同研究(臨床研究)	笹野 哲郎	循環制御内科学分野	32,660,000	委 経済産業省近畿経済産業局長
交通事故時の人体傷害発生メカニズムの解明と交通外傷の被害軽減のあり方に関する調査研究	高山 渉	救急災害医学分野	2,300,000	委 東京都
不純物を極限まで減らしたMgとCaによる超高機能生体吸収膜によるハイブリッドインプラントの開発	吉井 俊貴	整形外科学分野	4,550,000	委 公益財団法人千葉県産業振興センター
中小病院におけるポストコロナ時代の感染症健康危機への対応能力強化事業	具 芳明	統合臨床感染症学分野(感染制御部)	21,600,000	委 公益財団法人千葉県産業振興センター
世界初の自動培養と生体内環境を再現できるIoT・AI技術を融合した安価なスマートシステムの開発	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学分野	1,746,237	委 経済産業省近畿経済産業局長

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)		補助元又は委託元
世界初の自動培養と生体内環境を再現できるIoT・AI技術を融合した安価なスマートシステムの開発	川島 伸之	歯髄生物学分野	1,746,236	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
不純物を極限まで減らしたMgとCaによる超高機能生体吸収膜によるハイブリッドインプラントの開発	丸川 恵理子	口腔再生再建学分野	3,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計437件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kono,A.Wakamatsu,M. Umezawa,Y. et al.	血液内科	Successful treatment of DOCK8 deficiency by allogeneic hematopoietic cell transplantation from alternative donors	Int J Hematol. 2023 Oct;118(4):519-525.	Case report
2	Mori, M. Yoshizaki, K. Watabe, S.et al.	小児科	Safety, efficacy and pharmacokinetics of palivizumab in off-label neonates, infants, and young children at risk for serious respiratory syncytial virus infection: a multicenter phase II clinical trial	Lancet Reg Health West Pac. 2023 Jul 26;39:100847.	Original Article
3	Mori, M. Matsubara, T.	膠原病・リウマチ内科	Overview of Guidelines for the Medical Treatment of Acute Kawasaki Disease in Japan (2020 Revised Version) and Positioning of Plasma Exchange Therapy in the Acute Phase	Pediatr Infect Dis J. 2023 Sep 1;42(9):e328-e332.	Review
4	Baba,H. Kimura,N. Kanegane,H.et al.	膠原病・リウマチ内科	GATA2 deficiency of a novel missense variant with multiorgan inflammation	Rheumatology (Oxford). 2024 Jan 30;keae062	Case report
5	Shimizu, M. Nishimura, K. Iwata, N.et al.	小児科	Treatment for macrophage activation syndrome associated with systemic juvenile idiopathic arthritis in Japan	Int J Rheum Dis. 2023 May;26(5):938-945.	Original Article
6	Kaneko, S. Shimizu, M. Shimbo, A.et al.	小児科	Clinical significance of serum cytokine profiles for differentiating between Kawasaki disease and its mimickers	Cytokine. 2023 Sep;169:156280	Original Article
7	Baba,H. Hosoya,T. Ishida,R. et al.	膠原病・リウマチ内科	Anti-Inflammatory Effects of a Novel Nuclear Factor- κ B Inhibitory Derivative Derived from Pyrazolo[3,4- d]Pyrimidine in Three Inflammation Models	J Pharmacol Exp Ther. 2024 Feb 15;388(3):788-797.	Original Article
8	Sasaki,H. Umezawa,N.Itakura, T. et al.	膠原病・リウマチ内科	Pathogenicity of functionally activated PD-1+CD8+ cells and counterattacks by muscular PD-L1 through IFN γ in myositis	J Autoimmun. 2024 Jan;142:103131	Original Article
9	Oba, S. Hosoya,T. Kaneshige. R. et al.	膠原病・リウマチ内科	Thrombosis and antiphospholipid antibodies in Japanese COVID-19: based on propensity score matching	Front Immunol. 2023 Oct 16;14:1227547	Original Article
10	Kamiya,M.Kimura, N. Umezawa,N. et al.	膠原病・リウマチ内科	Muscle fiber necroptosis in pathophysiology of idiopathic inflammatory myopathies and its potential as target of novel treatment strategy	Front Immunol. 2023 Jul 7;14:1191815.	Review

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	Tanaka,K. Ichikawa,A. Umezawa,N. et al.	血液内科	Lymphoproliferative disorder risk after methotrexate treatment for rheumatoid arthritis	Cancer Sci. 2023 Sep;114(9):3719-3727	Original Article
12	Hosoya,T. Oba,S. Komiya,Y. et al.	膠原病・リウマチ内科	Apple-shaped obesity: A risky soil for cytokine-accelerated severity in COVID-19.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2023 May 30;120(22):e2300155120.	Original Article
13	Itakura,T. Sasaki, H. Hosoya, T. et al.	膠原病・リウマチ内科	A novel gain-of-function missense variant in PLCG2 associated with autoinflammation and hypergammaglobulinaemia	Rheumatology (Oxford). 2023 Nov 2;62(11):e319-e321.	Case report
14	Umezawa,N. Mizoguchi, F. Maejima,Y. et al.	膠原病・リウマチ内科	Leucine-rich alpha-2 glycoprotein as a potential biomarker for large vessel vasculitides.	Front Med (Lausanne). 2023 May 5;10:1153883.	Original Article
15	Adachi, E. Nakagawa, R. Tsuji-Hosokawa, A et al.	小児科	A MinION-based Long-Read Sequencing Application With One-Step PCR for the Genetic Diagnosis of 21-Hydroxylase Deficiency	J Clin Endocrinol Metab. 2024 Feb 20;109(3):750-760.	Original Article
16	Fukuda, T. Fujii, A. Akihisa, T. et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Association between Diabetic Peripheral Neuropathy as Measured Using a Point-of-Care Sural Nerve Conduction Device and Urinary Albumin Excretion in Patients with Type 2 Diabetes	J Clin Med. 2023 Jun 16;12(12):4089.	Original Article
17	Niitsu, Y. Komiya, C. Takeuchi, A. et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	Increased serum extracellular vesicle miR-144-3p and miR-486a-3p in a mouse model of adipose tissue regeneration promote hepatocyte proliferation by targeting Txnip	PLoS One. 2023 May 4;18(5):e0284989.	Original Article
18	Murakami, M. Hara, K. Ikeda, K. et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Single-Nucleus Analysis Reveals Tumor Heterogeneity of Aldosterone-Producing Adenoma.	Hypertension. 2024 Feb;81(2):361-371	Original Article
19	Yanagawa,H. Hara,Y. Ando,F. et al.	腎臓内科	LRBA signalosomes activate vasopressin-induced AQP2 trafficking at recycling endosomes.	J Physiol. 2023 Dec;601(23):5437-5451.	Original Article
20	Fujimaru T, Mori T, Chiga M, et al.	腎臓内科	Genetic diagnosis of adult hemodialysis patients with unknown etiology	Kidney Int Rep. 2024 Feb 14;9(4):994-1004.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Nakamura, T. Aiba, T. Shimizu, W. et al.	循環器内科	Prediction of the Presence of Ventricular Fibrillation From a Brugada Electrocardiogram Using Artificial Intelligence	Circ J. 2023 Jun 23;87(7):1007-1014.	Original Article
22	Nishimura, T. Goya, M. Takigawa, M et al.	循環器内科	Transcoronary mapping with an over-the-wire multielectrode catheter in scar-related ventricular tachycardia patients	Europace. 2023 Dec 28;26(1):euad365	Original Article
23	Goto, K. Miyazaki, S. Nishimura, T et al.	循環器内科	Can phrenic nerve injury be anticipated by larger cryoballoons?	Pacing Clin Electrophysiol. 2024 Jan;47(1):124-126	Original Article
24	Yamaguchi, J. Takigawa, M. Goya, M et al.	循環器内科	Safety verification of a novel irrigation catheter with flexible tip of laser-cut kerfs and contact force sensor	Pacing Clin Electrophysiol. 2023 Dec;46(12):1536-1545.	Original Article
25	Takigawa, M. Ikenouchi, T. Goya et al.	循環器内科	Arrhythmogenic epicardial LA-PV connection at the peri-oesophageal posterior LA is safely and effectively blocked by ethanol infusion to the vein of Marshall	Europace. 2023 May 19;25(5):euac195.	Original Article
26	Yamaguchi, J. Takigawa, M. Goya, M et al.	循環器内科	Comparison of three different approaches to very high-power short-duration ablation using the QDOT-MICRO catheter	J Cardiovasc Electrophysiol. 2023 Apr;34(4):888-897.	Original Article
27	Ebana, Y. Liu, L. Ihara, K.et al	遺伝子診療科	Genetic risk score of cerebral infarction in atrial fibrillation genome-wide association study	Eur J Clin Invest. 2023 Dec;53(12):e14084	Original Article
28	Yonetsu, T.,Jang, I.-K.	循環器内科	Cardiac Optical Coherence Tomography: History, Current Status, and Perspective	JACC Asia. 2023 Nov 28;4(2):89-107	Review
29	Takigawa, M., Martin, C., Jaïs, P.	循環器内科	Mechanisms of Vein of Marshall-Related Tachyarrhythmias and the Impact of Ethanol Infusion	Rev. Cardiovasc. Med. 2024 Mar 25;25(4):112.	Review
30	Yamada,T.Minami, T. Kitano, Y.et al.	総合診療科	Development of a national point-of-care ultrasound training course for physicians in Japan: A 3-year evaluation	MedEdPublish (2016). 2023 Oct 25:13:223.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Yamada, T. Minami, T. Yoshino, S. et al.	総合診療科	Diaphragm Ultrasonography: Reference Values and Influencing Factors for Thickness, Thickening Fraction, and Excursion in the Seated Position	Lung. 2024 Feb;202(1):83-90.	Original Article
32	Takahashi, J. Sugihara, H.Y. Kato, S. et al.	消化器内科	Protocol to generate large human intestinal organoids using a rotating bioreactor	STAR Protoc. 2023 Sep 15;4(3):102374	Original Article
33	Kaneko, S. Asahina, Y. Murakawa, M. et al.	消化器内科	Analysis of prognosis and background liver disease in non-advanced hepatocellular carcinoma in two decades	PLoS One. 2024 Mar 7;19(3):e0297882.	Original Article
34	Fujiwara, S. Kano, Y. Maejima, Y. et al.	臨床腫瘍科	Clinical Response of Primary Malignant Pericardial Mesothelioma with Peritoneal Dissemination to Nivolumab	Intern Med. 2024 Feb 15;63(4):513-519.	Case Report
35	Takenaka, K. Kitazume, Y. Kawamoto, A. et al.	消化器内科	Serum Leucine-Rich α 2 Glycoprotein: A Novel Biomarker for Transmural Inflammation in Crohn's Disease	Am J Gastroenterol. 2023 Jun 1;118(6):1028-1035	Original Article
36	Nakagawa, M. Asahina, Y. Kakinuma, S. et al.	消化器内科	Impact of eradication of hepatitis C virus on liver-related and -unrelated diseases: morbidity and mortality of chronic hepatitis C after SVR	J Gastroenterol. 2023 Apr;58(4):299-310.	Review
37	Kawamoto, A. Takenaka, K. Hibiya, S. et al.	消化器内科 (光学医療診療部)	Combination of leucine-rich alpha-2 glycoprotein and fecal markers detect Crohn's disease activity confirmed by balloon-assisted enteroscopy	Intest Res. 2024 Jan;22(1):65-74.	Original Article
38	Watanabe, S. Ogasawara, N. Kobayashi, S. et al.	消化器内科	Organoids transplantation as a new modality to design epithelial signature to create a membrane-protective sulfomucin-enriched segment	J Gastroenterol. 2023 Apr;58(4):379-393.	Original Article
39	Yonemoto, Y. Nemoto, Y. Morikawa, R. et al.	消化器内科	Single cell analysis revealed that two distinct, unique CD4+ T cell subsets were increased in the small intestinal intraepithelial lymphocytes of aged mice	Front Immunol. 2024 Jan 22;15:1340048.	Original Article
40	Takenaka, K. Kawamoto, A. Kitazume, Y. et al.	消化器内科	Transmural Remission Characterized by High Biologic Concentrations Demonstrates Better Prognosis in Crohn's Disease	J Crohns Colitis. 2023 Jun 16;17(6):855-862.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Kobayashi,M. Katsuda,H. Ohtsuka,K. et al.	消化器内科	Comparison of guidewires for successful cannulation of biliary stenosis and targeting of biliary branches in ERCP	Endosc Int Open. 2023 Sep 1;11(9):E805-E810.	Original Article
42	Hibiya, S. Fujii, T. Fujii, T.et al.	消化器内科(光学医療診療部)	COVID-19 severity is associated with the risk of gastrointestinal bleeding	BMJ Open Gastroenterol. 2023 Nov;10(1):e001199.	Original Article
43	Yamaguchi, Y. Hosokawa, S. Haraguchi, G. et al.	小児科	The Anti-Inflammatory Effects and Clinical Potential of Dexmedetomidine in Pulmonary Arterial Hypertension	J Pharmacol Exp Ther. 2023 May;385(2):88-94.	Original Article
44	Takagi, M. Hoshino, A. Bousset, K.et al.	小児科	Bone Marrow Failure and Immunodeficiency Associated with Human RAD50 Variants	J Clin Immunol. 2023 Nov;43(8):2136-2145.	Original Article
45	Takagi, M. Tomoyasu, C. Yamanaka, J .et al.	小児科	Immunological assessment of a patient with infant acute lymphoblastic leukemia	Pediatr Int. 2024 Jan-Dec;66(1):e15738.	Original Article
46	Nishiyama, Y. Mizuki, K. Hoshino, A. et al.	小児科	Hematopoietic cell transplantation for hematological malignancies in Bloom syndrome	Pediatr Blood Cancer. 2023 Nov;70(11):e30655	Case Report
47	Tomomasa, D. Yamashita, M. Kamiya, T.et al.	小児科	Maternal Gonosomal Mosaicism Causes XIAP Deficiency	J Clin Immunol. 2023 Apr;43(3):525-527	Case Report
48	Inoue, K. Miyamoto, S. Tomomasa, D.et al.	小児科	Clinical and Genetic Characterization of Patients with Artemis Deficiency in Japan	J Clin Immunol. 2023 Apr;43(3):585-594.	Original Article
49	Nishimura, A. Yokoyama, K. Naruto, T.et al.	小児科	Myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia as a distinct leukemia type	Sci Adv. 2023 Dec 15;9(50):eadj4407	Original Article
50	Yamashita, M. Tomoda, T. Mizuo, A et al.	小児科	Transient erythroblastopenia due to a GATA1 variant in an infant female	Pediatr Blood Cancer. 2024 Mar;71(3):e30834	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Mizuno, T. Kanouchi, T. Tamura, Y. et al.	小児科	Changes in electrophysiological findings of spinal muscular atrophy type I after the administration of nusinersen and onasemnogene abeparvovec: two case reports	BMC Neurol. 2023 Oct 31;23(1):392.	Case Report
52	Shiwaku, H. Katayama, S. Gao, M. et al.	精神科	Analyzing schizophrenia-related phenotypes in mice caused by autoantibodies against NRXN1 α in schizophrenia	Brain Behav Immun. 2023 Jul;111:32-45.	Original Article
53	Maruo, T. Takagi, S. Uchida, S. et al .	精神科	Temporal patterns of sleep latency in central hypersomnia and attention deficit hyperactivity disorder: a cluster analysis exploration using Multiple Sleep Latency Test	Front Psychiatry. 2024 Mar 13;15:1361140.	Original Article
54	Toyoda, S. Handa, T. Yong, H.et al.	精神科	IMPDH2 forms spots at branching sites and distal ends of astrocyte stem processes	Genes Cells. 2024 Feb;29(2):150-158.	Original Article
55	Oya, M. Matsuoka, K. Kubota, M. et al.	精神科	Increased glutamate and glutamine levels and their relationship to astrocytes and dopaminergic transmissions in the brains of adults with autism	Sci Rep. 2023 Jul 19;13(1):11655	Original Article
56	Kobayashi, N. Jitoku, D. Mochimatsu, R.et al.	精神科	Treatment readiness and prognosis for problematic smartphone use: Evaluation of the Stages of Change, Readiness, and Treatment Eagerness Scale (SOCRATES) and log data	PCN Rep. 2024 Feb 13;3(1):e172.	Original Article
57	Yamauchi, S. Shiomi, A. Matsuda, C.et al .	大腸・肛門外科	Robotic-assisted colectomy for right-sided colon cancer: Short-term surgical outcomes of a multi-institutional prospective cohort study in Japan	Ann Gastroenterol Surg. 2023 May 23;7(6):932-939.	Original Article
58	Hanaoka, M. Kinugasa, Y. Sakai, Y. et al.	大腸・肛門外科	World's first report of sigmoidectomy for sigmoid cancer using the Saroa surgical system with tactile feedback	Updates Surg. 2023 Dec;75(8):2395-2401.	Case Report
59	Hanaoka, M. Kagawa, H. Shiomi, A. et al.	大腸・肛門外科	Risk factors for and longitudinal course of male sexual dysfunction after robotic rectal cancer surgery	Colorectal Dis. 2023 May;25(5):932-942.	Original Article
60	Tanioka, T. Yatabe, Y. Saito, T. et al.	胃外科	Optimal placement of self-fixating mesh in the rectus abdominis muscle for ventral hernia repair when using the enhanced-view totally extraperitoneal Rives-Stopppa technique	Asian J Endosc Surg. 2023 Jul;16(3):653-657.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Arai, S. Yamaoka, Y. Shiomi, A. et al.	大腸・肛門外科	Efficacy of laparoscopic surgery for loop colostomy: a propensity-score-matched analysis	Tech Coloproctol. 2023 Dec;27(12):1319-1326.	Original Article
62	Ryu, K. Kitaguchi, D. Nakajima, K. et al.	胃外科	Deep learning-based vessel automatic recognition for laparoscopic right hemicolectomy	Surg Endosc. 2024 Jan;38(1):171-178.	Original Article
63	Yamasaki, Y. Tokunaga, M. Sakai, Y. et al.	胃外科	Effects of a force feedback function in a surgical robot on the suturing procedure	Surg Endosc. 2024 Mar;38(3):1222-1229.	Original Article
64	Kasai, S. Yamauchi, S. Tazawa, M et al.	大腸・肛門外科	Advantages of preoperative counseling with video for robotic rectal cancer surgery compared with conventional counseling: A randomized controlled trial	Asian J Endosc Surg. 2023 Apr;16(2):248-254.	Original Article
65	Kasai, S. Kagawa, H. Shiomi, A et al.	大腸・肛門外科	Long-term outcomes of upfront robotic rectal cancer surgery: a single-center, retrospective cohort study in Japan	Surg Today. 2023 Sep;53(9):1028-1037.	Original Article
66	Igaki, T. Kitaguchi, D. Matsuzaki, H. et al.	大腸・肛門外科	Automatic Surgical Skill Assessment System Based on Concordance of Standardized Surgical Field Development Using Artificial Intelligence	JAMA Surg. 2023 Aug 1;158(8):e231131.	Original Article
67	Hanaoka, M., Takaoka, A., Iwata, N. et al.	大腸・肛門外科	Tips for Robotic-Assisted Lateral Lymph Node Dissection with Internal Iliac Artery Resection after Neoadjuvant Chemoradiotherapy	Dis Colon Rectum. 2024 Mar 1;67(3):e199.	Original Article
68	Mizoguchi, M. Kizuki, M. Iwata, N et al.	大腸・肛門外科	Comparison of short-term outcomes between robot-assisted and laparoscopic rectal surgery for rectal cancer: A propensity score-matched analysis using the Japanese Nationwide diagnosis procedure combination database	Ann Gastroenterol Surg. 2023 Jul 4;7(6):955-967.	Original Article
69	Akahoshi, K. Shindoh, J. Tanabe, M et al.	肝胆膵外科	Questionnaire survey of Japanese board-certified expert hepatobiliary and pancreatic surgeons and instructors on the surgical indications for hepatocellular carcinoma	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Mar;31(3):143-151.	Original Article
70	Ono, H. Murase, Y. Yamashita, H. et al.	肝胆膵外科	RRM1 is mediated by histone acetylation through gemcitabine resistance and contributes to invasiveness and ECM remodeling in pancreatic cancer	Int J Oncol. 2023 Apr;62(4):51.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Yagi, K. Shimada, S. Akiyama, Y. et al.	肝胆膵外科	Loss of SFXN1 mitigates lipotoxicity and predicts poor outcome in non-viral hepatocellular carcinoma	Sci Rep. 2023 Jun 9;13(1):9449.	Original Article
72	Yamashina, M. Inaji, M. Hara, S. et al.	脳神経外科	Encephalo-Duro-Pericranio-Synangiosis for the Treatment of Moyamoya Disease with Posterior Cerebral Artery Lesions	World Neurosurg. 2023 Jul;175:e678-e685	Original Article
73	Hara , S. Hori , M. Kamagata,K .et al.	脳神経外科	Increased Parenchymal Free Water May Be Decreased by Revascularization Surgery in Patients with Moyamoya Disease	Magn Reson Med Sci. 2023 Apr (オンライン)	Original Article
74	Ebiko, Y. Tamura, K. Hara, S.et al.	脳神経外科	T2-FLAIR mismatch sign correlates with 11C-methionine uptake in lower-grade diffuse gliomas	J Neurooncol. 2023 Aug;164(1):257-265.	Original Article
75	Thamamongood, T. Hara, S. Akagawa, H.et al.	脳神経外科	Synergistic Interaction of Thyroid Autoantibodies and Ring Finger Protein 213 Variant in Moyamoya Disease	Neurol Med Chir (Tokyo). 2024 Jan 15;64(1):43-49.	Original Article
76	Arai, Y. Inaji, M. Shimizu, K. et al.	脳神経外科	Long-term efficacy and safety of perampanel as an add-on therapy in patients with epilepsy	Epilepsy Res. 2024 Feb;200:107307.	Original Article
77	Kaneko, S. Inaji, M. Shimizu, K. et al.	脳神経外科	Clinical utility and safety of a trapezoid-shaped electrode placement for evaluating the mesio-basal temporal lobe during epilepsy surgery	J Clin Neurosci. 2024 Mar;121:28-33.	Original Article
78	Shimizu, K. Kahramanian, A. Jabbar, M.A.D.A.et al.	脳神経外科	Photodynamic augmentation of oncolytic virus therapy for central nervous system malignancies	Cancer Lett. 2023 Sep 28;572:216363.	Original Article
79	Fujioka, M. Hara, S. Mukawa, M.et al.	脳神経外科	Changes in the clinical spectrum of pediatric moyamoya disease over 40 years	Childs Nerv Syst. 2023 May;39(5):1215-1223.	Original Article
80	Hirai, S. Ishikawa, M. Sagawa, H. et al.	血管内治療科	Ghost twisting of the dual-layer flow-diverting stent	Neuroradiology. 2023 Nov;65(11):1669-1672.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Aoyama,J. Hirai,S. Ishikawa,M.et al.	血管内治療科	Endovascular Treatment for Ruptured Proximal Anterior Cerebral Artery Dissecting Aneurysm: A case series	Turk Neurosurg. 2023 Jun 13. (オンライン)	Case Report
82	Takahashi, S. Ishikawa, M. Sagawa, H. et al.	血管内治療科	Delayed hydrocephalus and visual field defect due to perianeurysmal inflammation after treating a large unruptured aneurysm with flow diverter and coil: A case report	Clin Neurol Neurosurg. 2024 Feb;237:108130	Case Report
83	Hirai, S. Hirakawa, A. Fujita, K. et al.	血管内治療科	Imaging predictors of clinical outcomes after endovascular treatment in MRI-selected patients with acute basilar artery occlusion	Clin Neurol Neurosurg. 2023 Aug;231:107824.	Original Article
84	Aoyama, J. Iha ,H. Ishikawa, M. et al.	血管内治療科	A Case of Dural Arteriovenous Fistula Following Cerebral Venous Sinus Thrombosis Associated with the COVID-19 Vaccine	J Neuroendovasc Ther. 2023;18(1):24-28	Case Report
85	Fujii S, Hirai S, Fujita K, et al	血管内治療科	Two-Step Effective Onyx Embolization from the Occipital Artery for the Treatment of Intracranial Dural Arteriovenous Fistula: A Technical Note	Turk Neurosurg. 2023.Jul.(オンライン)	Original Article
86	Sagawa, H. Fujii, S. Fujita, K.et al.	血管内治療科	A case study of the disconnected dual taper tip of the Wingspan stent during percutaneous transluminal angioplasty and stenting of the vertebral artery	Clin Neurol Neurosurg. 2023 Jul;230:107774.	Case Report
87	Fujita,K. Sato, Y. Hanazawa.R. et al.	血管内治療科	Impact of cancer history on long-term outcome after elective neuro-endovascular treatment in patients aged 80 years or older: A retrospective multicenter observational study	Geriatr Gerontol Int. 2024 Feb;24(2);211-217.	Original Article
88	Morishita, S. Yoshii, T. Inose, H. et al.	整形外科	Perioperative Complications of Laminoplasty in Degenerative Cervical Myelopathy –A Comparative Study Between Ossification of Posterior Longitudinal Ligament and Cervical Spondylotic Myelopathy Using a Nationwide Inpatient Database	Global Spine J. 2023 Sep;13(7):1956-1963.	Original Article
89	Yamada, K.Yoshii, T.Toba,M. et al.	整形外科	Risk Factors for Postoperative Unfavorable Ambulatory Status After Spinal Surgery for Metastatic Spinal Tumor	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Oct 15;48(20):1419-1426.	Original Article
90	Segawa, Y. Jinno, T. Matsubara, M.et al.	整形外科	A cross-sectional study evaluating patients' preferences for Salter innominate osteotomy	J Orthop Sci. 2023 Nov;28(6):1298-1302.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Matsukura, Y. Egawa, S. Inose, H. et al.	整形外科	Preoperative Symptom Duration Influences Neurological Recovery and Patient-Reported Outcome Measures After Surgical Treatment of Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Sep 15;48(18):1259-1265.	Original Article
92	Hirai, T. Egawa, S. Sakai, K. et al.	整形外科	Novel Technique of Anterior Foraminotomy Based on Augmented Reality with Computed Tomography Navigation System: A Case Report	Spine Surg Relat Res. 2023 Oct 13;8(1):114-117	Case Report
93	Ding, H. Koga, H. Katagiri, H. et al.	整形外科	Low central sensitisation inventory score is associated with better post-operative outcomes of osteotomy around the knee	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023 Dec;31(12):5896-5904.	Original Article
94	Amano, Y. Ozeki, N. Matsuda, J. et al.	整形外科	Augmentation of a Nonanatomical Repair of a Medial Meniscus Posterior Root Tear With Centralization Using Three Knotless Anchors May Be Associated With Less Meniscal Extrusion and Better Compressive Load Distribution in Mid-Flexion Compared With Non-Anatomical Root Repair Alone in a Porcine Knee Model	Arthroscopy. 2023 Dec;39(12):2487-2498.e4.	Original Article
95	Ibara, T. Fujita, K. Watanabe, N. et al.	整形外科	Stabilization and compensation strategy of the hip angle during gait in hip-osteoarthritis patients from the perspective of whole-body movement synergy	Gait Posture. 2023 Sep;106:65-71.	Original Article
96	Inose, H. Kato, T. Matsukura, Y. et al.	整形外科	Factors influencing the long-term outcomes of instrumentation surgery for degenerative lumbar spondylolisthesis: a post-hoc analysis of a prospective randomized study	Spine J. 2023 Jun;23(6):799-804.	Original Article
97	Sekiya, I. Katano, H. Guermazi, A. et al.	輸血・細胞治療センター	Association of AI-determined Kellgren-Lawrence grade with medial meniscus extrusion and cartilage thickness by AI-based 3D MRI analysis in early knee osteoarthritis	Sci Rep. 2023 Nov 16;13(1):20093.	Original Article
98	Katano, H. Ozeki, N. Mizuno, M. et al.	輸血・細胞治療センター	Morphological analysis of three-dimensional MR images of patellofemoral joints in asymptomatic subjects	Sci Rep. 2023 Oct 5;13(1):16750.	Original Article
99	Nojima, K. Hayashi, M. Tanemura, A. et al.	皮膚科	Activated Akt expression is associated with the recurrence of primary melanomas and further refines the prognostic and predictive values for relapse in acral melanomas	Pigment Cell Melanoma Res. 2024 Jan;37(1):36-44.	Original Article
100	Namiki, T. Makiguchi, M. Wada, S. et al.	皮膚科	The potential value of thallium-201 scintigraphy in the diagnosis of squamous cell carcinoma arising from extensive pyoderma	J Dermatol. 2023 Jul;50(7):942-945.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Okiyama, N.Konishi, R. Ishimura, Y.	皮膚科	Murine models of idiopathic inflammatory myopathies	J Dermatol. 2024 Feb (オンライン)	Review
102	Asai S, Kobayashi M, Fukuda S, et al.	泌尿器科	Significance of atypical nodules upgraded to category 3 in Prostate Imaging Reporting and Data System version 2.1 for prostate cancer diagnosis.	Int J Urol. 2024 Feb (オンライン)	Original Article
103	Kataoka, M. Yokoyama, M. Waseda, Y. et al.	泌尿器科	Longitudinal deterioration in lower urinary tract symptoms after artificial urinary sphincter implantation in patients with a history of pelvic radiation therapy	Low Urin Tract Symptoms. 2024 Jan;16(1):e12507.	Original Article
104	Uchida, Y. Yokoyama, M. Fujiwara, M.et al.	泌尿器科	Preservation of Erectile and Ejaculatory Functions After Tetramodal Bladder-Sparing Therapy Incorporating Consolidative Partial Cystectomy Against Muscle Invasive Bladder Cancer	Urol Res Pract. 2023 May;49(3):162-168.	Original Article
105	Fan B, Yokoyama M, Kobayashi M, et al.	泌尿器科	Incidence, risk factors, and significance of 20% decrease from new baseline estimated glomerular filtration rate after radical and partial nephrectomy within 2 years.	Int J Urol. 2024 Feb;31(2):119-124.	Original Article
106	Chen W, Yokoyama M, Waseda Y, et al.	泌尿器科	Surgical outcomes of robot-assisted radical cystectomy in octogenarian or older patients: A Japanese nationwide study.	Int J Urol. 2023 Nov;30(11):1014-1019.	Original Article
107	Ohno-Matsui, K.	眼科	Insights Into Childhood Myopic Maculopathy	JAMA Ophthalmol. 2024 Mar 1;142(3):186-187.	Review
108	Ohno-Matsui, K. Akiba, M. Ishibashi, T. et al.	眼科	EVALUATION OF MORNING GLORY SYNDROME BY SWEPT SOURCE OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY	Retin Cases Brief Rep. 2023 Sep 1;17(5):542-547.	Case Report
109	Ohno-Matsui, K. Takahashi, H. Mao, Z. et al.	眼科	Determining posterior vitreous structure by analysis of images obtained by AI-based 3D segmentation and ultrawidefield optical coherence tomography	Br J Ophthalmol. 2023 May;107(5):732-737.	Original Article
110	Kamoi, K. Ohno-Matsui, K.	眼科	Long Vax in the Eye: Long Post-COVID Vaccination Syndrome Presenting with Frosted Branch Angiitis	Diseases. 2024 Feb 9;12(2):36.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
111	Ohno-Matsui, K.	眼科	Evaluating the Entire Shape of the Eye With Pathologic Myopia	JAMA Ophthalmol. 2023 Aug 1;141(8):774-775.	Review
112	Xie, S. Lu, H. Chen, C. et al.	眼科	MORPHOLOGIC CHARACTERISTICS AND PROGRESSION PATTERNS OF MACULAR NEOVASCULARIZATION-RELATED ATROPHY IN EYES WITH PATHOLOGIC MYOPIA	Retina. 2023 Oct 1;43(10):1662-1672.	Original Article
113	Yang, M. Kamoi, K. Zong, Y. et al.	眼科	Ripasudil as a Potential Therapeutic Agent in Treating Secondary Glaucoma in HTLV-1-Uveitis: An In Vitro Analysis	Int J Mol Sci. 2024 Mar 12;25(6):3229.	Original Article
114	Lu, H. Chen, C. Xiong, J. et al.	眼科	LONGITUDINAL CHANGES OF POSTERIOR VORTEX VEINS IN HIGHLY MYOPIC EYES DETERMINED BY RETROSPECTIVE ANALYSES OF INDOCYANINE GREEN ANGIOGRAMS	Retina. 2024 Mar 1;44(3):438-445.	Original Article
115	Sugisawa, K. Takase, H. Sugihara, T. et al.	眼科	Granulomatosis with Polyangiitis Complicated by Severe Exudative Retinal Detachment and Orbital Granuloma Successfully Controlled with Rituximab: A Case Report	Case Rep Ophthalmol. 2023 May 12;14(1):214-222.	Case Report
116	Zou, Y. Kamoi, K. Zong, Y. et al.	眼科	Ocular Inflammation Post-Vaccination	Vaccines (Basel). 2023 Oct 23;11(10):1626.	Review
117	Wang, Y. Du, R. Xie, S. et al.	眼科	Machine Learning Models for Predicting Long-Term Visual Acuity in Highly Myopic Eyes	JAMA Ophthalmol. 2023 Dec 1;141(12):1117-1124.	Original Article
118	Wang, S.-W. Igarashi-Yokoi, T. Mochida, S. et al.	眼科	PREVALENCE AND CLINICAL FEATURES OF RADIAL FUNDUS AUTOFLUORESCENCE IN HIGH MYOPIC WOMEN	Retina. 2024 Mar 1;44(3):446-454.	Original Article
119	Takahashi, H. Uramoto, K. Ohno-Matsui, K.	眼科	NEODYMIUM-DOPED YTTRIUM ALUMINUM GARNET LASER ABLATION OF INTERNAL LIMITING MEMBRANE TO TREAT MYOPIC MACULAR RETINOSCHISIS: CASE SERIES	Retin Cases Brief Rep. 2024 Jan 1;18(1):24-28.	Case Report
120	Takahashi, T. Igarashi-Yokoi, T. Nakao, N. et al.	眼科	Dome-shaped macula with protrusion of inner part of sclera	Am J Ophthalmol Case Rep. 2023 Sep 4;32:101926.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
121	Yang, M. Kamoi, K. Zong, Y. et al.	眼科	Ocular Manifestations of Human Immunodeficiency Virus Infection in the Combination Antiretroviral Therapy Era	Pathogens. 2023 Dec 4;12(12):1417.	Original Article
122	Yoshida, T. Yoshimoto, S. Nomura, T. et al.	眼科	Intraocular pressure-lowering effects of ripasudil on open-angle glaucoma in eyes with high myopia and pathological myopia	Sci Rep. 2023 Dec 21;13(1):22888.	Original Article
123	Yoshida, T. Nomura, T. Yoshimoto, S. et al.	眼科	Outcomes of standalone ab interno trabeculotomy in the treatment of open-angle glaucoma in eyes with high myopia	BMC Ophthalmol. 2023 Jun 12;23(1):261.	Original Article
124	Horie S, Corradetti G, Esmailkhanian H, et al.	眼科	Microperimetry in Retinal Diseases	Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2023 Mar-Apr;12(2):211-227. Erratum in Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2023 Jul-Aug 01;12(4):423.	Review
125	Kurata, N. Kawashima, Y. Ito, T. et al.	耳鼻咽喉科	Advanced Magnetic Resonance Imaging Sheds Light on the Distinct Pathophysiology of Various Types of Acute Sensorineural Hearing Loss	Otol Neurotol. 2023 Aug 1;44(7):656-663.	Original Article
126	Yoshida M, Yoshimura RI, Notake R, et al.	放射線治療科	Feasibility of accelerated partial breast irradiation with strut-adjusted volume implant brachytherapy in Japan focusing on dosimetry and acute toxicity: a Japanese multi-institutional prospective study	Breast Cancer. 2024 Jan; 31(1): 75-83.	Original Article
127	Ozawa, A. Iwasaki, M. Yokoyama, K. et al	放射線診断科	Correlation between choline kinase alpha expression and 11C-choline accumulation in breast cancer using positron emission tomography/computed tomography: a retrospective study	Sci Rep. 2023 Oct 17;13(1):17620.	Original Article
128	Miura, M. Sakaue, F. Matsuno, H. et al.	脳神経内科	TDP-43 N-terminal domain dimerisation or spatial separation by RNA binding decreases its propensity to aggregate	FEBS Lett. 2023 Jun;597(12):1667-1676.	Original Article
129	Iida, S. Kanouchi, T. Hattori, T. et al	脳神経内科	Verification of propagation hypothesis in patients with sporadic hand onset amyotrophic lateral sclerosis	Acta Neurol Belg. 2023 Aug;123(4):1511-1517.	Original Article
130	Sanjo, N. Suzuki, M. Yoshihama, R. et al.	脳神経内科	Substitution of Glu to Lys at Codon 332 on the GFAP Gene Alone Is Causative for Adult-onset Alexander Disease	Intern Med. 2024 Jan 15;63(2):309-313.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Okubo, K.Ishibashi, H.Wakejima, R.et al.	呼吸器外科	Extended pleurectomy/decortication and hyperthermic intraoperative intrapleural cisplatin perfusion for malignant pleural mesothelioma	JTCVS Open. 2023 Sep 14;16:977-986	Original Article
132	Ishibashi, H. Wakejima, R. Kurihara, Y. et al.	呼吸器外科	Extubation by supraglottic airway after lobectomy prevents cough-associated air leaks and prolonged coughing or sore throat	Eur J Cardiothorac Surg. 2023 May 2;63(5):ezad158.	Original Article
133	Shirai ,T. Tanino, Y. Nikaido, T.et al.	呼吸器内科	Utility of budgerigar/pigeon/parrot-specific IgG antibody with ImmunoCAP® in bird-related hypersensitivity pneumonitis caused by other bird species and duvet	Respir Investig. 2023 Jul;61(4):520-526.	Original Article
134	Aoki, H. Miyazaki, Y. Anzai, T.et al.	呼吸器内科	Deep convolutional neural network for differentiating between sarcoidosis and lymphoma based on [18F]FDG maximum-intensity projection images	Eur Radiol. 2024 Jan;34(1):374-383.	Original Article
135	Komatsuzaki K, Kageshima H, Sekino Y, et al.	呼吸器内科	Local nasal immunotherapy with birch pollen-galactomannan conjugate-containing ointment in mice and humans.	Allergol Int. 2023.Nov.18(オンライン)	Original Article
136	Ishida, N. Tanaka, K. Homma, T. et al.	形成・美容外科	Necessity of infraorbital wall reconstruction in patients with residual periosteum after total maxillectomy	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2023 Oct;85:195-201.	Original Article
137	Hidaka, T. Tanaka, K. Mori, H.	形成・美容外科	An Artificial Intelligence-Based Cosmesis Evaluation for Temporomandibular Joint Reconstruction	Laryngoscope. 2023 Apr;133(4):841-848.	Original Article
138	Hidaka, T. Tanaka, K. Mori, H.	形成・美容外科	Outcome evaluation using an artificial intelligence-based facial measurement software for facial nerve grafting in head and neck and skull base surgery	Head Neck. 2023 Jun;45(6):1572-1580.	Original Article
139	Hidaka, T. Tanaka, K. Minami, M.et al.	形成・美容外科	Risk Factors for Postoperative Infection After Maxillary Reconstruction Using Skeletal Grafts	J Craniofac Surg. 2023 Oct 1;34(7):e649-e651	Original Article
140	Nakagawa T, Mori H, Uemura N,et al.	乳腺外科	A Case of Breast Cancer With Ulceration of a Reconstructed Nipple Due to Local Recurrence	Cureus. 2023 May 27;15(5):e39563.	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
141	Yamazaki, A. Nukui, Y. Kameda, T.et al.	検査部	Variation in presepsin and thrombomodulin levels for predicting COVID-19 mortality	Sci Rep. 2023 Dec 6;13(1):21493.	Original Article
142	Ohkubo A, Sakurasawa T, Hoshikawa Y, et al.	MEセンター	Evaluation of the treatment volume and removal rate of Rheocarna: A novel adsorption-type blood purification device for patients with chronic limb-threatening ischemia.	Ther Apher Dial. 2023 Dec; 27: 1017-1022	Original Article
143	Ohkubo A, Sakurasawa T, Naito S.	MEセンター	Low-Density Lipoprotein Adsorption by Centrifugal Plasma Separation Can Shorten Treatment Time.	Case Rep Nephrol Dial. 2023 Jul; 13: 51-56	Case Report
144	Sakai, T.Hoshino, C Hirao,.M. et al.	リハビリテーション部	Rehabilitation of Patients with Post-COVID-19 Syndrome: A Narrative Review	Prog Rehabil Med. 2023 Jun 14:8:20230017.(オンライン)	Review
145	Takahashi,Y. Nishinaka,N. Furuya, K.et al.	リハビリテーション部	Analysis of in vivo humeral rotation of reverse total shoulder arthroplasty patients during shoulder abduction on the scapular plane with a load.	Arthroplasty. 2023 Oct 5;5(1):51.(オンライン)	Original Article
146	Nanjo,K.Ikeda, T.Nagashio, N.et al.	リハビリテーション部	Psychological factors associated with instrumental activities of daily living disability in older adults with moderate to severe knee osteoarthritis.	J Back Musculoskelet Rehabil. 2023;36(4):911-920. (オンライン)	Original Article
147	Nanjo,K.Ikeda, T.Nagashio, N.et al.	リハビリテーション部	Preoperative Predictors of Instrumental Activities of Daily Living Disability in Older Adults 6 Months After Knee Arthroplasty.	Arch Phys Med Rehabil. 2023 Aug;104(8):1260-1267. (オンライン)	Original Article
148	Ohji,S. Aizawa,J.Hirohata, K.et al.	スポーツ医学診療センター	Association of Knee Function at 6 Postoperative Months With Second ACL Injury Within 2 Years After Primary ACL Reconstruction.	JOSPT Open 2024 2:1, 20-28.	Original Article
149	Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, et al.	スポーツ医学診療センター	Kinesiophobia Is Negatively Associated With Psychological Readiness to Return to Sport in Patients Awaiting Anterior Cruciate Ligament Reconstruction.	Arthroscopy. 2023 Sep;39(9):2048-2055.	Original Article
150	Aizawa, JY. Hirohata, K. Ohji, S. et al.	スポーツ医学診療センター	Anterior Cruciate Ligament-Return to Sport after Injury (ACL-RSI) subcategories are affected by subjective running ability and medial single-leg hop distance in postreconstruction patients at 6 months	J Exp Orthop. 2024 Feb 3;11(1):e12004.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
151	Ozeki N, Koga H, Nakamura T, et al.	スポーツ医学診療センター	Real-Time Virtual Sonography-Guided Ossicle Removal in Unresolved Osgood-Schlatter Disease.	Arthrosc Tech. 2024 Jan 1;13(4):102897.	Original Article
152	Murofushi K, Morito T, Akuzawa H, et al.	スポーツ医学診療センター	External focus instruction using a paper balloon: impact on trunk and lower extremity muscle activity in isometric single-leg stance for healthy males.	Front Sports Act Living. 2024 Mar 14;6:1343888.	Original Article
153	Murofushi K, Yamaguchi D, Kaneoka K, et al.	スポーツ医学診療センター	The effectiveness of corrective exercises on the KOJI AWARENESS score and activity-related pain intensity.	J Med Invest. 2023;70(1.2):208-212.	Original Article
154	Mizuno M, Abe K, Kakimoto T, et al.	輸血・細胞治療センター	Volatile organic compounds and ionic substances contamination in cell processing facilities during rest period; a preliminary assessment of exposure to cell processing operators.	Regen Ther. 2023 Jul 18;24:211-218.	Original Article
155	Mizuno M, Maeda Y, Sanami S, et al.	輸血・細胞治療センター	Noninvasive total counting of cultured cells using a home-use scanner with a pattern sheet.	iScience. 2024 Feb 9;27(3):109170.	Original Article
156	Mizuno M, Abe K, Kakimoto T, et al.	輸血・細胞治療センター	Operator-derived particles and falling bacteria in biosafety cabinets.	Regen Ther. 2024 Jan 19;25:264-272.	Original Article
157	Kinowaki, Y. Fukumura, Y. Kawade, G. et al	病理部	Gene expression profiling of pancreatic neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm	Gene. 2024 Jan 30:893:147916.	Original Article
158	Shintaku, H. Gokita, K. Oshima, T. et al.	病理部	Pancreatic hamartoma: Possibility of a preoperative diagnosis via endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy	Diagn Cytopathol. 2023 Sep;51(9):E267-E272.	Case Report
159	Kato, Y. Ito, T. Yamamoto, K. et al.	病理部	Invasive features of superficial oesophageal squamous cell carcinoma-analysis of risk factors for lymph node metastasis	Virchows Arch. 2023 Nov;483(5):645-653.	Original Article
160	Yagi, K. Ono, H. Kudo, A. et al.	肝胆膵外科	MGMT is frequently inactivated in pancreatic NET-G2 and is associated with the therapeutic activity of STZ-based regimens	Sci Rep. 2023 May 9;13(1):7535.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
161	Yamada, E. Umemoto, T. Taguchi, T. et al.	整形外科	Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome	JSES Int. 2023 Dec 7;8(2):349-354.	Original Article
162	Yashima, Y. Fujioka, T. Kubota, K. et al.	放射線診断科	Comparison of the clinical and pathological characteristics of ultrasound-guided biopsy for breast masses and non-mass lesions between 16-gauge spring-loaded core needle biopsy and 12-gauge spring-loaded vacuum-assisted biopsy	J Med Ultrason (2001). 2023 Apr;50(2):205-212.	Original Article
163	Nakatsutsumi, K. Endo, A. Costantini, T.W. et al.	救命救急センター	Time-saving effect of real-time ultrasound-guided cannulation for extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: A multicenter retrospective cohort study	Resuscitation. 2023 Oct;191:109927.	Original Article
164	Morishita, K. Coimbra, R. Ito, K. et al.	救命救急センター	The American Association for the Surgery of Trauma-European Society of Trauma and Emergency Surgery Emergency Surgery Course: Initial experience in Japan	J Trauma Acute Care Surg. 2023 Aug 1;95(2):e3-e5.	Original Article
165	Takayama, W. Endo, A. Morishita, K. et al.	救命救急センター	Manual Chest Compression versus Automated Chest Compression Device during Day-Time and Night-Time Resuscitation Following Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Retrospective Historical Control Study	J Pers Med. 2023 Jul 28;13(8):1202.	Original Article
166	Suekane, A. Takayama, W. Hashimoto, R. et al.	救命救急センター	Risk factors for recurrence of suicide attempt via overdose: A prospective observational study	Am J Emerg Med. 2024 Jan;75:1-6.	Original Article
167	Nakatsutsumi, K. Endo, A. Asano, H.	救命救急センター	Prophylactic effect of negative-pressure wound therapy and delayed sutures against incisional-surgical site infection after emergency laparotomy for colorectal perforation: A multicenter retrospective cohort study	Ann Gastroenterol Surg. 2023 May; 7(3): 441-449.	Original Article
168	Motohashi, M. Funauchi, Y. Adachi, T. et al.	整形外科	A New Deep Learning Algorithm for Detecting Spinal Metastases on Computed Tomography Images	Spine (Phila Pa 1976). 2024 Mar 15;49(6):390-397.	Original Article
169	Yasui, S. Honda, T. Onishi, I. et al.	呼吸器内科	Effective Treatment of Lung Adenocarcinoma With a Novel SLC44A1-BRAF Fusion Using Pembrolizumab Followed by Trametinib: A Case Report.	Cureus. 2024 Feb 23;16(2):e54739	Case Report
170	Kumaki Y, Oda G, Ikeda S.	乳腺外科	Targeting MET Amplification: Opportunities and Obstacles in Therapeutic Approaches.	Cancers (Basel). 2023 Sep 14;15(18):4552.	Review

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
171	Komagamine,Y. Kanazawa, M. Miyayasu, A. et al.	義歯科(高齢者歯科)	The effect of single-implant overdentures on cognitive function in older adults: A 3-year follow-up report	J Dent. 2023 Sep;136:104632	Original Article
172	Komagamine, Y. Minakuchi, S. Kanazawa, M.	義歯科(高齢者歯科)	Does oral rehabilitation improve masticatory performance, food intake and quality of life in a super-aged society?	Geriatr Gerontol Int. 2024 Mar;24 Suppl 1:410-412	Original Article
173	Komagamine,Y. Suzuki, H. Iwaki,M. et al.	義歯科(高齢者歯科)	Effect of New Complete Dentures and Simple Dietary Advice on Cognitive Screening Test among Edentulous Older Adults: A Randomized Controlled Trial	J Clin Med. 2023 Jul 16;12(14):4709	Original Article
174	Shimizu,K.Suzuki,H. Isoyama,N.et al.	義歯科(高齢者歯科)	Influence of wearing complete dentures on control of head position during walking in edentulous older adults	J Oral Rehabil. 2023 Oct;50(10):1012-1019	Original Article
175	Ueda,K.Inokoshi, M. Kubota,K. et al.	義歯科(高齢者歯科)	Factors influencing postoperative bleeding after dental extraction in older adult patients receiving anticoagulation therapy	Clin Oral Investig. 2023 Dec 26;28(1):22.	Original Article
176	Okada, M. Hama,Y. Futatsuya,R. et al.	義歯科(高齢者歯科)	Association between Masticatory Performance, Nutritional Intake, and Frailty in Japanese Older Adults	Nutrients. 2023 Dec 12;15(24):5075.	Original Article
177	Methawit ,P. Uezono, M.Ogasawara ,T. et al.	矯正歯科	Cortical bone microdamage affects primary stability of orthodontic miniscrew	J World Fed Orthod. 2023 Oct;12(5):229-236.	Original Article
178	Myo,AC. Kobayashi,Y. Niki,Y.et al.	矯正歯科	Exosome-mediated small interfering RNA delivery inhibits aberrant osteoblast differentiation in Apert syndrome model mice	Arch Oral Biol. 2023 Sep;153:105753.	Original Article
179	Sritara,S. Matsumoto,Y. Lou,Y. et.al.	矯正歯科	Association between the Temporomandibular Joint Morphology and Chewing Pattern	Diagnostics (Basel). 2023 Jun 26;13(13):2177	Original Article
180	Zhao,L. Matsumoto,Y. Iseki S. et al.	矯正歯科	Effects of short-term orthodontic force application on the root at different developmental stages in rat maxillary molars	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2023 Apr;163(4):531-539.e2.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
181	Misawa-Omori, E. Okihara,H. Ogawa,T. et al.	矯正歯科	Reduced mastication during growth inhibits cognitive function by affecting trigeminal ganglia and modulating Wnt signaling pathway and ARHGAP33 molecular transmission	Neuropeptides. 2023 Dec:102:102370.	Original Article
182	Li,R. Kato,C. Fujita,A. et al.	矯正歯科	Effect of Obesity on Masticatory Muscle Activity and Rhythmic Jaw Movements Evoked by Electrical Stimulation of Different Cortical Masticatory Areas	J Clin Med. 2023 Jun 5;12(11):3856	Original Article
183	Mikami, N. Yonemitsu,I. Takemura H. et al.	矯正歯科	Mechanical analysis of the improved superelastic Ni-Ti alloy wire using the orthodontic simulator with high-precision sensors	J Mech Behav Biomed Mater. 2023 Jun:142:105861	Original Article
184	Sun,W. Okihara,H. Ogawa,T. et al.	矯正歯科	Pre-Adolescent Diet Normalization Restores Cognitive Function in Young Mice	J Clin Med. 2023 May 24;12(11):3642	Original Article
185	Lou, Y. Matsumoto, Y. Iseki,S. et al.	矯正歯科	Difference in apical resorption activity during rat molar root formation in response to mechanical force	Eur J Orthod. 2023 Apr;45(2):208-216	Original Article
186	Ishihara, S. Usumi-Fujita,R. Kasahara,Y. et al.	矯正歯科	Correction to: Periostin splice variants affect craniofacial growth by influencing chondrocyte hypertrophy	J Bone Miner Metab. 2023 Nov;41(6):904.	Original Article
187	Serirukchutarungsee,S. Watari,I. Narukawa,M. et al.	矯正歯科	Two-generation exposure to a high-fat diet induces the change of salty taste preference in rat.	Sci Rep.2023 Apr 7;13(1):5742.	Original Article
188	Koecklin,KHU. Kato,C. Abe,Y. et al.	矯正歯科	Histological and contractile changes in the genioglossus muscle after nasal obstruction in growing rats.	Sci Rep. 2023 Apr 17;13(1):6245.	Original Article
189	Ono,T.	矯正歯科	Pediatric obstructive sleep apnea: Insights and current research.	Sem Orthod 2023 June; 29(2):204-206.	Review
190	Guan,H. Yonemitsu,I. Ikeda,Y. et al.	矯正歯科	Reversible effects of functional mandibular lateral shift on masticatory muscles in growing rats.	Biomedicines. 2023 Jul 27;11(8):2126.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
191	Toyama, N. Ono, T. Ono, T. et al.	矯正歯科	The interleukin-6 signal regulates orthodontic tooth movement and pain.	Biochem Biophys Res Commun. 2023 Dec 3;684:149068.	Original Article
192	Takada, A. Asano, T. Nakahama, K. et al.	矯正歯科	Development of an optogenetics tool, Opto-RANK, for control of osteoclast differentiation using blue light.	Sci Rep. 2024 Jan 19;14(1):1749.	Original Article
193	Fujita, K. Hirota, M. Usumi-Fujita, R. et al.	矯正歯科	Mandibular autorotation revisited: A retrospective study of accuracy and stability of maxillary impaction in retrognathic patients with condylar osteoarthritis.	J Craniomaxillofac Surg 2024 Feb ;52(2):165-169.	Original Article
194	Rintanalert, D. Ishida, Y. Huang, A. C. et al.	矯正歯科	SDF-1 involvement in orthodontic tooth movement after tooth extraction.	Sci Rep. 2024 Feb 29;14(1):5048.	Original Article
195	Alsulaili, A. Serirukchutarungsee, S. Ono, T.	矯正歯科	Two-generation exposure to a high-diet alters duct cells morphology and induces the connexin 32 and 43 expression in rat submandibular salivary glands. □	J Stomatol Soc Jpn 2024 Mar 31;91(1):19-28.	Original Article
196	Sangsuriyothai, P. Watari, I. Serirukchutarungsee, S. et al.	矯正歯科	Expression of glucagon-like peptide-1 and glucose-dependent insulinotropic polypeptide in the rat submandibular gland is influenced by pre- and post-natal high-fat diet exposure.	Front Physiol. 2024 Mar 26;15:135773	Original Article
197	Wada, J. Wada, K. Garoushi, S. et al.	義歯科	Effect of 3D printing system and post-curing atmosphere on micro- and nano-wear of additive-manufactured occlusal splint materials	J Mech Behav Biomed Mater. 2023 Jun;142:105799.	Original Article
198	Wada, J. Wada, K. Uctasli, S. et al.	義歯科	Effect of splinting material type and location on resistance against deflection force of splinted periodontally compromised teeth with hypermobility	J Mech Behav Biomed Mater. 2023 Jun;142:105873.	Original Article
199	Wada, J. Heponiemi, P. Wada, K. et al.	義歯科	Effect of ethylene oxide unit number in bis-EMA on the physical properties of additive-manufactured occlusal splint material	J Prosthodont Res. 2024 Jan (オンライン)	Original Article
200	Hiraishi, N. Gondo, T. Shimada, Y. et al.	むし歯科	Effect of borate, fluoride and strontium ions on biomimetic nucleation of calcium phosphate studied using solid-state nuclear magnetic resonance and X-ray diffraction	Dent Mater. 2024 Feb;40(2):210-218.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
201	Akabane, K. Hiraishi, N. Shimojima, M. et al.	むし歯科	The bleaching effect of office bleaching agents containing S-PRG filler evaluated by pH value and electron spin resonance	Clin Oral Investig. 2023 Jul;27(7):4051-4059.	Original Article
202	Shimojima, M. Hiraishi, N. Akabane, K. et al.	むし歯科	Effect of an In-Office Bleaching Agent with Surface Pre-Reacted Glass-Ionomer Filler on the Enamel Surface: A In-Vitro Study	J Funct Biomater. 2023 Jul 21;14(7):386.	Original Article
203	Wei, D. Nakamoto, A. Hiraishi, N. et al.	むし歯科	Effect of Er: YAG laser irradiation with additional low energy on resin-dentin bonding and morphology of bonded interface	J Mech Behav Biomed Mater. 2023 Apr;140:105692.	Original Article
204	Inoue, G. Shimada, Y.	むし歯科	Effect of F:Ca:P ratio on fluoride deposition by fluoride-calcium-phosphate complex	Asian Pacific Journal of Dentistry 2023 Apr;23 (1) :5-8	Original Article
205	ThanNaing, S. Hiraishi, N. Chen, X. et al.	むし歯科	In vitro remineralization assessment of enamel subsurface lesions using different percentages of surface reaction-type pre-reacted glass-ionomer containing gum-based material	J Dent. 2023 Aug;135:104602	Original Article
206	Yang, Y. Inoue, G. Hosaka, K. et al.	むし歯科	The Effect of a Deproteinizing Pretreatment on the Bonding Performance and Acid Resistance of a Two-step Self-etch Adhesive on Eroded Dentin	Oper Dent. 2024 Jan 1;49(1):65-75.	Original Article
207	Sato, T. Tabata, T. Akabane, K. et al.	むし歯科	Noninvasive diagnostic method using optical coherence tomography detected a vulnerable dentin enamel junction created by phosphoric acid etching.	Dental Materials Journal. 2023. Aug; 42 (4): 552-558.	Original Article
208	Chen X, Inoue G, Ikeda M, et al.	むし歯科	Time-dependent structural changes and hypermineralisation of artificially demineralised dentine following treatment with silver diammine fluoride and glass ionomer cement	J Dent 2023 Apr;131:104452.	Original Article
209	Mikami, R. Mizutani, K. Gohda, T. et al.	歯周病科	Malnutrition-inflammation-atherosclerosis (MIA) syndrome associates with periodontitis in end-stage renal disease patients undergoing hemodialysis: a cross-sectional study	Sci Rep. 2023 Jul 21;13(1):11805	Original Article
210	Takeuchi, Y. Aoki, A. Hiratsuka, K. et al.	歯周病科	Application of Different Wavelengths of LED Lights in Antimicrobial Photodynamic Therapy for the Treatment of Periodontal Disease	Antibiotics (Basel). 2023 Nov 28;12(12):1676.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
211	Toyoshima ,K. Ohsugi,Y. Lin,P. et al.	歯周病科	Blue Light-Emitting Diode Irradiation Without a Photosensitizer Alters Oral Microbiome Composition of Ligature-Induced Periodontitis in Mice	Photobiomodul Photomed Laser Surg. 2023 Oct;41(10):549-559	Original Article
212	Takeda,K.Mizutani,K.Mikami, R. et al.	歯周病科	Morphological analysis of the impact of diabetes on gingival capillaries with non-invasive blood flow scope - A preliminary study	J Dent Sci. 2023 Jul;18(3):1134-1140.	Original Article
213	Lin,P. Niimi,H. Hirota, T. et al.	歯周病科	Effects of low-level Er:YAG laser irradiation on proliferation and gene expression in primary gingival fibroblasts isolated from mouse maxilla	J Biophotonics. 2024 Feb;17(2):e202300166.	Original Article
214	Yagasaki, L.Chiba, T. Kurimoto,R. et al.	歯周病科	The essential role of Mxk in periodontal ligament on the metabolism of alveolar bone and cementum	Regen Ther. 2023 Dec 29;25:186-193	Original Article
215	Ikeda, Y. Chigasaki, O. Mizutani, K.et al.	歯周病科	The Potential of a Saliva Test for Screening of Alveolar Bone Resorption	Healthcare (Basel). 2023 Jun 21;11(13):1822.	Original Article
216	Hayashi, S. Takeuchi,Y.Hiratsuka, K. et al.	歯周病科	Effects of various light-emitting diode wavelengths on periodontopathic bacteria and gingival fibroblasts: An in vitro study	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2023 Dec;44:103860.	Original Article
217	Aoki, A. Mizutani,K. Mikami,R. et al.	歯周病科	Er:YAG laser-assisted comprehensive periodontal pocket therapy for residual periodontal pocket treatment: A randomized controlled clinical trial	J Periodontol. 2023 Oct;94(10):1187-1199.	Original Article
218	Shiba,T. Komatsu, K. Takeuchi, Y. et al.	歯周病科	Novel Flowchart Guiding the Non-Surgical and Surgical Management of Peri-Implant Complications: A Narrative Review.	Bioengineering (Basel). 2024 Jan 25;11(2):118.	Original Article
219	Liu,A. Hayashi,M. Ohsugi ,Y. et al.	歯周病科	The IL-33/ST2 axis is protective against acute inflammation during the course of periodontitis.	Nat Commun. 2024 Mar 28;15(1):2707	Original Article
220	Taniguchi,Y. Koyanagi,T. Takagi, T. et al.	歯周病科	Ridge Preservation and Augmentation Using a Carbonated Apatite Bone Graft Substitute: A Case Series.	Dent J (Basel). 2024 Feb 28;12(3):55.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
221	Hirasawa, I. Odagiri, H. Park, G. et al.	歯周病科	Anti-inflammatory effects of cold atmospheric plasma irradiation on the THP-1 human acute monocytic leukemia cell line.	PLoS One. 2023 Oct 18;18(10):e0292267	Original Article
222	Fukuba, S. Ogawa, Y. Strauss, FJ. Et al.	歯周病科	The Apical Tooth Replantation with Surgical Intrusion Technique (ATR-SIT) for Regenerative Treatment of Hopeless Teeth: A Report of Two Cases.	Int J Periodontics Restorative Dent. 2024 Jan 10;0(0):1-27.	Case Report
223	Aoki, A. Mizutani, K. Taniguchi, Y. et al.	歯周病科	Current status of Er:YAG laser in periodontal surgery.	Jpn Dent Sci Rev. 2023 Dec (オンライン)	Review
224	Matsuura, T. Mikami, R. Mizutani, K. et al.	歯周病科	Assessment of bone defect morphology for the adjunctive use of bone grafting combined with enamel matrix derivative: A 3-year cohort study.	J Periodontol. 2023 Nov (オンライン)	Original Article
225	Lin, P. Liu, A. Tsuchiya, Y. et al.	歯周病科	Association between periodontal disease and chronic obstructive pulmonary disease.	Jpn Dent Sci Rev. 2023 Dec;59:389-402.	Review
226	Takemura, S. Mizutani, K. Mikami, R. et al.	歯周病科	Enhanced periodontal tissue healing via vascular endothelial growth factor expression following low-level erbium-doped: yttrium, aluminum, and garnet laser irradiation: In vitro and in vivo studies.	J Periodontol. 2023 Nov (オンライン)	Original Article
227	Terasawa, K. Seike, T. Sakamoto, K. et al.	歯周病科	Site-specific photo-crosslinking/cleavage for protein-protein interface identification reveals oligomeric assembly of lysosomal-associated membrane protein type 2A in mammalian cells.	Protein Sci. 2023 Dec;32(12):e4823.	Original Article
228	Katagiri S, Ohsugi Y, Shiba T et al.	歯周病科	Homemade blenderized tube feeding improves gut microbiome communities in children with enteral nutrition.	Front Microbiol. 2023 Aug 23;14:1215236.	Original Article
229	Fukuba S, Okada M, Iwata T.	歯周病科	Clinical outcomes of periodontal regenerative therapy with carbonate apatite granules for treatments of intrabony defects, Class II and Class III furcation involvements: A 9-month prospective pilot clinical study.	Regen Ther. 2023 Aug 28;24:343-350	Original Article
230	Shiba, T. Komatsu, K. Watanabe, T. et al.	歯周病科	Peri-implantitis management by resective surgery combined with implantoplasty and Er:YAG laser irradiation, accompanied by free gingival graft: a case report.	Ther Adv Chronic Dis. 2023 Jun 6;14:20406223231174816	Case Report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
231	Masuda,H. Arisaka, Y. Hakariya, M. et al.	口腔外科	Molecular Mobility of Polyrotaxane Surfaces Alleviates Oxidative Stress-Induced Senescence in Mesenchymal Stem Cells	Macromol Biosci. 2023 May;23(5):e2300053.	Original Article
232	Asano S, Yamamoto H, Maeda S.	歯科麻酔科	Factors Affecting Intraoperative Blood Loss in Orthognathic Surgery: A Monocentric Retrospective Study	J Stomatol Soc Jpn 2024.01;91(1):29-34	Original Article
233	Wakita R, Baba Y, Fukayama H, et al.	歯科麻酔科	Factors associated with transient bradycardia during local anesthesia administration to the oral cavity under intravenous sedation: A retrospective cohort study.	J Dental Science 2023 Aug ;19(2): 878-884	Original Article
234	Maeda,C. Nagamine,T.Takao,C. et al.	歯科心身医療科	Are the Effects of Amitriptyline and Aripiprazole on Pain Catastrophizing in Patients with Burning Mouth Syndrome Associated with Changes in QTc and Prolactin Levels?	International Medical Journal 2023 Aug; 30(4) :178 -182	Original Article
235	Watanabe, M. Tominaga ,R . Toyofuku, A. et al.	歯科心身医療科	Pandemic OPSD woes	Br Dent J. 2023 Dec;235(12):914.	Original Article
236	Asami, M. Kimura, Y. Takenoshita, M. et al.	歯科心身医療科	Dental conditions in patients with medically unexplained oral symptoms	J Dent Sci. 2023 Oct;18(4):1699-1705	Original Article
237	Watanabe, M.Tu, T. Nagamine,T. et al.	歯科心身医療科	Goal Attainment Scaling in Patients With Burning Mouth Syndrome: A Real-World Clinical Study Protocol	Cureus. 2024 Feb 18;16(2):e54392.	Original Article
238	Moritoyo,R. Nakagawa,K. Yoshimi,K. et al.	摂食嚥下リハビリテーション科	Relationship between the jaw-closing force and dietary form in older adults without occlusal support requiring nursing care	Sci Rep. 2023 Dec 18;13(1):22551 (オンライン).	Original Article
239	Yamada,T.Yamaguchi,K. Horike,A. et al.	摂食嚥下リハビリテーション科	Development and evaluation of a new intraoral voice assist device called the voice retriever	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2024 Jan 30;9(1):e1204 (オンライン)	Original Article
240	Tamai,T. Yoshimi,K. Nakagawa,K. et al.	摂食嚥下リハビリテーション科	Usefulness of a newly developed endoscope for the observation of the posterior tracheal wall	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2023 Jun 28;8(4):963-969 (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
241	Yoshida,S. Yamaguchi,K. Taniguchi,Y. et al.	摂食嚥下リハビリテーション科	Design of palatal and lingual augmentation prostheses by using an intraoral scanner for a patient after a glossectomy: A clinical report	J Prosthet Dent. 2023 Aug;130(2):267-270.	Case Report
242	Kuribayashi,A.Kawashima,S. Kayamori,K et al.	歯科放射線科	Magnetic resonance imaging of methotrexate-related lymphoproliferative disorder with a chief complaint of oral symptoms	Oral Radiol. 2023 Apr;39(2):235-241	Original Article
243	Ali,IE. Hattori,M. Sumita, YI,et al.	義歯科(顎顔面補綴外来)	Effect of cut-out rescan procedures on the accuracy of an intraoral scanner used for digitizing an ear model: An in vitro study	J Prosthodont. 2023 Jul;32(6):527-533	Original Article
244	Chugh,A. Hattori,M. Towithelertkul,C. et al.	義歯科(顎顔面補綴外来)	Evaluation of the color stability of three maxillofacial silicone materials after exposure to beverages: An in vitro study	Heliyon. 2024 Jan 30;10(4):e25529	Original Article
245	Yu,H. Fujita,H. Akiyama,M. et al.	義歯科(顎顔面補綴外来)	Prevalence of Possible Dementia in Patients with Maxillofacial Defects and Difficulty of Inserting Obturator in Maxillectomy Patients: Toward Better Provision of Supportive Care	J Clin Med. 2023 Apr 5;12(7):2722	Original Article
246	Bai,Z. Hattori,M. Sumita,YI et al.	義歯科(顎顔面補綴外来)	Case report of a patient with mandibulectomy followed up for 11 years	J Oral Sci. 2024 Jan 16;66(1):88-90	Case Report

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

合計246件

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	滝川 正晃, 合屋 雅彦, 池ノ内 孝, 他・	循環器内科	オムニポーラー技術に基づくActivation Vector機能を利用し,リアルタイムに線状焼灼の作成を評価し得た1例	心電図. 2023.04;43(1): 36-43	Case report
2	勝又 理沙, 金子 俊, 小林 正典, 他,	消化器内科	経口胆道鏡にて診断しえた再発肝細胞癌の1例	日本消化器内視鏡学会雑誌.2023.12;65(12): 2413-2420	Case report
3	金兼弘和, 友政弾, 谷田けい	小児科	Monogenic IBDに対する造血細胞移植	臨床血液.2023.09;64(9):1213-1221	Review
4	金兼弘和	小児科	原発性免疫不全症の最新知見	小児感染免疫.2023.08;35(3):246-257	Review
5	金兼弘和	小児科	【実地診療における免疫学のトピックとそのアプローチ】成人における先天性免疫不全症の診療	臨床血液.2023.08;64(8):772-781	Review
6	花岡まりえ, 絹笠祐介	大腸・肛門外科	骨盤外科の解剖用語の違いを理解する 外科領域におけるロボット支援下骨盤リンパ節郭清	日本婦人科腫瘍学会雑誌.2023.04; 41(2):161-167	Original Article
7	稲次 基希, タンマモングッド・ティプアーパー, 原 祥子,他	脳神経外科	椎骨脳底動脈病変を合併した小児もやもや病の3症例	小児の脳神経.2023.04;48(2):213	Case report
8	金岡 杏純, 田中 洋次, 阿部 大数,他	脳神経外科	動脈貫通三叉神経痛の診断におけるMRIの有用性	CI研究.2023.09;45(2):51-57	Original Article
9	平井 高志, 吉井 俊貴, 大川 淳,他	整形外科	【脊椎脊髄領域の画像診断-最新の知識と進歩】成人の脊椎脊髄疾患の画像診断 全脊柱CTを用いた脊柱靭帯骨化巣局在パターンの評価	整形・災害外科.2023.04;66(5):559-566	Original Article
10	飯田 忠恒, 小笹 静佳, 和田 昇悟,他	皮膚科	アナフィラキシーに至るコリン性蕁麻疹を合併した特発性後天性全身性無汗症の1例	皮膚科の臨床.2023.12;65(13):2062-2065	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	小西 里沙, 沖山 奈緒子	皮膚科	【新しい検査,慣れない検査Q&A】(Part1)アレルギー (Question8) 皮膚筋炎の自己抗体の臨床的意義を教えてください	Visual Dermatology.2024.02;23(3):231- 232	Review
12	小西 里沙, 沖山 奈緒子	皮膚科	【皮膚疾患のバイオマーカー】膠原病のバイオマーカー	皮膚科.2023.05;3(5):540-545	Review
13	沖山 奈緒子	皮膚科	新・皮膚科セミナー 診断力を磨こう 診断困難例の診断プロセスに学ぶ 診断困難な膠原病?膠原病は診断困難!	日本皮膚科学会雑 誌.2023.05;133(6):1465-1470	Review
14	沖山 奈緒子	皮膚科	膠原病:最近の進歩と臨床への還元 皮膚筋炎の自己抗体別トピックス	日本臨床皮膚科医会雑 誌.2024.01;41(1):021-024	Review
15	井上牧子, 植村法子, 田中顕太郎,他	形成・美容外科	内胸血管を用いた遊離腹部皮弁再建例における第3肋軟骨下での内胸静脈径・本数・吻合形態の検討	Oncoplastic Breast Surgery.2023.12; 8(4):114-120	Original Article
16	酒井朋子,星野ちさと,平尾昌之.	リハビリテーション部	COVID-19患者のリハビリテーション診療.	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine.2023.05;60(5)423-429	Original Article
17	井上 剛 ,水谷 幸嗣 ,三上 理沙子, 他	むし歯科	歯肉のメラニン沈着の審美治療として Er:YAG レーザーをマイクロサージェリーで応用した長期経過	日本歯科保存学会 誌.2023.04;66(2):147-153	Original Article
18	井村紘子,山崎陽子,坂元麻弥,他	歯科ペインクリニック	下顎智歯抜歯後の舌神経麻痺に対する治療の一例	日本口腔顔面痛学会雑 誌.2024.03;16(1):65-69	Case report
19	木村 康之, 富永 梨沙, 前田 智寿古 他	歯科心身医療科	3種の薬物内服下で自己客観視が治療上の転機となったうつ病合併舌痛症の一例	日本歯科心身医学会雑 誌.2023.12;38(1-2): 43-46	Case report
20	前田 智寿古, 渡邊 素子, 高尾 千紘 他	歯科心身医療科	精神科医との密な医療連携が奏功した舌痛症の1例	日本歯科心身医学会雑 誌.2023.12;38(1-2):34-38	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	高尾 千紘, 竹之下 美穂, 渡邊 素子 他	歯科心身医療科	少量のFluvoxamineと外来面接が奏効した,思春期口臭恐怖症の1例	日本歯科心身医学会雑誌.2023.12;38(1-2): 26-33	Case report
22	富永 梨沙, 渡邊 素子, 高尾 千紘 他	歯科心身医療科	年齢別に見た歯科心身医療科受診患者の臨床統計的検討 高齢患者の口腔マネジメント	未病と抗老化.2023.11;32:45-48	Original Article

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

合計22件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容:研究者等の責務、研究計画書に関する手続・記載事項、研究に関する登録・公表、インフォームド・コンセントを受ける手続等、倫理審査委員会の要件等、利益相反の管理、研究に係る試料及び情報等の保管、モニタリング及び監査	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象、マネジメントの概要、手続等（書類の記入方法等）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年14回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容：研究不正の防止、広報規則の遵守、臨床研究法と倫理指針、利益相反管理について（2023年度よりe-learningのみで開講している。研究者は随時受講が可能。）	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

○内科専門研修プログラム

1) 本学内科専門研修プログラム（以下、本研修プログラム）は、当院を基幹施設として、茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県・東京都内近隣医療圏にある連携施設および特別連携施設で内科専門研修を行います。東京都にとどまらず、他県の各医療圏で研修を積むことにより、都心や各地域を理解した医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は、内科領域Subspecialty専門医への道を歩む場合と高度な総合内科のGeneralityを獲得する場合、もしくは内科系集中治療医を目指す場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医を育成します。

2) 初期臨床研修を修了した医師は、本研修プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1年以上+連携施設および特別連携施設1年以上）で、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、「研修カリキュラム（項目表）」に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

○小児科専攻医研修プログラム

本学小児科専攻医後期研修プログラムは、「最高レベルの一般診療と最先端の専門医療の提供」をモットーに、小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成することを目的とします。また「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるべく、一定の専門領域に偏ることのない幅広い研修を提供し、上記の社会的要望に応えられるような優れた小児科医の育成を目指します。

○皮膚科研修プログラム

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

○精神科専門医研修プログラム

精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

基幹病院となる当院精神科は、41床の開放病棟であり、急性期の精神病状態の患者の対応は限定されるものの、十分な指導体制のもとに、生理学的検査・心理検査実施による診断や治療に対する詳細な検討、電気けいれん療法、身体合併症診療、リエゾン診療、デイケア活動や小集団精神療法への参加などの全般的な研修が可能である。また、司法精神医学、児童精神医学、老年精神医学に関しては、専門の研修体制を整備しており、全般的な研修に加えて、柔軟に取り入れることができる。

また、連携施設には、首都圏の総合病院を中心に、民間の精神科病院も複数擁している。それぞれ特色のある病院であり、希望に応じて柔軟な研修体制を選択することが出来る。

○外科専門研修プログラム

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準

的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること

4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること

5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）、またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

○整形外科専門研修プログラム

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹病院および協力病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得するプロセスで研修を行います。

また本学整形外科集談会への参加（年2回）および同会での研究発表（3年目まで年1回）、外部の学会での発表（年1回以上）と論文執筆（研修期間中1編以上）を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

○産婦人科研修プログラム

当研修プログラムでは、産婦人科医としての基本的な診療技術、幅広い知識の習得を超えて、婦人科腫瘍、周産期、女性医学、生殖医療、内視鏡手術などの専門的かつ高度な研修が可能です。さらに連携施設での研修により、地域医療で求められる幅広い知識・技能をも習得することが可能です。

研修終了後は東京都下のみならず、地域医療の担い手として都外も含めた多様な施設で就業できます。さらに後期研修後には、大学院への進学や各種サブスペシャリティ領域の研修を開始する準備も整っており、継続的にスキル・キャリアアップできます。

○眼科専門研修プログラム

当院では、幅広い分野の紹介患者があり、眼科全領域の疾患が経験できる。しかも各専門分野において、専門性の高い医療を提供しているため最先端の診断治療を学び、経験できる。また希少症例も経験することができる。

専攻医の研修は、眼科病棟、外来および手術室をローテートすることで行われる。まず各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置、手術を習得し、それぞれのプログラムの目標到達を目指す。毎週行う症例カンファレンスでは、プレゼンテーションの訓練を行う。また、月一回のspot diagnosisでは画像読影能力を高め、リサーチプロセスでは英語でのディスカッションの能力とリサーチマインドを培う。また、各分野の医師から専門分野の疾患レクチャーを医局勉強会で受ける。さらに、周産母子センター等の関連診療科と連携し未熟児診療を含めた全身疾患に伴う眼病変も学習し、他科連携も連携委員会を中心に指導を行う。また本学では、専攻医や所属医が英語文献、書籍からアップデートした知識を常に吸収できる環境への配慮にも重点を置いている。学会報告や論文作成を専門研修基幹病院在籍中に専攻医は積極的に行う。

○耳鼻咽喉科専門研修プログラム

・本学には耳鼻咽喉科と頭頸部外科が独立した教室として併存しながら、実臨床において一つの教室として機能している。これにより、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の幅広い専門分野全てにおいて、高度の医療を提供することができている。従って、どの分野においても偏り無く最新医療を研修することができる。

・本学には国内随一の歯学部があり、歯科領域の幅広い専門分野において高度な診療・研究が行われている。これら各分野と協力して診療を行うことで、顔面深部外科手術後の再建や咀嚼・嚥下診療、咬合と無呼吸の一貫した診療など、他施設では不可能な高度な診療を経験できる。

・小児科・NICU、神経内科、消化器外科、形成外科、呼吸器科など耳鼻咽喉科・頭頸部外科と関

連する各科も国内随一の高レベルの診療を行っており、これらと連携した診療が研修できる。また、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、スポーツ医学診療センター（高気圧治療部を含む）や快眠センター、長寿・健康人生推進センターなど、当科と深く関わるセンターにおいて病院全体をあげて高度な診療を行っており、極めて高いレベルの診療が研修できる。

・学内には難治疾患研究所や生体材料工学研究所など、最先端医療に関わる大規模な研究施設を有しており、これらと連携した最先端の診療が経験できる。

・多彩な連携施設を有し、それぞれに専門を生かした高いレベルの指導を行える指導医が派遣されている。他大学の附属病院に加え、都心の中核病院や地方の基幹病院、各種専門病院を多数含んでおり、大学病院での最先端の専門的診療とともに、一般的な初期診療や地方の基幹病院での救急、高齢者医療や小児医療を含む多彩な臨床経験によって、将来どのような場でも通用する幅広くかつレベルの高い医療技術を身につけることができる。

○泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム

泌尿器科専門研修プログラムは当院を基幹施設とし、15の連携施設と4つの協力施設から構成されています。本学泌尿器科研修プログラムの連携施設と協力施設は都会拠点病院、地方拠点病院、都会診療所を含み、幅広い研修が可能です。これらの中には、10がん診療拠点病院（4がんセンター含む）、8地域医療支援病院を含み、ほとんどの施設が悪性腫瘍を中心に症例の多い病院であり、これらの施設で質、量ともに十分な研修が受けられます。最先端手術として、ロボット支援手術を実施する病院が10施設、ガスレス・シングルポート・ロボサージャン手術（先端型腹腔鏡下小切開手術）を実施する病院が2施設、腹腔鏡下手術を実施する病院が8施設含まれます。また、小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャリティ領域の研修も十分に経験できます。さらに、基幹施設である当院では、充実した臨床研究や基礎研究を行うことができ、国際発表も経験できます。また、専門研修後には、大学院への進学や専門分野の研修も可能です。国際的に活躍できる泌尿器科医師を育成することを目標にしています。

○脳神経外科プログラム

脳神経外科専門研修では、初期臨床研修後4年間の研修により、脳神経外科領域の疾患に対する診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ専門的な知識と診療技能を獲得します。

本プログラムでは、4年間の研修期間で脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などの脳神経外科が扱う疾患の診断、標準的治療、基本手術手技の習得を目標とします。さらに本プログラムには20名以上の日本脳血管内治療学会専門医が在籍しており、開頭手術と並行して血管内治療を学べる体制を強化しています。その他、基幹施設においてはてんかん外科、三叉神経痛を中心とした機能的疾患の治療にも力を入れており、多彩な症例を学ぶことができます。また、脳卒中センターにおけるstrokeカンファレンスなど、さまざまな複数診療科でのカンファレンスを行っており、他診療科との連携も充実しています。連携施設や関連施設とは新御茶ノ水セミナー、血管内治療症例検討会、脳腫瘍カンファレンス、鏡視下手術研究会などを合同で開催して全体的な診療レベルの向上に努めています。専門医取得後にはハーバード大学の研究室などとの連携による海外研修にも力を入れていきます。

○放射線科専門研修プログラム

放射線科専門医の使命は、放射線科領域の専門医として、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与することにあります。

放射線科専門研修プログラム整備基準では、放射線科専門医制度の理念のもと、放射線科専門医としての使命を果たす人材育成を目的として専門研修の経験目標を定めています。本研修プログラムでは、研修施設群内における実地診療によって専門研修の経験目標を十分に達成できる研修体制の構築に努めていますが、実地診療のみでは経験が不足する一部の研修については、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及びe-learningの活用等によって、その研修を補完します。

本学放射線科専門研修プログラムは上記の整備基準に従い、放射線科領域における幅広い知識、

錬磨された技能と高い倫理性を備え、コミュニケーション能力とプロフェッショナリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医を教育します。

○麻酔科専門研修プログラム

本研修プログラムでは、多様な手術を施行する総合病院的な研修施設に加えて、小児麻酔、産科麻酔、心臓手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、救急などの領域について、強化研修施設を組み入れるなどの形で専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医の育成をめざしている。

当院は東京都の中心に位置し、大学病院として高度な専門医療に対応するため経験豊富な専門医を有し、先進的な手術を受けた患者さんが最適なコースで回復できるような周術期管理を目指している。また、救急医療においても3次救急の受け入れを行っており、麻酔科専門医として必要な救急患者の管理を研修できる施設となっている。また、手術・麻酔を受けた患者の予後に関する研究や、様々なバイオマーカーの動態、新規医療機器に関わる臨床研究が行われ、研究活動との接点を持ちながら研修を進めることもできる。

○病理専門研修プログラム

本学では医療に関する基本理念として、『心と身体(からだ)を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていく』と掲げています。本プログラムにおいても、安定して確実な診断を行える技量を身に付け、地域基幹病院にて即戦力として活躍しうる人材を育成するとともに、教育者や研究者などへの進路にも対応できる知識と経験を積む機会も提示し、国際的に通用する人材の輩出も視野に入れた内容となっています。

○臨床検査専門研修プログラム

本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。基幹施設である当院検査部で多くの研修を行いますが、連携施設である東京都教職員互助会三楽病院臨床検査科でも研修を行うことにより、深みのある研修となるように工夫しています。

○救急科専門研修プログラム

本研修プログラムの目的は、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成することです。救急科専門医育成プログラムを修了した救急科領域の専攻医は急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めることが可能になります。また、急病や外傷で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合は初期治療から継続して、根本治療や集中治療にも中心的役割を担うことも可能です。さらに加えて地域の救急医療体制、特に消防機関・救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、また災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事を担うことも可能となります。

○形成外科研修プログラム

本プログラムでは基幹施設と連携施設の病院群で指導医のもとに研修が行なわれます。外傷、先天異常、腫瘍、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、難治性潰瘍、炎症・変性疾患、美容外科などについて研修することができます。

研修の一部には臨床系大学院を組み入れることもできます。また、Subspecialty領域専門医の研修準備をすることもできるよう配慮しています。更に、医師としての幅が広げられるよう、臨床現場から見つけ出した題材の研究手法、論理的な考察、統計学的な評価、論文にまとめ発表する能力の育成を行います。専門研修プログラム修了後には専門知識と診療技術を習得し、他の診療科とのチーム医療を実践できる能力を備えるとともに社会性と高い倫理性を持った形成外科専門医となります。

○リハビリテーション科専門研修プログラム

本プログラムは、将来の日本のリハビリテーション医療を支え、新たな専門医の育成を行う指導的

なりリハビリテーション専門医を育てる教育システムを構築しています。またリハビリテーション領域の研究の発展のために基礎的な知識、方法を身に付け、研究を専門医取得後も継続して行なうことのできる医師を育てることを目標としています。

基幹研修施設である当院は様々な高度医療を実施しています。その中でリハビリテーション部門は中央診療部門として年間1800名以上の患者のリハビリテーション医療に携わっています。疾患の内容は急性期疾患、整形外科術後、神経難病など多岐にわたり、研修中に多くの症例を経験することができます。一方、大学病院では様々な研究も行っており、臨床と同時に研究を行うことも可能です。リハビリテーション部門では、リハビリテーション医学分野として博士課程大学院生の教育も行っており、研修中にテーマを見つけた場合、さらに大学院に進学し、博士の学位取得を目指し研究を行うことも可能です。

○総合診療専門研修プログラム

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができる。そのために、規模としては中小規模病院・診療所・大学病院等、立地としては市中・郊外・遠隔地といった様々なセッティングの医療施設を用意している。

専攻医の選択での研修も充実している。

様々なセッティングの医療施設で、総合診療医としての核となる臨床能力や、専門医として必要なその他の臨床能力、手技を含めた多様な希望に応じた研修が可能である。あらゆる場面やニーズに総合診療医として対応できる能力習得を目標とする。

とくに、本学に茨城県や長野県からの地域卒業生のために、茨城県や長野県の医師不足地域に立地している医療機関にても研修できるようになっている。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	511人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮崎 泰成	呼吸器内科	診療科長	34年	
金兼 弘和	小児科	寄附講座教授	38年	
沖山 奈緒子	皮膚科	診療科長	25年	
高橋 英彦	精神科	診療科長	27年	
絹笠 祐介	大腸・肛門外科	診療科長	26年	
吉井 俊貴	整形外科	診療科長	25年	
宮坂 尚幸	周産・女性診療科	診療科長	35年	
大野 京子	眼科	診療科長	37年	
堤 剛	耳鼻咽喉科	診療科長	32年	
藤井 靖久	泌尿器科	診療科長	36年	
前原 健寿	脳神経外科	診療科長	39年	
立石 宇貴秀	放射線診断科	診療科長	29年	
内田 篤治郎	麻酔・蘇生・ハイ ンクリニック科	診療科長	34年	
倉田 盛人	病理部	副部長	21年	
東田 修二	検査部	部長	40年	
森下 幸治	救命救急センタ	センター長	25年	

	ー			
森 弘樹	形成・美容外科	診療科長	31年	
酒井 朋子	リハビリテーション部	部長	35年	
橋本 正良	総合診療科	診療科長	37年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：ジェネラリストラダー制度のラダーレベル I～V の研修において、高度な知識・技術習得のための研修を実施した。・研修の期間・実施回数：2023年4月7日～2024年2月29日・研修の参加人数：1029人（延べ）
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 情報セキュリティ・個人情報保護講習会・研修の期間・実施回数 2023年12月15日～2024年3月31日・研修の参加人数 1,810名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 藤井 靖久
管理担当者氏名	(総務課長) 田中 功一 (管理課長) 渡邊 剛志 (労務課長) 佐藤 奈生 (医事一課長) 磯部 敦志 (医事二課長) 岩瀬 英一 (医療支援課長) 上村 七奈 (医療品質管理課長) 三好 直子

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課総務係
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部、中央電算室
		手術記録	中央電算室、病歴管理室
		看護記録	中央電算室、病歴管理室
		検査所見記録	中央電算室、病歴管理室
		エックス線写真	
		紹介状	中央電算室、病歴管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央電算室、病歴管理室
		従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事企画課・人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医療支援課企画係
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課臨床研究監視係
		高度の医療の研修の実績	労務課医師研修係
		閲覧実績	総務課総務係
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事一課医事係 医事二課医事係
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事一課医事係、 医事二課医事係、薬剤部		

電子化されているものは中央電算室で、紙媒体のものは病歴管理室で一括管理している。

病院外への診療情報の持ち出しは、診療情報提供、診療報酬請求等の特定の用途に制限している。やむを得ない事情により持ち出す場合には病院長の許可が必要となる。

【総務部人事企画課・人事労務課】
本学の人事システムで一括管理を行っている。

【医療支援課企画係】
ネットワーク上のファイルサーバー及びファイルにより保管管理している。

【総務課臨床研究監視係】
電子化されている諸記録は、ネットワーク上のファイルにより保管管理している。

【労務課医師研修係】
紙媒体及び電子媒体で管理している。

【総務課総務係】
文書にて保管し、年度毎にまとめている。(閲覧実績なし)

				<p>【医事一課、医事二課】 〔紹介患者に対する医療提供の実績〕 諸記録は、上記診療に関する諸記録と同じ。紹介患者数は、医事一課・医事二課で電子データ管理。 〔入院患者数、外来患者数〕 医事一課・医事二課で電子データ管理。</p>
<p>規則 に掲げる 事項 第十一 第一</p>	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	<p>【医療安全管理部、感染制御部】 電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。</p>	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	【医療安全管理部、感染制御部】 電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。
	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事一課 診療報酬対策室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課 患者サービス係
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務秘書課総務係
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	総務課総務係		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課総務係		
			<p>【医療安全管理部、感染制御部】 電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。</p> <p>【医事一課診療報酬対策室】 電子データで保存。</p> <p>【医療支援課患者サービス係】 電子入力し、パスワード管理している。</p> <p>【総務秘書課総務係】 専用電話、専用メールアドレス、投書箱を設置しています。</p> <p>【総務課総務係】 病院規則に管理者が有する権限を明記</p> <p>【監査室】 電子媒体情報にて、監査室で管理している。</p> <p>【総務課総務係】 役員会の運営に関する申し合わせの審議事項に明記。</p>

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	(事務部長)秋葉 泰樹
閲覧担当者氏名	(総務課長)田中 功一
閲覧の求めに応じる場所	・病院特別会議室
閲覧の手続の概要 閲覧の希望する者は、閲覧責任者の許可を得て閲覧することができる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>○インフォームド・コンセントを徹底した患者本位の全人的医療、安全な医療の提供を行う。</p> <p>○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する。</p> <p>○医療における基本の徹底と質の向上を図る。</p> <p>○上記の目的を実施するため、次の機構を組織する。</p> <p>（１）医療安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。</p> <p>（２）リスクマネージャー会議…各診療科、中央診療部門の中核となる実務者で構成し、日常における安全管理レポート等から事故の検証と再発防止につとめる。</p> <p>（３）医療安全管理部…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関するマニュアルの追加並びに指導を行う。</p> <p>○患者からの相談に対応するため、院内に患者相談室を置き、必要に応じ、関連部署との連絡調整を行い、相談内容を適切に処理する。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有 ）</p> <p>・ 開催状況：年14回</p> <p>・ 活動の主な内容：○医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。</p> <p>○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討を行う。</p> <p>○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。</p> <p>○医療に係る安全管理のための委員会を設置し、重大な問題が発生した場合は速やかな原因調査、分析を行い、改善策立案、実施について院内周知を行う。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>○医療安全のさらなる推進と向上を目指して</p> <p>○医療機器の安全管理 ～医療安全管理レポートから～</p> <p>○ 医療安全における薬剤師の役割</p> <p>○放射線診療の正当化と患者への情報提供</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有 ）</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- インシデント報告の収集と分析
- 医療安全管理委員会における重大事故等に対する対策の検討
- 内容分析を踏まえたワーキンググループの設置
- M&Mカンファレンスにおける、多職種・多診療科で今後の方向性の議論
- 臨床研究監視委員会において、インシデントレポートの確認
- ICノート・病状説明テンプレートの導入による患者説明の充実

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 1 院内感染対策のための指針の策定上	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染の予防、教育活動、発生時の対応等及び抗菌薬の適正使用に関して審議・実施をするため感染対策委員会を置く。 ○感染対策委員会と連携し、医療関連感染の予防、教育活動及び医療関連感染発生時に速やかに対応するため、また、抗菌薬を適正に使用するため、管理・指導を行うことを目的として、感染制御部を置く。 ○医療関連感染の防止・対策に資するため、感染対策チームを置く。 ○院内の抗菌薬適正使用に資するため、抗菌薬適正使用支援チームを置く。 ○職員に対する研修に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策や、抗菌薬使用の適正化について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。 (2) 感染対策に関する職員研修は、就職時の初期研修のほか、全職員および職種別対象を年2回以上開催する。抗菌薬適正使用に関する職員研修は、年2回程度開催する。 (3) 研修の開催結果を記録・保存する。 ○感染症の発生状況の報告に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> MRSA等の感染を防止するため、「院内感染現況報告」を週1回程度作成し、感染制御部にて確認・検討を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。また、検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。 ○院内感染発生時の対応に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> 異常発生時は、その状況および患者への対応等を病院長に報告する。感染制御部にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに、状況に応じ委員会を開催する。 改善策を実施するために感染制御部・対策チームを中心に全職員への周知徹底を図る。 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および教育・研修等を行った。 ○院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行った。 ○医療現場における感染防止対策に関する取組みの評価を行った。 ○新型コロナウイルスに関する対策の策定、情報共有を行った。 ○抗菌薬サーベイランスについて報告を行った。 ○抗菌薬適正使用プログラムについて協議を行い、運用を開始した。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年17回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p>	

- 病院全職員を対象とした院内感染、感染症及び抗菌薬適正使用等に関する研修
- 手指衛生実習
- 標準予防策と感染経路別予防策（COVID-19含む）
- 基本的な感染対策
- PPE着脱講習
- 医療機関における薬剤耐性（AMR）対策の基本
- 職業感染対策

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 医療現場の感染対策に関する環境整備の定期的な確認及び指導。
- (2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供。
- (3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める。
- (4) エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。
- (5) 平日は感染制御部医師、看護師、薬剤師、検査技師にて微生物ミーティングを行い、院内の医療関連感染の情報収集、分析を行っている。
- (6) デバイスに関連した感染症の発生状況を把握し、医療関連感染対策防止対策を推進するためにデバイスサーベイランス（一般病棟、重症系）を実施している。
- (7) 広域抗菌薬開始症例のレビューや感染対策に関わる問題の共有を行い、必要時、感染症内科の介入や感染制御部が現場に赴き、適切な感染防止対策が実施されるよう伝達、指導を行っている
- (8) 耐性菌検出ベースラインを算出しアウトブレイクの予兆を早期に発見し対応している。
- (9) 感染経路別予防策は医療端末の病棟マップと病室前に表示し、全職員が把握できるように工夫している。
- (10) 標準予防策の遵守や个人防护具の着用については、全職員研修および新入職者研修にて教育するとともに、病室前に防護具を設置し、職員が適切に使用できるように整備している。
- (11) 抗菌薬適正使用の推進として血液培養陽性例の確認とフィードバック、感染症コンサルテーション診療、広域抗菌薬届出制、一部抗MRSA薬許可制等を導入している。
- (12) 検査診断の適正化として、血液培養施行状況のモニタリングとフィードバックを実施し、感染症検査全般の見直しと整備、迅速遺伝子診断を導入した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 全職員研修を以下の演題にて行った。 ○医療安全における薬剤師の役割 ○未承認新規医薬品等の使用について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用、購入 ○医薬品の管理（麻薬等の管理方法等） ○入院、外来への医薬品の供給・使用・管理 ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取扱い ○部門（救急部、手術部、輸血部、化学療法部など）における医薬品の使用・管理など ○他施設（病院等、薬局等）との連携 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○Fampyra 10mg（海外輸入品）（脊髄小脳失調症6型（SCA6）） ○QALSODY（カルソディ）注（海外輸入品）（SOD1 遺伝子変異を有する筋萎縮性側索硬化症） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供 ○鎮静剤の使用に関し、院内ワーキングにて審議中 ○未承認新規医薬品等評価委員会へ申請していない医薬品の適応外使用・禁忌使用の情報収集のための体制を確立、医薬品の適正使用についてモニタリングを継続している 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年28回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法 ○除細動装置 ○人工呼吸器の安全管理 等 ○医療機器の安全管理について 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ○人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置 等 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： 該当なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・責任者の資格（医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>○医療安全管理責任者は、医療安全管理部からの報告を受けるとともに、医療安全管理委員会に委員として出席し、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理委員会及び医療放射線安全管理委員会の報告を受ける体制となっている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○薬剤部 医薬品情報室において情報を整理、集約し、医薬品安全性情報を周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1) 未承認薬品・適応外使用医薬品については、治験・臨床研究担当薬剤師が臨床試験管理センター（2024年10月～ヘルスサイエンスR&Dセンター）から当該審査委員会審査結果・緊急審査結果の情報を受け、次の手順で実施する。</p> <p>2) 審査結果内容に準じ、必要な場合には電子カルテ薬品マスターをDI室（国内承認薬）または治験薬管理室（国内未承認薬）に作成依頼する。</p> <p>3) 未承認新規医薬品等評価委員会で承認された未承認等医薬品に関する情報は、電子カルテ薬剤部内の共有フォルダに格納し、薬剤部員に周知する。</p> <p>4) 未承認等医薬品の使用状況について、薬剤部担当者が定期的に確認し医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種：薬剤師）（所属：肝胆膵外科，職種：医師）</p> <p>（所属：救命救急センター，職種：医師）（所属：顎関節症外来，職種：歯科医師）</p> <p>（所属：クオリティ・マネジメント・センター，職種：医師）（所属：呼吸器内科，職種：医師）</p> <p>（所属：心臓血管外科，職種：医師）（所属：口腔外科，職種：歯科医師）</p> <p>（所属：脳神経外科，職種：医師）（所属：手術部，職種：医師）</p> <p>（所属：救命救急センター，職種：医師）（所属：歯科心身医療科，職種：歯科医師）</p> <p>（所属：集中治療部，職種：医師）（所属：MEセンター，職種：臨床工学技士）</p> <p>（所属：統合診療機構，職種：看護師）（所属：看護部，職種：看護師）</p>	

(所属：看護部，職種：看護師) (所属：薬剤部，職種：薬剤師)	
(所属：薬剤部，職種：薬剤師) (所属：医療情報部，職種：薬剤師)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：IC委員会において、ICの取得状況とモニタリングの内容について報告を行っている。また、死亡退院事例検証においてICの有無についてのチェックを行い、不十分なものについて診療科への確認を行っている。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録監査要領・診療録監査実施要項に基づき、今年度からは年2回（システムリプレイスを控えていることから2024年は前期のみ）、入院患者から各診療科のカルテを任意に抽出し、医師・歯科医師による同僚監査および各コメディカル（看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、診療情報管理士）による診療録監査を実施、結果については病院運営会議で報告し、各診療科へもフィードバックしている。尚、退院サマリーについては通年全件監査を行っている。 また学内HP、保険診療講習会等で診療録記載の留意点を指導・周知している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（13）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（1）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容： ○医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの方策及び研修等を行う。 ○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。 ○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。 ○医療の質評価を行うクオリティ・マネジメント・センターと医療安全管理部が共同して作成した医療安全QI：30指標、国立大学附属病院医療安全管理協議会の医療安全指標：58指標、死亡退院事例検証会で計測している指標：20指標を計測している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 21 件）、及び許可件数（ 20 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）

・活動の主な内容：

○診療科長から担当部門長に対し、高難度新規医療技術の提供の実施に関する相談・申請があった場合、当該医療技術が高難度新規医療技術に該当するか一義的判断をする。

○当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求める。

○評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等について決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。

○高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した場合その他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。

○高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が高難度新規医療技術規則等を遵守して高難度新規医療技術の提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結果を報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 54 件）、及び許可件数（ 53 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）

・活動の主な内容：

○未承認新規医薬品等の提供の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求めること。

○評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の医療提供の実施の適否、使用条件等について決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。

○未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した場合、又はその他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。

○未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が未承認新規医薬品等規則等を遵守して未承認新規医薬品等の医療提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結果を報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年431件
 - ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年408件
 - ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- 医療安全に係る各委員会からの説明と報告を受け、内容の精査を行う。
- 医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。
- 安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討を行う。
- 安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。
- M&Mカンファレンスの開催 等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：大阪大学医学部附属病院））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：大分大学医学部附属病院））
- ・技術的助言の実施状況

技術的助言事項についてはなし。

体制面において下記の助言あり。

様々な取り組みを限られた人員で行っており、過重負荷になっている可能性があります。医療職や事務職などでの人員増をご検討ください。また医療安全管理部の部屋も手狭となっています。面談や打ち合わせなどをするスペースが必要ではないかと思しますので、併せてご検討ください。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者相談室を設置し、患者や家族からの相談や申し出に対応している。

対応内容については、連携メーリングリストを使用して迅速な情報共有を行っている。

対応経過については、日常的に患者相談室から医療安全管理部に報告を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

（医療安全）

2023年度における医療安全に関わる職員研修（安全管理研修）は全2回の実施であった。

【第1回】7/11：ライブ配信、7/21～8/31：Eラーニングにて実施

「医療安全のさらなる推進と向上を目指して」「医療機器の安全管理」

「医療安全における薬剤師の役割」「放射線診療の正当化と患者への情報提供」

【第2回】11/14～翌年1/5：Eラーニングにて実施

「なぜ医療安全が必要か 本院の取り組み」「未承認新規医薬品等の使用について」

また、新規採用者及び中途採用者に対しては、以下の通り医療安全に関わる研修を実施した。

【新規採用者】4/3～4/7：Eラーニングにて実施

「東京医科歯科大学病院におけるリスクマネジメント」

【中途採用者】随時：動画視聴形式にて実施
「東京医科歯科大学病院におけるリスクマネジメント」
(感染対策)

2023年度における感染対策に関わる全職員研修は全2回の実施であった。

- ・感染対策・抗菌薬適正使用研修（第1回）「今こそ院内感染対策を見直そう」「標準予防策 当院での具体的な対応方法」「个人防护具の着脱方法」「抗菌薬適正使用と薬剤耐性」（5/9～6/30の期間、Eラーニングにて実施）
- ・感染対策研修（第2回）「感染症流行の現状」「標準予防策（手指衛生）と経路別予防策の基本的な事項」「薬剤耐性と病院内で求められること」（11/14～翌年1/5の期間、Eラーニングにて実施 医療安全管理研修と同時開催）

全職員研修以外に、職種別研修も実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：2023年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者：2023年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者：2023年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者：2023年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構、一般病院3 (Ver. 2)、2022年9月14日～16日に受審し、2023年3月10日付けで条件付き認定を受けた。2024年2月9日付で条件付き認定が解除された。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

令和 5年 3月10日にHPに掲載

・評価を踏まえ講じた措置

① 臨床倫理委員会の組織を大学本部から病院直轄へ変更し、臨床倫理コンサルテーションチームを発足し、日々、臨床倫理的課題に対応している。

② SSI サーベイランスの対象手術を2023年4月から食道外科手術、同年6月から産婦人科手術にも拡大し実施している。当該診療科と連携し、消化器領域（大腸肛門外科、食道外科）、循環器領域

(心臓血管外科)、婦人科領域の SSI サーベイランスを実施している。

一般病棟でのデバイスサーベイランスをシステムティックに実施すべく電子カルテ（看護師が入力する経過表入力マスタ項目）および感染対策支援システムの改修、全看護師対象としたサーベイランスの目的、方法を再教育のうえ、2023 年 3 月から試行的に実施した。同年 3 月の試行結果を受けて、再度電子カルテ、感染対策支援システムの微修正を行い、同年 4 月から全病棟のデバイスサーベイランスを本格的に稼働させた。また、経過表入力に適正にされているかの記録監査とデータの精度管理の仕組みを構築し、実施した。

③ 外来・病棟において抗がん剤使用時の観察事項を含む記録テンプレートの試行を実施。2023 年 4 月 1 日からの全部署でのテンプレート使用開始している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

1. 医療法第10条に定める管理者の要件を満たす医師であること。

2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有していること。

具体的には、医療安全管理業務の経験や、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有する者

3. 病院管理運営に必要な資質・能力を有していること。

具体的には、本院又は他院における組織管理経験を有し、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者

4. 本院の理念と実践に深い理解があること。とりわけ以下の点について深い理解があること。

- ① 働き方改革

- ② チーム医療

- ③ 公的医療制度

- ④ 地域連携

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無）

- ・ 公表の方法

大学HPにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・ <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 大学HPにて公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院内諸規則の制定改廃に関する事項</p> <p>(2) 病院内の人事に関する事項</p> <p>(3) 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項</p> <p>(4) その他病院の運営に関する重要事項・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>会議資料配付システム、資料共有システムにより周知</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・公表の方法</p> <p>大学HPにて公表</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 ((有)・無)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
藤井 靖久	○	医師	病院長/泌尿器科長
新田 浩		歯科医師	首席副病院長 (歯科統括) / 歯科総合診療科長
宮崎 泰成		医師	副病院長 (医療安全) ※筆頭/呼吸器内科長/ 快眠センター長/長寿・健康人生推進科長/長 寿・健康人生推進センター長
大野 京子		医師	副病院長 (診療・地域連携) / 眼科長
堤 剛		医師	副病院長 (働き方改革) / 耳鼻咽喉科長
前原 健寿		医師	副病院長 (手術・先進医療) / 脳神経外科長
笛木 賢治		歯科医師	副病院長 (臨床研究・教育) (歯系) / 義歯科 長
浅香 えみ子		看護師	副病院長 (看護・サービス・環境整備) / 看護 部長

笹野 哲郎		医師	病院長補佐（診療整備・内科）/循環器内科長
絹笠 祐介		医師	病院長補佐（診療整備・外科）/大腸・肛門外科長/低侵襲医療センター長
高橋 弘充		薬剤師	病院長補佐（メディカルスタッフ）
永田 将司		薬剤師	病院長補佐（薬剤）/薬剤部長
藍 真澄		医師	病院長補佐（診療報酬）/医療情報部（医科部門）長/保険医療管理部長/臨床研究監視室長
田村 郁		医師	病院長補佐（医療連携・広報）/医療連携支援センター長
小池 竜司		医師	病院長補佐（臨床研究）/臨床試験管理センター長（2024年10月～ヘルスサイエンス R&Dセンター長）
工藤 篤		医師	病院長補佐（安全管理）/医療安全管理部長
具 芳明		医師	病院長補佐（感染）/感染症内科長/感染制御部長
森下 幸治		医師	病院長補佐（救命救急）/救急科長/救命救急センター長
若林 健二		医師	病院長補佐（集中治療・ベッドコントロールセンター）/集中治療部長/ベッドコントロールセンター長
植木 穰		医師	病院長補佐（災害）/災害危機管理部長
武内 寛明		その他	病院長補佐（ウイルス制御）
秋葉 泰樹		事務職員	病院長補佐（経営改善）
金澤 学		歯科医師	病院長補佐（施設整備）（歯系）/歯科技工部長/先端歯科診療センター長
原田 浩之		歯科医師	病院長補佐（病棟）/口腔外科長
前田 茂		歯科医師	病院長補佐（手術・医歯連携）（歯系）/歯科麻酔科長
小野 卓史		歯科医師	病院長補佐（災害）（歯系）/矯正歯科長
森 毅彦		医師	血液内科長/がん先端治療部長
保田 晋助		医師	膠原病・リウマチ内科長
山田 哲也		医師	糖尿病・内分泌・代謝内科長
蘇原 映誠		医師	腎臓内科長/難病診療部長
橋本 正良		医師	総合診療科長
岡本 隆一		医師	消化器内科長
浜本 康夫		医師	臨床腫瘍科長
佐藤 信吾		医師	緩和ケア科長
池田 貞勝		医師	がんゲノム診療科長

吉田 雅幸		医師	遺伝子診療科長
藤原 尚志		医師	食道外科長
徳永 正則		医師	胃外科長
小田 剛史		医師	乳腺外科長
岡本 健太郎		医師	小児外科長
工藤 敏文		医師	末梢血管外科長
赤星 径一		医師	肝胆膵外科長
藤田 知之		医師	心臓血管外科長
大久保 憲一		医師	呼吸器外科長
朝蔭 孝宏		医師	頭頸部外科長
大橋 健一		医師	病理診断科長/病理部長
沖山 奈緒子		医師	皮膚科長
森 弘樹		医師	形成・美容外科長
田中 顕太郎		医師	再建形成外科長
吉井 俊貴		医師	整形外科長
古賀 英之		医師	運動器外科長
酒井 朋子		医師	リハビリテーション科長/リハビリテーション部長
鹿島田 健一		医師	小児科長
宮坂 尚幸		医師	周産・女性診療科長/周産期母子医療センター長
横田 隆徳		医師	脳神経内科長
壽美田 一貴		医師	血管内治療科長
高橋 英彦		医師	精神科長
竹内 崇		医師	心身医療科長/メンタルヘルス・リエゾンセンター長
内田 篤治郎		医師	麻酔・蘇生・ペインクリニック科長/手術部長
吉村 亮一		医師	放射線治療科長
立石 宇貴秀		医師	放射線診断科長/放射線部長
大塚 和朗		医師	光学医療診療部長
柳下 和慶		医師	高気圧治療部長/スポーツ医学診療センター長
岩本 勉		歯科医師	小児歯科長
島田 康史		歯科医師	むし歯科長
岩田 隆紀		歯科医師	歯周病科長
丸川 恵理子		歯科医師	口腔インプラント科長
戸原 玄		歯科医師	摂食嚥下リハビリテーション科長
竹内 康雄		歯科医師	口腔健康管理科長

依田 哲也		歯科医師	口腔外科副科長
豊福 明		歯科医師	歯科心身医療科長
三浦 雅彦		歯科医師	歯科放射線科長
森山 啓司		歯科医師	矯正歯科副科長
興地 隆史		歯科医師	むし歯科副科長
猪越 正直		歯科医師	義歯科副科長
中川 量晴		歯科医師	摂食嚥下リハビリテーション科副科長
渡邊 裕		歯科医師	歯科口腔外科副科長
東田 修二		医師	検査部長
久保田 英雄		医師	材料部長
内藤 省太郎		医師	血液浄化療法部長
倉島 直樹		臨床工学技士	MEセンター長
宮崎 晋介		医師	不整脈センター長
川田 研郎		医師	臨床栄養部長
関矢 一郎		医師	輸血・細胞治療センター長
足達 淑子		歯科衛生士	歯科衛生保健部長
松尾 浩一郎		歯科医師	オーラルヘルスセンター長
石川 智則		医師	リプロダクションセンター長
岡田 英理子		医師	総合教育研修センター長
伏見 清秀		医師	クオリティ・マネジメント・センター長
岡田 卓也		医師	国際医療部長
石黒 めぐみ		医師	臨床研究中核病院設置準備室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
大学HPにて公表
- ・ 規程の主な内容
3 病院長は、次の権限を有する。
 - ・ 副病院長、病院長補佐、第5条に定める組織の長、当院病院の院内組織に関する細則（平成16年4月1日制定）第5条に規定する各診療科の長の任命及び解任に関すること。ただし、看護部及び医療技術職員の役職に関する要項（平成25年8月1日制定）に基づき役職が付されている医療技術職員については除く。
 - ・ 病院予算の執行に関すること。
 - ・ 病院の診療許可に関すること。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長を若干名置き、本院の管理運営等に関する企画・立案に関わるとともに、病院の教育・研究及び診療に関わる職務を分担する。分担する職務については病院長が定める。
病院長補佐を若干名置き、次の職務の企画立案等を検討し、提言する。
 - (1) 教育・研修に関すること。
 - (2) 研究・診療に関すること。
 - (3) 組織・管理運営・経営に関すること。
 - (4) 地域医療・企画広報・危機管理に関すること。
 - (5) 環境整備・医療サービスに関すること。事務部に経営企画課を置き、理事、病院長、副病院長、看護部長、事務部長、事務スタッフで構成された企画戦略会議を実施し、病院の将来構想および経営戦略に関することを審議することにより、管理者をサポートしている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立大学附属病院長会議による、病院長のリーダーシップ及び病院長を支えるサポート体制の強化等、病院執行部のガバナンス強化を目的とした「病院長塾」、「病院経営次世代リーダー養成塾」に病院長、副病院長等が参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。また、監査委員会は、学長及び病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を述べる。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：本学及び本院のHPに掲載。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中島 勸	虎の門病院 医療安全部 部長	○	虎の門病院医療安全部長として、医療安全に対し豊富な経験と知識を有している。	有・ 無	1
児玉安司	新星総合法律事務所 弁護士 国立がん研究センター 理事 医師		医療安全の問題に取り組むなど、医学及び法学の立場から幅広い視野視点を有し、医療安全に関し精通している。	有・ 無	1
豊田 郁子	NPO 法人 架け橋 理事長		患者・家族と医療をつなぐ NPO 法人架け橋理事長として、患者・家	有・ 無	2

			族と医療従事者のより良い関係の促進やコミュニケーションに関する豊富な知見を有している。		
岡田 就将	本学政策科学分野 教授 本学寄附講座 東京都地域医療政策学講座 寄附講座教授		日本における保険医療政策に対し豊富な経験と知識を有している。	◎・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

監査室による内部監査において、管理者等の法令適合状況を検証

・ 専門部署の設置の有無（有）

・ 内部規程の整備の有無（有）

・ 内部規程の公表の有無（有）

・ 公表の方法：大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 大学の役員会で病院の予算執行状況等管理運営に関する重要事項を審議することとする。 ・ 会議体の実施状況（ 年30回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年8回（うち代理出席3回） ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学HPにて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
田中 雄二郎	学長	○	有
廣川 和憲	理事・CFO（財務・資産活用担当）		有
内田 信一	理事（医療担当）		有
古川 哲史	理事（研究・改革担当）		有
若林 則幸	理事（教育担当）		有
東條 有伸	理事（産官学連携・教員人事担当）		有
山田 素子	理事（事務総括・男女共同参画・障害者雇用担当）		有
高田 正雄	理事（大学統合担当・非常勤）		無
今戸 智恵	理事（ガバナンス改革担当・非常勤）		無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ）・ 通報件数（年0件）・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ）・ 周知の方法：一斉メール、ホームページ、病院スタッフマニュアル

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>当院では、パンフレットやホームページにより、病院の理念、目標、案内、各診療科等の治療内容及び統計データについて触れ、より多くの方々に情報発信を行っている。</p> <p>また、広報誌オアシス及び市民公開講座を定期的に作成、開催するなどして、当院の果たす役割を伝えている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>1. アレルギー疾患先端治療センター</p> <p>内科・小児科・皮膚科・耳鼻科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患の治療を行う。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することが可能。</p> <p>2. 稀少疾患先端医療センター</p> <p>様々な臓器に症状がおこる稀少難病に対して、その稀少難病毎に、内科・小児科・外科・耳鼻科・皮膚科等の複数の診療科の専門医が横断的に密接に協力して診療を行うことにより、全人的医療の提供が可能となる。</p> <p>3. がん先端治療部</p> <p>がん治療の進歩は目覚ましく、仕事をしながら治療を継続する長期生存患者が増えており、こうした患者を支援していくための横断的な診療・支援部門を設置することにより、患者・</p>	

家族に対する支援を適切かつ迅速に提供することができる。

4. オーラルヘルスセンター

入院中の口の健康増進を支援するため、口腔外科、歯周病、老年歯科、歯科麻酔、障害歯科等の専門医と歯科衛生士で構成され、病院横断的に多くの診療科や看護部などと連携して口腔ケアの推進に取り組んでいる。